

令和6年度
事業報告書

自 令和 6年 4月 1日
至 令和 7年 3月 31日

学校法人 九州文化学園

目 次

内容

I. 学校法人の概要	1
1. 基本情報	1
2. 建学の精神	1
3. 学校法人の沿革	1
4. 設置する学校・学部・学科等	3
5. 学校・学部・学科等の学生数の状況	4
6. 収容定員充足率	4
7. 役員の概要	5
8. 評議員の概要	6
9. 教職員の概要	7
10. 中期計画における基本方針と重点戦略	8
II. 事業の概要	9
1. 長崎国際大学	9
2. 長崎短期大学	30
3. 九州文化学園高等学校	44
4. 九州文化学園中学校	52
5. 九州文化学園小学校	58
6. 認定こども園九州文化学園幼稚園	64
7. 九州文化学園調理師専門学校	73
8. 九州文化学園歯科衛生士学院	82
9. 法人事務局	91
10. 学園全体	96
11. 法人全体の計画の進捗・達成状況	97
III. 財務の概要	99
1. 決算の概況	99
2. その他	104
3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	106
IV. 令和5年度 計算書類	107
1. 資金収支計算書	108
2. 活動区分資金収支計算書	109
3. 事業活動収支計算書	110
4. 貸借対照表	111
5. 財産目録	112

I. 学校法人の概要

1. 基本情報

法人の名称	学校法人九州文化学園
主たる事務所の住所等	【学校法人九州文化学園 法人本部】 〒859-3243 長崎県佐世保市ハウステンボス町 4 番地 3 TEL 0956-27-0666 FAX 0956-27-0678
ホームページアドレス	https://www.kyubun.ed.jp/

2. 建学の精神

この法人は、教育基本法・学校教育法・就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に従い、学校教育及び保育を行い、九州文化学園創設の精神に則り、高い知性と豊かな教養、優れた徳性と品格、たくましい意志と健康な身体の備わった人間を育成することを目的とする。

(学校法人九州文化学園 寄附行為 第 3 条「目的」より)

3. 学校法人の沿革

年月	事項
昭和 20(1945)年 11 月	財団法人九州文化学院設立申請(校地：大黒町 元海軍工廠工員宿舍)
12 月	財団法人九州文化学院創立(12 月 15 日、創立記念日)
昭和 22(1947)年 2 月	九州女子専門学校認可され、法人設立(2 月 28 日)
昭和 23(1948)年 9 月	校地：矢岳移転
昭和 26(1951)年 2 月	学校法人九州文化学園へ組織変更(2 月 24 日)
3 月	九州文化学園高等学校設置認可(3 月 24 日)
4 月	九州文化学園高等学校開校
昭和 29(1954)年 6 月	九州文化学園幼稚園設置認可(6 月 24 日)
昭和 41(1966)年 3 月	九州文化学園短期大学設置認可(3 月 18 日)
昭和 41(1966)年 4 月	九州文化学園短期大学開学(食物科設置)
昭和 46(1971)年 3 月	九州文化学園調理師専修学校設置認可(3 月 10 日)
昭和 47(1972)年 4 月	九州文化学園短期大学幼児教育学科設置
昭和 50(1975)年 11 月	九州文化学園創立 30 周年記念式典開催
昭和 53(1978)年 1 月	初代理事長 安部芳雄(創設者)逝去(1 月 31 日)
昭和 56(1981)年 2 月	九州文化学園歯科衛生士学院設置認可(2 月 26 日)
昭和 60(1985)年 4 月	九州文化学園短期大学を長崎短期大学に名称変更、椎木キャンパスへ移転
平成元(1989)年 4 月	長崎短期大学英語科、幼児教育学科専攻科福祉専攻(後に廃止)設置
平成 7(1995)年 4 月	長崎短期大学英語科専攻科英語専攻設置(後に廃止)
11 月	九州文化学園開設 50 周年記念式典開催・50 周年記念誌発行
平成 8(1996)年 4 月	九州文化学園高等学校衛生看護専攻科開設 長崎短期大学食物科専攻科食物栄養専攻開設(後に廃止)
平成 11(1999)年 12 月	長崎国際大学設置認可(12 月 22 日)
平成 12(2000)年 4 月	長崎国際大学開学(校地：ハウステンボスキャンパス) 人間社会学部国際観光学科・社会福祉学科開設 長崎短期大学幼児教育学科を保育学科に名称変更
平成 14(2002)年 4 月	長崎国際大学健康管理学部健康栄養学科開設 長崎短期大学を男女共学化
平成 16(2004)年 4 月	長崎国際大学大学院人間社会学研究科観光学専攻・社会福祉学専攻(修士課程)開設
平成 18(2006)年 4 月	長崎国際大学薬学部薬学科(6 年制)、大学院健康管理学研究科健康栄養学専攻(修士課程) および大学院人間社会学研究科地域マネジメント専攻(博士後期課程)開設 九州文化学園高等学校を椎木キャンパス、九州文化学園調理師専修学校と九州文化学園

年月	事項
	歯科衛生士学院を藤原キャンパス、九州文化学園幼稚園を上町キャンパス、法人事務局をハウステンボス町へ各々移転
	九州文化学園高等学校を男女共学化
	九州文化学園歯科衛生士学院を 3 年制度に変更
平成 20(2008)年 4 月	長崎短期大学専攻科保育専攻開設
平成 22(2010)年 4 月	長崎短期大学保育学科保育専攻および介護福祉専攻開設
平成 25(2013)年 1 月	旧矢岳キャンパス(佐世保中央 IC)記念碑建立
4 月	長崎短期大学英語科を国際コミュニケーション学科へ名称変更
平成 26(2014)年 4 月	長崎国際大学大学院薬学研究科医療薬学専攻(4 年制博士課程)開設
平成 27(2015)年 4 月	九州文化学園幼稚園を認定こども園九州文化学園幼稚園(幼保連携型)に変更開園
11 月	九州文化学園創立 70 周年記念式典・祝賀会 開催
12 月	70 周年記念誌 発行
平成 28(2016)年 4 月	九州文化学園調理師専修学校を九州文化学園調理師専門学校に校名変更し、2 年専門課程開設
平成 30(2018)年 9 月	九州文化学園小学校・九州文化学園中学校設置認可(9 月 10 日)
平成 31(2019)年 4 月	九州文化学園小学校・九州文化学園中学校開設(校地：花園キャンパス)
令和 2(2020)年 4 月	長崎短期大学国際コミュニケーション学科、食物科、保育学科(2 専攻)を改組し、地域共生学科 4 コース(食物栄養・製菓・介護福祉・国際コミュニケーション)、保育学科(1 専攻)へ変更
令和 3(2021)年 3 月	九州文化学園 SDGs 推進宣言(3 月 17 日)
令和 4(2022)年 3 月	第 1 回九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント開催(3 月 17 日)
令和 4(2022)年 4 月	九州文化学園高等学校 普通科を S アカデミー・S グローバル・総合進学・キャリアデザインの 4 コース制に変更
令和 5(2023)年 3 月	第 2 回九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント開催(3 月 17 日)
令和 5(2023)年 4 月	九州文化学園歯科衛生士学院を男女共学化
令和 6(2024)年 2 月	第 2 代理事長 安部芳樹 逝去(2 月 3 日)
令和 6(2024)年 3 月	第 3 回九州文化学園 SDGs 推進宣言の日記念イベント開催(3 月 15 日)
令和 6(2024)年 4 月	令和 6 年春の叙勲において、第 3 代理事長 安部直樹「旭日中綬章」受章
	(現在に至る)

4.設置する学校・学部・学科等

学校等の名称	住所等
長崎国際大学	● 人間社会学研究科 - 観光学専攻[修士課程] - 社会福祉学専攻[修士課程] - 地域マネジメント専攻[博士後期課程] ● 健康管理学研究科 - 健康栄養学専攻[修士課程] ● 薬学研究科 - 医療薬学専攻[4 年制博士課程] ● 人間社会学部 - 国際観光学科、社会福祉学科 ● 健康管理学部 健康栄養学科 ● 薬学部 薬学科[6 年制]
長崎短期大学	● 地域共生学科 - 食物栄養コース、製菓コース - 介護福祉コース - 国際コミュニケーションコース ● 保育学科 ● 専攻科保育専攻
九州文化学園高等学校	● 普通科 - S アカデミーコース - S グローバスコース - 総合進学コース - キャリアデザインコース ● 食物調理科 ● 衛生看護科 ● 保育福祉科 - 保育コース、福祉コース
九州文化学園高等学校衛生看護専攻科	
九州文化学園小学校・九州文化学園中学校	
認定こども園九州文化学園幼稚園	
九州文化学園調理師専門学校	
九州文化学園歯科衛生士学院	

5.学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和 6(2024)年 5 月 1 日現在)

	学校名	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
長崎国際大学	人間社会学部	260 人	265 人	1,100 人	1,112 人
	健康管理学部	80 人	69 人	340 人	241 人
	薬学部	120 人	90 人	720 人	641 人
	人間社会学研究科	23 人	17 人	49 人	39 人
	健康管理学研究科	4 人	0 人	8 人	2 人
	薬学研究科	3 人	1 人	12 人	6 人
長崎短期大学	地域共生学科	135 人	132 人	270 人	278 人
	保育学科	100 人	76 人	200 人	158 人
	専攻科保育専攻	10 人	7 人	20 人	11 人
九州文化学園高等学校	普通科	120 人	115 人	320 人	346 人
	食物調理科	40 人	43 人	120 人	144 人
	保育福祉科	80 人	66 人	240 人	211 人
	衛生看護科	40 人	45 人	120 人	151 人
	衛生看護専攻科	45 人	54 人	90 人	112 人
九州文化学園中学校		40 人	17 人	120 人	51 人
九州文化学園小学校 ※1		40 人	31 人	240 人	157 人
認定こども園九州文化学園幼稚園 ※2		—	—	270 人	213 人
九州文化学園調理師専門学校		40 人	19 人	80 人	31 人
九州文化学園歯科衛生士学院		40 人	29 人	120 人	95 人

※1 小学校の収容定員は、学年進行(5 学年)までの定員

※2 幼稚園の収容定員は、1 号認定、2 号認定、3 号認定の各利用定員の合計値を記載

6.収容定員充足率

(毎年度 5 月 1 日現在)

学校名	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度	令和 5 (2023) 年度	令和 6 (2024) 年度
長崎国際大学	107.7%	103.5%	97.8%	95.7%	92.3%
長崎国際大学大学院	50.7%	53.6%	59.4%	58.0%	68.1%
長崎短期大学	97.1%	85.1%	87.2%	98.5%	91.2%
長崎短期大学専攻科保育専攻	55.0%	50.0%	45.0%	45.0%	55.0%
九州文化学園高等学校	100.9%	105.6%	109.7%	107.5%	101.4%
九州文化学園高等学校衛生看護専攻科	106.7%	94.4%	82.2%	116.7%	124.4%
九州文化学園中学校	52.5%	50.8%	50.0%	46.6%	42.5%
九州文化学園小学校	48.8%	55.8%	61.3%	60.5%	65.4%
認定こども園九州文化学園幼稚園	90.7%	85.6%	84.4%	73.7%	78.9%
九州文化学園調理師専門学校	33.8%	31.3%	33.8%	33.8%	38.8%
九州文化学園歯科衛生士学院	78.3%	70.8%	73.3%	77.5%	79.1%

※ 九州文化学園高校は入学定員を平成 30(2018)年度より 20 人増。以降、各年度の収容定員は進行学年までの定員数の合計を分母として算定。また令和 4(2022)年度より 30 人増し、令和 6(2024)年度で定員増の学年進行完了。

※ 九州文化学園小学校・中学校は平成 31/令和元(2019)年度に開設。令和 6(2024)年度時点で完成年度。

※ 認定こども園九州文化学園幼稚園は利用定員を平成 30(2018)年度に 12 人増、平成 31/令和元(2019)年度に 6 人増。

7. 役員の概要

■理事(定数 6 人以上 9 人以内 現員 8 人)

(令和 6(2024)年 5 月 1 日現在)

役職	氏名	就任年月日	常勤・ 非常勤の別	主な現職等
理事長	安部 直樹	令和 6(2024)年 4 月 1 日	常勤	学校法人九州文化学園 理事長
常務理事	安部 雅隆	令和 4(2022)年 9 月 30 日	常勤	学校法人九州文化学園 常務理事・法人本部長
理事	中村 誠司	令和 6(2024)年 4 月 1 日	常勤	学校法人九州文化学園 長崎国際大学学長
	横田 正俊	令和 5(2023)年 7 月 1 日	常勤	学校法人九州文化学園 九州文化学園高等学校校長
	柿本 雄二	令和 5(2023)年 7 月 5 日	常勤	学校法人九州文化学園 法人事務局長
	綾部 賢一郎	令和 3(2021)年 7 月 5 日	常勤	学校法人九州文化学園 長崎国際大学事務局長
	本岡 吉彦	令和 4(2022)年 2 月 6 日	非常勤	南風崎 MG レジデンス 代表取締役社長
	吉澤 俊介	令和 4(2022)年 6 月 27 日	非常勤	株式会社十八親和銀行 顧問

■監事(定数 2 人以上 3 人以内 現員 3 人)

(令和 6(2024)年 5 月 1 日現在)

役職	氏名	就任年月日	常勤・ 非常勤の別	主な現職等
監事	平木 博之	令和 4(2022)年 2 月 6 日	非常勤	元 銀行員
	松瀬 太郎	令和 5(2023)年 6 月 1 日	非常勤	元 公立高校校長
	川口 博樹	令和 4(2022)年 2 月 6 日	非常勤	株式会社サンエル会長

■責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の状況

見出名	規則条項	条文
責任の免除	学校法人九州文化学園寄附行為 第 8 章 第 47 条	役員が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員が賠償の責任を負う額から私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の議決によって免除することができる。
責任限定契約	学校法人九州文化学園寄附行為 第 8 章 第 48 条	理事(理事長、常務理事、業務を執行したその他の理事又はこの法人の職員でないものに限る。)又は監事(以下この条において「非業務執行理事等」という。)が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金 10 万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

契約名称	契約先	対象および契約概要
役員賠償保険	東京海上日動火災保険株式会社 (代理店：有限会社オフィス東海)	【対象】理事・監事・評議員、法人(調査費・第三者委員会費用のみ) 【概要】学校法人役員の任務懈怠による賠償責任(第三者或いは学校法人に対するもの)を補償する。

8.評議員の概要

(定数 13 人以上 19 人以内 現員 19 人)

(令和 6(2024)年 5 月 1 日現在)

役職	氏名	就任年月日	主な現職等(選任区分)
評議員	安部 直樹	令和 5(2023)年 7 月 5 日	学校職員
	安部 雅隆	令和 5(2023)年 7 月 5 日	学校職員
	木村 勝彦	令和 5(2023)年 7 月 5 日	学校職員
	川原 ゆかり	令和 5(2023)年 7 月 5 日	学校職員
	金子 圭一	令和 5(2023)年 7 月 5 日	学校職員
	大坂 良一	令和 5(2023)年 7 月 5 日	学校職員
	柿本 雄二	令和 5(2023)年 7 月 5 日	学校職員
	樋口 由美子	令和 5(2023)年 7 月 5 日	卒業生
	田渕 美紀	令和 5(2023)年 7 月 5 日	卒業生
	瓜生 陽子	令和 5(2023)年 7 月 5 日	卒業生
	大久保 美香	令和 5(2023)年 7 月 5 日	卒業生
	徳吉 由香	令和 5(2023)年 7 月 5 日	卒業生
	荒巻 桂二郎	令和 5(2023)年 7 月 5 日	卒業生
	本岡 吉彦	令和 5(2023)年 7 月 5 日	学識経験者
	久家 謙二	令和 5(2023)年 7 月 5 日	学識経験者
	口石 長次	令和 5(2023)年 7 月 5 日	学識経験者
	百津 真人	令和 5(2023)年 7 月 5 日	学識経験者
	顚原 秀子	令和 5(2023)年 7 月 5 日	学識経験者

9.教職員の概要

(令和6(2024)年5月1日現在)

■学長・学校長等

学校名	役職名	氏名
長崎国際大学	学長	中村 誠司
長崎短期大学	学長	安部 恵美子
九州文化学園高等学校	校長	横田 正俊
九州文化学園中学校	校長	橋本 信博
九州文化学園小学校	校長	橋本 信博

学校名	役職名	氏名
認定こども園九州文化学園幼稚園	園長	金子 圭一
九州文化学園調理師専門学校	校長	大坂 良一
九州文化学園歯科衛生士学院	学院長	大坂 良一

■長崎国際大学

	本務教員							兼務 教員数
	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	合 計	平均年齢	
人 間 社 会 学 部	15 人	10 人	16 人	5 人	1 人	47 人	51 歳	52 人
健 康 管 理 学 部	5 人	2 人	7 人	3 人	6 人	23 人	41 歳	
薬 学 部	23 人	9 人	11 人	5 人	2 人	50 人	49 歳	
合 計	43 人	21 人	34 人	13 人	9 人	120 人	48 歳	52 人

※理事長を人間社会学部の教授、学長を薬学部教授、副学長を人間社会学部の教授に算入。

■長崎短期大学

	本務教員							兼務 教員数
	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	合 計	平均年齢	
地 域 共 生 学 科	5 人	1 人	7 人	7 人	2 人	22 人	43 歳	57 人
保 育 学 科	6 人	3 人	1 人	3 人	0 人	13 人	51 歳	
合 計	11 人	4 人	8 人	10 人	2 人	35 人	46 歳	

※学長を保育学科の教授、副学長を保育学科の教授に算入。

■高等学校、小中学校、幼稚園

	本務教員					兼務 教員数
	教 諭	助 教 諭	講 師	合 計	平均年齢	
九 州 文 化 学 園 高 等 学 校	41 人	15 人	0 人	56 人	44 歳	36 人
九 州 文 化 学 園 中 学 校	9 人	0 人	1 人	10 人	44 歳	8 人
九 州 文 化 学 園 小 学 校	12 人	0 人	1 人	13 人	46 歳	6 人
認定こども園九州文化学園幼稚園	22 人	0 人	10 人	32 人	36 歳	0 人

※ 高等学校長、小中学校長、副校長、教頭、幼稚園園長、養護教諭をそれぞれの教諭に算入。

■専修学校

	本務				兼務 教員数
	教 員	講 師	合 計	平均年齢	
九州文化学園調理師専門学校	5 人	0 人	5 人	40 歳	51 人
九州文化学園歯科衛生士学院	7 人	0 人	7 人	42 歳	143 人

※ 校長兼学院長を学院に算入。

■事務職員

	本務		兼務 職員数
	職員数	平均年齢	
長 崎 国 際 大 学	66 人	46 歳	9 人
長 崎 短 期 大 学	12 人	48 歳	6 人
九 州 文 化 学 園 高 等 学 校	9 人	54 歳	0 人
九 州 文 化 学 園 中 学 校	2 人	38 歳	0 人
九 州 文 化 学 園 小 学 校	3 人	41 歳	0 人
認定こども園九州文化学園幼稚園	0 人	0 歳	2 人
九州文化学園調理師専門学校	0 人	—	1 人
九州文化学園歯科衛生士学院	0 人	—	0 人
法 人 事 務 局	16 人	45 歳	0 人
合 計	108 人	46 歳	18 人

10.中期計画における基本方針と重点戦略

■基本方針

1	成長力の確保	学園や各機関として、現状維持ではなく成長すること、またその原動力を確保することを目指す。
2	教育力の向上	学校として教育の質を向上すること、教育組織や教職員個々の能力を高めることを目指す。
3	約定返済の確実な履行	毎年度の事業収支や自己資金を目標通り確保し、借入金を約定通りに返済することのできる安定した財務体質を形成することを目指す。

■重点戦略

戦略区分		達成目標
戦略Ⅰ	建学の精神・理念に基づく人材養成と内部質保証の担保	① 建学の精神の教職員への浸透と共有、尊重する風土の形成 ② 建学の精神に基づく人的資源の確保・育成 ③ 本学園の教育について内部質保証のできる組織の形成
戦略Ⅱ	成長・発展のための教育改革とキャリア教育・支援の充実	① 継続的に成長・発展できる教育力や成長力の獲得 ② 伸長度合いを確認・検証できる教学や経営情報の見える化 ③ 社会に貢献できる人材を輩出するキャリアデザイン支援の構築
戦略Ⅲ	グローバル化と社会連携の強化、ステークホルダーとの関係強化	① With コロナ、After コロナ下でも実現できるグローバル化の構築 ② 地域と連携・協働した教育・研究・学生等支援体制の強化 ③ 保護者や卒業生、教職員 OB との関係性の強化
戦略Ⅳ	ICT 化と施設設備の充実による教育環境の魅力向上と経営の効率化	① ICT を活用した教育・研究環境の整備と教育改革の実施 ② ICT を活用した業務効率化の推進と利用者の意識改革の実施 ③ ICT 環境導入を実現できる資金確保策の実施
戦略Ⅴ	認知度やブランド力の向上と入学定員・収容定員の充足	① 認知度向上やブランドアップを効果的に推進する仕組みの構築 ② 教職員に対するインナーリレーション強化策の実施
戦略Ⅵ	財政基盤の安定と機動的な組織運営の強化	① 定員確保による学納金収入や補助金・寄付金・外部資金等の獲得による収入の最大化 ② 人件費や経費の効果的な支出と適正水準の維持 ③ 約定返済の確実な履行 ④ 法人本部および各設置校で機動的な組織運営を遂行できる体制の整備

Ⅱ. 事業の概要

1. 長崎国際大学

1) 経営理念・経営目標

経営理念	3S、speed、service、scientific に遂行する。
経営目標	様々なメソッドを用い広報活動の強化に努める。 With コロナを念頭に置き安全、安心の中で、合理的経営を図る。

2) 1年間の総括と評価

✓	教育活動においては、3 ポリシーに則った教育課程の質保証を強化し、学修成果の可視化と評価に基づく教育改善サイクルを確立した。特に、学生の主体的な学びを促進するアクティブラーニングの導入や、ICT を活用した教育手法の開発を推進した。加えて、グローバル化に対応した語学教育や異文化理解教育を充実させ、国際的な視野を持つ人材育成を目指した。また教育課程を適切に点検・評価し、学内外との連携強化を促進しながら、改革・改善を行った。
✓	学生募集・広報活動では、入学定員 532 人を目標に、定員管理を考慮しつつ学部・大学院、留学生・社会人等に対し、単独または連携による多様な募集活動を展開するとともに、「広報活動の基本方針」に従い、本学の取り組みや研究情報の発信強化、SNS 等の積極的な活用、地域社会に向けた幅広い情報発信を推進した。
✓	管理運営においては、本学の使命と目的達成に向け、「長崎国際大学ガバナンス・コード」および学長を中心とした教学ガバナンス体制の下、法令改正への迅速かつ適切な対応、実効性のある年次計画の策定とその着実な進捗管理、健全な財務基盤の確立を行った。加えて、教育機関としての社会的責任を果たすべく、公共性、信頼性、透明性を確保した大学運営を実施した。
✓	施設設備等に関しては、更新が必要な案件を整理し、教育・研究・学生生活の充実に必要な案件について、優先度と重要度を勘案し、計画的に整備を実施した。全施設に LED を導入したことで、燃料費の高騰による光熱水費の増加を最小限にとどめることができた。また、SDGs と連動した Society5.0 を見据え、教学の ICT 化と組織の生産性の確保、教職員のワークライフバランスの両立に寄与するシステムの導入についても検討を進めたが、現時点では未着手である。

3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

1	成長力の確保	✓ After コロナ時代における Society 5.0 の加速と SDGs に対応するため、建学の理念、教育の目的、3 ポリシーに基づき、「グローバル化と IT 化を推進できる人材育成」、「地域の拠点大学としての教育・研究活動推進」、「未来型学生の育成」の 3 つを柱に、学生一人ひとりの成長に焦点を当てた教育・学修支援を推進した。 ✓ 外国人留学生の受入れを一層促進し、そのキャリア形成を支援するため、長崎留学支援センターが主体である「留学生就職促進プログラム」の県北地域の拠点大学の役割を担った。
2	教育力の向上	✓ 建学の理念、教育の目的、3 ポリシーに基づき、学生一人ひとりの成長にフォーカスしたホスピタリティ・ループリック評価、学生と教員の面談等の教育・学修支援を推進した。
3	約定返済の確実な履行	✓ 入学定員の確保、外部資金、寄付金等の外部資金獲得に注力し収入の増加を図るとともに、計画的・効率的な経費執行により支出管理を徹底した結果、経常収支差額 265 百万円(7.4%)と中期計画における目標値 8.0%に 0.6%及ばなかった。

4) 経営改善(健全化)に関する成果

1	収入の増加	✓ 寄付金において戦略的に募集活動を強化した結果、受配者指定寄付金の配布申請額を含め前年度比+119 百万円となる 126 百万円を計上した。 ✓ 付随事業収入においても、受託事業収入の獲得強化を要因とし、前年度比+38 百万円となる 167 百万円を計上した。
2	支出の効率化	✓ 前年度に引き続き固定経費の見直しを図り、当年度においては教員住宅の集約により管理経費の削減を実施した。 ✓ 収支均衡を図るべく支出削減に努めた結果、教育経費において前年度比△98 百万円、管理経費において前年度比△45 百万円と削減した。
3	人員・業務の効率化	✓ 教職員の退職者の補充を最小限にとどめ、それぞれの業務見直しにより、組織全体の効率化を図った。
4	付加価値向上と広報強化	✓ 地理的にアジアに近い特性を活かし、グローバル化に対応した国際教育の拡充と国際的広報活動を強化を図った。

5) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略 I	【国際観光学科】

	✓ 今年度も本学の建学の精神・理念を反映した「国際観光学科3ポリシー」に基づいた教育を実践し、社会が求める人材育成を実現するため、少人数での専門演習を基礎とし、担当教員の省察、ポートフォリオを活用した学生情報の共有等を通じ、学生の学業進捗状況を学科レベルで把握、指導する体制を実践した。 【社会福祉学科】 ✓ 建学の精神及び理念を基盤に「社会福祉学科3ポリシー」に基づいた専門職養成を行うため、学科内各コース会議を通して教育の質向上を図っている。社会福祉士・介護福祉士・精神福祉士を目指す3つのコースに加え、コミュニティーコースの教育課程の再検討を行い、地域社会に貢献しうる福祉人材の育成を目指している。 【健康栄養学科】 ✓ 建学の精神・理念を理解し、それに基づいた教育・研究を行うための知識や技能を修得するため、新任研修やFD、各種研修会への積極的な参加を促し、各教員が研鑽に努めた。 【薬学科】 ✓ 新カリキュラム(4次カリキュラム)導入5年目が経過し、教育効果の検証を行いながらPDCAサイクルをもとに、建学の理念を身につけた地域社会へ貢献できる薬剤師を養成している。 ✓ 共用試験・国家試験対策として、外部講習会や演習科目による専門力の醸成を行った。 ✓ 基礎学力の向上および留年生対策として、薬学教育支援センターを中心に、学修支援体制を強化した。 ✓ 令和7(2025)年度の薬学教育認証評価受審に向けて、評価書のファーストドラフト作成および資料の準備を行った。 【人間社会学研究科】 ✓ 建学の精神と理念に基づき、社会が求める高度専門職業人および研究者の育成に対して、観光学・社会福祉学・地域マネジメントの3専攻で講義・研究指導、学位論文中間発表会などの教育活動を実施した。その結果、観光学専攻9人と社会福祉学専攻3人に修士号の学位を授与した。 【健康管理学研究科】 ✓ 教員の研究業績の積み上げや学位取得を推進し、教育・研究体制の強化を進めた。 【薬学研究科】 ✓ 建学の理念に基づき、高度医療を担い、生命科学の発展に寄与する人材を養成することを継続目標とした。令和6(2024)年度は新たに1人の大学院生が入学した。 ✓ 18時30分以降の講義開講や土曜日開講などの対応を行い、社会人学生が受講・研究しやすい環境を整えた。また、遠隔講義も活用し、大学院研究・教育活動を円滑に進めるよう配慮した。
戦略Ⅱ	【国際観光学科】 ✓ 学力レベルの格差に対応するために、特に語学はレベル別のクラスに分けて授業を行うなど、学習効果向上を図った。 ✓ 早期からの就職意識の醸成を図るため、全学年において進路意識調査を実施し、教養セミナー、専門演習なども活用しながら、きめ細かな指導につなげることができた。また、学科内キャリア委員会がインターンシップの受け入れ先の開拓に力を入れ、学生の幅広いニーズに応えることができた。 【社会福祉学科】 ✓ 新カリキュラムの完成年度(導入4年目)を迎え、これまでの実施状況を点検しつつ、各コースの運営体制・教育内容などを確定した。具体的には、「①国家資格取得の履修モデルの見直し」「②ソーシャルワーク実習指導関連科目の見直し」「③学科共通科目の見直し」「④コミュニティーコースの理念見直しに基づく新教育カリキュラムの見直し」の4つの事項について検討を行った。「③」においては、学科共通科目群の修得単位数変更の学則変更を行った。「①②④」においては、令和8(2026)年度入学者より適応できるように検討を終え、令和7(2025)年度の学則変更などを進めることとした。 ✓ 学科教員数が大幅に減少する中で、教育の質を損なわない範囲での効率的な科目担当配置のあり方を検討し、各教員の担当科目数の削減を図ったうえで、令和7(2025)年度の学科専門科目担当者の配置に反映した。 ✓ 学生の早期からの進路決定に向けた意識の醸成を図り、日本国籍学生の進路決定率(就職・進学)100%を目指すため、キャリアセンターとの協同により「2024年度社会福祉学科内合同説明会」を実施した。 ✓ 現在国において検討されている「子ども家庭ソーシャルワーカー(仮称)」導入については、社会福祉関連の協議会などに参加し検討した結果、令和7(2025)年度導入は見送ることとし、全国の社会福祉養成大学の動向を注視することとした。 【健康栄養学科】 ✓ 早期より管理栄養士としての職業倫理の涵養を図るため、学科専門導入科目において職業倫理・キャリア教育を継続して実施した。 ✓ 管理栄養士養成施設のコア・カリキュラムに準拠した教育指導を行い、合格率の向上を図った。第39回管理栄養士国家試験の合格率は95.5%であった。 ✓ 就職活動と管理栄養士国家試験の両立を促し、卒業時の就職率の向上を図った。1月末時点の対卒業

	者・進学者数、対就職希望者ともに前年比 102.2%であった。 【薬学科】 ✓ 地域医療の人材育成およびヒューマニズム教育の一環として、近隣地区の高校生を対象とした体験学習型の事業および地域の期待に応える実践活動(OB、OG の講演等)を実施した。 ✓ 長崎県や薬剤師会、長崎大学と共同で高校生を対象とした薬学部進学セミナーを開催した。 ✓ 低学年の学生も参加できる薬学部企業研究セミナーを開催し、薬剤師としてのキャリア形成を推進した。 【人間社会学研究科】 ✓ 地方創生・地域を支える人材育成を目指し、産業界や地方公共団体と協力したリカレント教育の充実を図り、1 人の履修証明プログラム修了者(社会福祉学)の実績を得た。 【健康管理学研究科】 ✓ 長期履修制度を活用した社会人の研究活動の支援を継続した。 【薬学研究科】 ✓ 大学院生 1 人当たり主研究指導担当 1 人、副研究指導担当教員 2 人の指導体制を堅持した。 ✓ 研究進捗状況発表会等を通じて、大学院担当教員全員が大学院生の研究状況を把握し、建設的な議論・批評を行うことで、引き続き大学院生の研究能力取得、水準向上をすすめた。
戦略Ⅲ	【国際観光学科】 ✓ 国際観光研究所主催の地域でのセミナーなど産官学の取り組みを積極的に推進し、地域貢献を図ると共に本学の地域における存在感を示した。 ✓ スポーツ関連の取り組みにおいても、令和6年度 NIU きらきらスポーツきつず、佐世保市中総体での地域連携活動、スポーツフェスタ 2024(来場 500 人を超える規模のイベント)、令和6年度感動する大学スポーツ総合支援事業などを通して、地域貢献を図ると共に本学の地域における存在感を示すことができた。 ✓ HTB ビジネスプランコンテストを開催し、本学科学生から 40 本もの応募があった。学生の発表の場となるだけでなく、ハウステンボスから審査員を招くなどして、連携強化にも貢献した。さらに充実したものに進化させていく。 ✓ 高度な観光経営人材の育成を目指したカリキュラムの構築については、継続して検討中である。 【社会福祉学科】 ✓ 海外学術交流校との学術・人事交流においては、中国の上海大学と「2024 年度上海大学社会学院短期研修プログラム」を 7/26～8/5(11 日間)の日程で開催し、上海大学からは計 18 人(学生 17 人、教員 1 人)が参加した。さらに、9/9～9/13(5 日間)の日程で、「海外ソーシャルワーク研修(in Shanghai)」を実施し、本学科からは、計 13 人(学部生 7 人、大学院生 3 人、教員 3 人)が参加した。 ✓ 非漢字圏からの留学生への適切な対応を図るため、ゼミ担当教員による個別指導や面談を実施した。 ✓ 地域の各方面からのボランティア活動依頼等に機敏に対応し、地域貢献を図るため、学科内のボランティアセンターを通して地域で求められているボランティア活動を学科の全学生及び教員への周知・募集を行っている。また、包括連携協定先である佐世保市社会福祉協議会・平戸市社会福祉協議会などとの連携事業の推進を行い、本学科の実習先の確保や協定先の地域内行事などへの協力を積極的に行っている。 ✓ 保護者との緊密な連携体制に基づく教育指導を行うため、保護者懇談会を実施し個別面談などを通して保護者との連携を図った。さらに、保護者向けの学科説明資料の内容を再検討し作成した。 ✓ 包括連携協定先である佐世保市社会福祉協議会・平戸市社会福祉協議会などとの連携事業の推進を行い、本学科の実習先の確保や協定先の地域内行事などへの協力を積極的に行っている。 【健康栄養学科】 ✓ 保護者と情報共有を行い、保護者と連携した指導体制を維持した。 ✓ 長崎県や佐世保市、他大学と連携し、活動を行った。 【薬学科】 ✓ 各教員において、国内外の大学や製薬企業との共同研究が進められている。 ✓ 長崎県薬剤師会と教育研究に関する協定を締結し、保険薬局での研修制度導入を計画している。 ✓ 近隣の 2 つの医療機関と連携して、教員の研修や学生の臨床教育を行っている。 ✓ 留年生の保護者に対して、面談(遠隔含む)や電話・メールによる相談を受け付けた。 ✓ 6 年生の保護者を対象とした薬学部保護者懇談会を実施した。 ✓ 国際交流センター、SKY 日本語学校の協力のもと、韓国人留学生の保護者を対象とした保護者会(遠隔)を開催した。 【人間社会学研究科】 ✓ 留学生の多国籍化を推進するためにオンライン入試を実施し、今後も継続する。 ✓ 本学の訪問研究員制度等を運用した海外学術交流協定校の教員招聘の取組みを推進した。 【健康管理学研究科】 ✓ 食物アレルギーに関する研究成果を長崎県及び県内の施設にフィードバックした。

	【薬学研究科】 ✓ 将来国際的に活躍するために、必要な英語能力を修得・向上させる目的で、英語による講義開講を引き続き実施した。
戦略Ⅳ	【国際観光学科】 ✓ ICT を通じた教員間の情報交換、学生情報共有、デジタル活用による教育方法の多様化等を促進し、特にこの分野の研究において先端を行く外国人教員による指導・サポートにより、レベルアップを図ることができた。 【社会福祉学科】 ✓ 今年度の国家試験養成関連の実習における ICT 活用(日誌等の実習関連書類の電子化)においては、令和6(2024)年度8月・9月の2年次配当実習(ソーシャルワーク実習(社会)Ⅰ、介護実習Ⅰ)から段階的に導入した。その活用効果・改善などについては、後期の実習指導関連科目及び実習報告会を通して実習受け入れ機関の実習指導者との懇談会を通して検討を行い、次年度の運用に反映することとした。 ✓ 国家試験対策として、反復学習に効果のあるオンライン動画などを積極的に国家試験受験者に提供し国家試験学修の向上を図った。 【健康栄養学科】 ✓ 基礎学力の修得に向けた反復学習や欠席者の補講のツールとして ICT の活用を継続した。 ✓ 個人面談等の学生指導の効率化を図り、ICT の活用を継続した。 【薬学科】 ✓ 対面授業と並行して、オンデマンド授業の導入、授業動画の配信などにより、学習効果を向上させた。 ✓ 文部科学省「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」により導入した教材を事前学習(4年生対象)に活用し、遠隔診療に対応できる人材の育成を進めている。 【人間社会学研究科】 ✓ 遠隔授業と対面授業を併用した講義・研究指導は、国内外の遠隔地で勤務する社会人の大学院生に対して教育効果を高めた。 【健康管理学研究科】 ✓ オンラインによる共同研究者との打ち合わせや学会・研修会への参加を行った。 【薬学研究科】 ✓ 進捗状況報告会の機会を利用して、大学院担当教員全員が大学院生の発表資料、発表・討議に対する臨み方、受け答え等について助言を行い、プレゼンテーション能力の向上をすすめた。
戦略Ⅴ	【国際観光学科】 ✓ 自治体が主催する各種審議会、懇話会および企業、協会等との取り組みなどにより、学科教員の地域での存在感を示すことができた。また、SNS にて情報発信を行うだけでなく、ラジオ・テレビのメディアにおいても学科情報の紹介を行い、認知度、ブランド力向上に貢献した。 ✓ 地域と連携し、佐世保市教育委員会のイベントなどにも学生を派遣し、地域創生におけるスポーツ分野への人材供給、運営支援に貢献できた。令和6(2024)年度は、学長裁量経費により NIU スポーツアワードを初開催することができたが、さらにイベントの充実化を図っていく。 ✓ オープンキャンパスでは、今年度も学科独自で実施したアンケートに基づき、改善を加えながら、学科の魅力を伝えることができた。 【社会福祉学科】 ✓ 定員充足を至上命題とし、各部署との緊密な連携を図りながら、第2回オープンキャンパスの前日に実施した野球部のセレモニーへの参加者を対象に個別説明会を実施した。また、入試募集センターと連携し大学訪問・模擬授業を年間11件実施した。 ✓ 国家試験合格支援として、前期前期の国家試験受験の追加学修プログラム作成し、周2回(前期計21コマ)実施、夏休み期間中に9/2～9/13「計17科目の23コマ」の講座を実施した。後期には、模擬試験(社会福祉士：3回、精神保健福祉士：2回、介護福祉士：3回の計8回)を実施した。しかし、国家試験の合格率は、社会福祉士が44.4%、介護福祉士が90.9%、精神保健福祉士が90%で目標を達成することができなかった。 【健康栄養学科】 ✓ 管理栄養士国家試験の合格者を回復した(前年度83.8%から、今年度95.5%)。 ✓ 大学公式サイト及び SNS を活用し、大学生活、研究・教育活動等の情報発信を継続した。 ✓ 学科の特色をいかした催事を3件(キッズキャンパスを含む)開催し、地域貢献や大学・学科の広報に寄与した。 ✓ 入学定員の充足率は83.3%であり、前年度62.2%から若干回復した。 【薬学科】 ✓ 研究成果は、大学 HP や学術大会、学術雑誌などで発表し、また、研究成果をもとにした特許申請・取得もされている。 ✓ 近隣の高校生を対象とした体験型学習を実施し、認知度向上に努めた。 ✓ 薬剤師国家試験の新卒の合格率は88.6%(全国平均85.0%)であり、目標を達成することができた。次年

	度も目標を達成できるように、教員一同、引き続き努力する。 ✓ 薬剤師資格取得者は累計で 1,218 人となり、卒業生の 93.0%が薬剤師資格を取得している。また、長崎県内薬剤師の約 1 割、佐世保市内薬剤師の約 2 割が本学卒業生となっている。 【人間社会学研究科】 ✓ 大学院担当教員の紹介、大学院生の研究活動など、大学ホームページを通じて国内外に発信を行い、志願者の確保に努めた。 【健康管理学研究科】 ✓ 大学公式サイトや SNS で大学院生及び教員の研究活動について発信を行った。 ✓ 入学者は 0 人であり、定員を充たせていない。 【薬学研究科】 ✓ 大学院生や教員の各種受賞、論文発表、研究費取得のニュースを適宜リリースし、認知度・ブランドの向上を図った。
戦略VI	✓ 中期計画令和 3～7 年度(5 ヶ年)に基づく安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保を目指した結果、全館照明 LED 化や空調機器更新等の大型財政支出が伴ったものの、基本金組入前当年度収支差額 279 百万円と収入超過を維持することが出来た。 ✓ 補助金の戦略的獲得については、私立大学等改革総合支援事業において 2 タイプを獲得した。また外部資金では受託事業において JST や UNIVAS 等競争的資金を獲得し前年度比+23 百万円となる 51 百万円を計上、寄付金においては募集活動の強化により前年度比+119 百万円となる 126 百万円を計上した。 ✓ 支出適正化のために、予算主義に基づく予算執行を徹底し管理に努めた。 ✓ 教職員の退職者の補充を最小限にとどめ、人件費の圧縮に努めた。
学園内の連携促進	【国際観光学科】 ✓ 九州文化学園高等学校のオープンスクールや内部進学説明会に学科教員を派遣するなど、学園内の連携を強化するとともに、内部進学を促進することに寄与することができた。 ✓ 学園内の学校に、非常勤講師を派遣することで連携促進を図った。 【社会福祉学科】 ✓ 法人本部主催による福祉分野連携会議(大学、短大、高校の福祉領域の担当教員と法人本部職員が参加)への参加を通じて、学園内の連携、情報共有を図ることができた。 ✓ 九州文化学園高等学校保育福祉科福祉コース 2 年生を対象とした介護体験学習を本学で実施し、介護担当教員を中心に対応にあたった。大学での福祉の学びを喚起することができ、参加生徒への大学進学の相談を気楽にできる環境調整を行うなど、学園内進学の促進に寄与することができた。 【健康栄養学科】 ✓ 学園内の九州文化学園高等学校及び長崎短期大学との連携を強化し、内部進学の促進を図った(前年度 2 人及び 4 人から、今年度 13 人及び 4 人)。 ✓ 学園内の各学校に非常勤講師を派遣した。 ✓ 薬学部及び長崎短期大学との共同研究を継続して行い、論文や学会発表等で成果を報告した。 【薬学科】 ✓ 出前講義や内部進学説明会による九州文化学園高等学校との高大連携の強化、九州文化学園高等学校教員との意見交換会、九州文化学園小中学生を対象とした理科系の魅力紹介を推進している。 【人間社会学研究科】 ✓ 長崎短期大学の教員の進学には至らなかったが、長崎国際大学の教員 1 人が観光学専攻に進学した。次年度も継続して募集活動を行う。 【健康管理学研究科】 ✓ 薬学部及び長崎短期大学との共同研究を継続して行い、論文や学会発表等で成果を報告した。 【薬学研究科】 ✓ 本学 HP(学術研究)等を通じて、大学院生等の各種受賞、論文発表、研究費取得のニュースリリースを行い、認知度・ブランドの向上を引き続き進めた。
付帯計画と課題	【国際観光学科】 ✓ 国際観光人材の育成(社会人を含む)に向けての新たな実習施設については検討中である。 ✓ 地域創生における「スポーツ・健康」分野の研究・実習に対応できる施設、器材の導入についても、課題が残っている。 【社会福祉学科】 ✓ 老朽化した備品の更新については、予定通り実施できた。 ✓ 定員充足率向上のための戦略について、本学を卒業する際に地域の福祉人材育成としては、ソーシャルワークコース・ケアワークコース・メンタルヘルスコースに所属し福祉専門職を目指す学生(80%)、コミュニティコースに所属し福祉知識を有する一般就職を目指す学生(20%)を受け入れ体制を検討した。さらに、各コースにおいて日本における福祉の学びを目的とする留学生の受け入れ、高校などで福祉を学びさらに本学科にて国家資格取得を目指す入学者を増やすため入試・入学形態について、

	関係部署との協議を進めていく。 【健康栄養学科】 ✓ 集団給食・調理実習室の改築・増設、研究環境の整備(ラボの設置)については継続課題である。 ✓ 老朽化した実習・研究機器備品は一部更新された。 【薬学科】 ✓ 入学定員の充足に向けて、広報活動の強化、大学に隣接した JR 駅の誘致、通学時間帯のスクールバスの増便、一般男子寮の設置などを要望していく。 ✓ 大学附属薬局の設置、配信用インフラの整備、講義室や研究スペース、実習室、PC 室の不足についても、引き続き要望していく。 ✓ 「薬学教育モデルコアカリキュラム令和4年度改訂版」に対応すべく、カリキュラム整備を行い、それに伴う実務家教員の採用、施設拡充等を要望していく。 ✓ 令和7(2025)年度に薬学教育認証評価を受審する。 【人間社会学研究科】 ✓ 海外学術交流協定校および海外大学教員招聘の教育・研究環境整備として、観光準備室の設置・院生室の拡充を図った。 【健康管理学研究科】 ✓ 研究環境の整備(ラボの設置)は、引き続き課題である。 【薬学研究科】 ✓ ニュースリリース等を通じて、研究活動を発信することで、薬学研究の魅力を紹介した。さらにニュースリリース数の増加とアピール向上を進めていく。
--	--

6) 主要情報

(1) 卒業・修了者数、学位・資格等に関する実績

【学部卒業生数】

学部	学科	令和6(2024)年度		
		9月秋季	3月春季	合計
人間社会学部	国際観光学科	12人	185人	197人
	社会福祉学科	2人	66人	68人
健康管理学部	健康栄養学科	0人	44人	44人
薬学部	薬学科(6年制)	11人	88人	99人
総計		25人	383人	408人
卒業生数の累計				8,613人

【大学院修了者数】

研究科	学科	令和6(2024)年度		
		9月秋季	3月春季	合計
人間社会学研究科	観光学専攻(修士課程)	4人	5人	9人
	社会福祉学専攻(修士課程)	1人	2人	3人
	地域マネジメント専攻(博士後期課程)	0人	0人	0人
健康管理学研究科	健康栄養学専攻(修士課程)	0人	0人	0人
薬学研究科	医療薬学専攻(4年制博士課程)	1人	0人	1人
総計		6人	7人	13人
修了者数の累計				226人

【学位および国家資格・免許等の実績】

学位・資格・免許等名	取得者	備考
学位：学士	408人	春季：383人、秋季：25人
学位：修士	12人	春季：7人、秋季：5人
学位：博士	0人	春季：0人
社会福祉士	20人	合格率：44.4%
精神保健福祉士	10人	合格率：90.9%
介護福祉士	9人	合格率：90.0%
管理栄養士	42人	合格率：95.5%
薬剤師	78人	合格率：88.6%
教育職員免許状	28人	高等学校：16人 中学校：11人

	栄養教諭：1 人
--	----------

(2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
辞令交付式	4/1(火)	
入学式	4/2(水)	出席者をコロナ禍前に戻し新入生と保護者、来賓で実施
オリエンテーション	4/12(土)	
ハイスクール茶会	5/17(土)	参加高校：15 校 高校生：175 人
第 1 回オープンキャンパス	7/21(日)	
第 2 回オープンキャンパス	8/4(日)	
第 3 回オープンキャンパス	8/25(日)	
秋季卒業式	9/7(土)	
秋季入学式	9/2(金)	
開国祭	11/2(土)、11/3(日)	テーマ「Re-Born (リボーン)」 新型コロナウイルス感染症拡大前と同様に 2 日にかけてフルスペックで実施
春季卒業式	3/8(土)	
第 4 回オープンキャンパス	3/16(日)	

<入試関係日程>

入試区分	実施日	備考
総合選抜型Ⅰ期	10 月 19 日(土)	
学校推薦型選抜 A 日程	11 月 23 日(土)	
総合選抜型Ⅱ期	11 月 23 日(土)	
学校推薦型選抜 B 日程	12 月 21 日(土)	
大学入学共通テスト	1 月 18 日(土) ～1 月 19 日(日)	本学の大学入学共通テスト利用選抜では独自の学力試験は行わない
一般選抜 A 日程	2 月 4 日(火)～2 月 5 日(水)	
一般選抜 B 日程	3 月 6 日(木)	

7) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 学部・学科、研究科・専攻の基本方針

学部学科コース・区分の名称	年度の基本方針の達成状況		
人間社会学部国際観光学科	✓ 教職員の地道な努力と様々な取り組みが功を奏した結果、今年度も定員を上回る学生を確保することができた。ステークホルダーから支持され、選ばれた結果であると考えている。		
	✓ 高校生を対象とした模擬授業は、入試・募集センターと密接に連携しながら対応した。通年で俯瞰すると、模擬授業の実施回数(19 回)は前年比 112%であり、進学ガイダンスの需要も堅調に推移している。		
	✓ 学生の就職率を高めるために、さらなるキャリア支援の効率化、早期化への対応の検討をしている。また、増加する留学生のために設置したキャリア支援の科目の G 検 4 級対策、G 検 3 級対策を実施した。		
	✓ 国際観光研究所では、近隣地域の経営者や佐世保市の関係者等が参加する DX セミナー(「生成 AI ツールを活用した DX 推進」)を実施するなど、地域貢献に寄与した。		
	✓ 地域のスポーツ振興のために「NIU きらきらスポーツきっず」、「スポーツフェスタ 2024」などを開催し、学内外の多くの方が参加した。		
	✓ 教員の研究活動としては、令和 6(2024)年度の学科共同研究費に対しては、12 件の研究申請が受理され、科学研究費については、新規が 7 件、継続が 3 件であった。		
	＜資格等の実績＞		
資格等名	実績	備考	
国内旅行業務取扱管理者	5 人		
総合旅行業務取扱管理者	1 人		
学芸員	26 人		

	公務員	10 人	市町村行政職 5 人、自衛隊 1 人、警察官 2 人、消防 1 人、教員 1 人																								
	日本語教員養成課程修了者	1 人	島原国際日本語学校 に日本語教員として就職																								
	日本語検定	3 級 4 人合格																									
	秘書検定	2 級認定 1 人、3 級認定 2 人																									
	ビジネス文書検定	3 級 4 人合格																									
	日本スポーツ協会 公認スポーツ指導者	1 人																									
	健康運動実践指導者	3 人																									
	マリンスポーツ(ダイビング)	6 人	C カード・オープン ウォーターダイバー 4 人、アドヴァンスドオー プンウォーターダイ バー 2 人																								
	TOEIC(500 点以上)	12 人																									
	教育職員一種免許状	12 人(実人数)	免許申請数 25 件(中社 4 件、中英 1 件、中保体 6 件、高地歴 7 件、高英 1 件、高保体 6 件)																								
	茶道鎮信流初歩伝	26 人																									
	茶道鎮信流初伝	7 人																									
	ホテルビジネス実務検定	ベーシック 2 級 10 人・ ベーシック 1 級 1 人	合格率の高さにより 3 度目の「優秀指導賞」を 受賞																								
	✓																										
人間社会学部社会福祉学科	✓ 入学定員の確保に努めたが、令和 7(2025)年度は 60.0%(前年 65.0%)で定員確保に至らなかった。定員確保にむけた改善策を学科内と入試募集センターなどと協議しながら、今後さらに取り組みを強化していく。 ✓ 国家試験の合格率は、社会福祉士が 44.4%、介護福祉士が 90.9%、精神保健福祉士が 90%で目標を達成することができなかった。国家試験合格率の向上に向けて、学修プログラムの改善と学生の意識向上を図り、新カリキュラムの特性を生かした着実な学修支援をさらに発展させることで国家試験合格率の維持・向上を図っていく。 ✓ 学科教員数が大幅に減少する中で、教育の質を損なわない範囲での効率的な科目担当配置のあり方を検討し、各教員の担当科目数の削減を図ったうえで、令和 7(2025)年度の学科専門科目担当者の配置に反映した。 <資格等の実績> <table><tr><th>資格等名</th><th>実績</th><th>備考</th></tr><tr><td>社会福祉士</td><td>合格率 44.4% (45 人中 20 人合格)</td><td></td></tr><tr><td>介護福祉士</td><td>合格率 90.0%(9 人) (10 人中 9 人合格)</td><td>内、社会福祉士との ダブル合格者 2 人</td></tr><tr><td>精神保健福祉士</td><td>合格率 90.9%(10 人) (11 人中 10 人合格)</td><td>内、社会福祉士との ダブル合格者 9 人</td></tr><tr><td>スクールソーシャルワーカー</td><td>3 人</td><td></td></tr><tr><td>高等学校教諭一種免許状 (福祉)</td><td>2 人</td><td></td></tr><tr><td>福祉心理士</td><td>4 人</td><td></td></tr><tr><td>✓パラスポーツ指導員(初級)</td><td>7 人</td><td></td></tr></table>			資格等名	実績	備考	社会福祉士	合格率 44.4% (45 人中 20 人合格)		介護福祉士	合格率 90.0%(9 人) (10 人中 9 人合格)	内、社会福祉士との ダブル合格者 2 人	精神保健福祉士	合格率 90.9%(10 人) (11 人中 10 人合格)	内、社会福祉士との ダブル合格者 9 人	スクールソーシャルワーカー	3 人		高等学校教諭一種免許状 (福祉)	2 人		福祉心理士	4 人		✓パラスポーツ指導員(初級)	7 人	
資格等名	実績	備考																									
社会福祉士	合格率 44.4% (45 人中 20 人合格)																										
介護福祉士	合格率 90.0%(9 人) (10 人中 9 人合格)	内、社会福祉士との ダブル合格者 2 人																									
精神保健福祉士	合格率 90.9%(10 人) (11 人中 10 人合格)	内、社会福祉士との ダブル合格者 9 人																									
スクールソーシャルワーカー	3 人																										
高等学校教諭一種免許状 (福祉)	2 人																										
福祉心理士	4 人																										
✓パラスポーツ指導員(初級)	7 人																										
健康管理学部健康栄養学科	✓ 管理栄養士国家試験の高い合格率を回復し、人間力と実践力を備えた人材育成を行った。 ✓ 九州文化学園高等学校との連携を強化し、入学者が増加した。 ✓ 保護者と連携した指導体制を継続し、また入学前オリエンテーションを実施し、離学防止に努めた。																										

薬学部薬学科	✓ 入学定員の確保に努めたが、令和 7(2025)年度は定員確保には至らなかった。定員確保に向けた改善策を入試・募集センターなどの関係部署と協議する。 ✓ 入学定員確保に向けて、韓国の SKY 日本語学校において説明会を行った。 ✓ 高校生を対象とした体験実験を通して、薬学部の魅力を紹介し、入試募集活動に努めた。出前講義、薬剤師の職業紹介、施設見学、体験実験など、要望があれば、原則として随時受け入れており、今後も継続する。 ✓ 小中学生を対象とした理科系進学啓蒙活動を行った。 ✓ 薬剤師国家試験の新卒合格率は 88.6%であり、全国平均 85.0%を上回った。 ✓ 基礎学力向上、留年生対策、離学防止のために、薬学教育支援センターを中心に、入学前教育や基礎科目の補習、個別面談を行った。 ✓ 査読付き学術論文の公表、外部資金獲得、学会発表、共同研究の推進を促し、研究業績は大学 HP や長崎国際大学論叢で公表した。 ✓ 科学研究費の申請を促し、7 件の研究課題が新規に採択された。 ✓ 就職希望者に対する就職率は 100%であり、今後もこの実績を維持する。
人間社会学研究科観光学専攻	✓ 長崎国際大学国際観光学会での発表については、令和 6(2024)年 10 月の研究発表会にて、観光学専攻生 13 人が発表した。『観光学論集』投稿の前提となることであり、院生の研究力向上に寄与していると考ええる。 ✓ 留学生の論文指導については、日本語での研究指導に加え、英語での研究指導を、令和 6(2024)年度から行っている。指導のさらなる強化に務める。 ✓ 主指導教員 1 人、副指導教員 2 人の 3 人体制による論文指導は、令和 6(2024)年度も順調に継続している。担当教員の異動の際には、速やかに後任を決めることで対応した。 ✓ 履修証明プログラムについては、令和 7(2025)年度から遠隔授業での履修も可能として、募集を行った(令和 7(2025)年度は 2 人が履修予定)。自治体等との協働研究については、国際観光研究所との協働を目指す。 ✓ 外部資金の獲得に関しては、2 人の専攻教員が、科学研究費を獲得している。
人間社会学研究科社会福祉学専攻	✓ 留学生に対する日本語による論文執筆の指導を通して、グローバルな教育・研究を進めた。今年度 2 人の留学生が修了した。 ✓ コロナ禍により停滞していた海外学術交流校(中国・上海大学)との学術・人事交流を復活させるため、夏季に上海大学を訪問し、交流事業の事前交渉を行った。 ✓ 院生の研究環境(パソコンや分析ソフト等の備品)の整備に着手した。 ✓ 福祉機関との包括連携協定を軸に、学生と共にフィールドワーク研究を推進することで、地域福祉研究のプラットフォームとなるために、令和 7(2025)年 1 月 21 日(火)に、履修証明プログラム履修者 1 人、院生 1 人、学部生 1 人の参加のもと、社会福祉法人「ながよ光彩会」において、施設見学や職員のレクチャー、住民との交流会を実施した。 ✓ 県内の社会福祉職者のキャリア・アップを目的としたリカレント教育を推進し、現職者のスキルの洗練に取り組んだ。1 人の履修証明プログラムの受講応募があり、修了生 1 人には、令和 7(2025)年 3 月 31 日(月)に行われた授与式において、学長より履修証明書が授与された。 ✓ 秋の入学試験を通して定員確保に努めたが、秋の入学試験では入学には至らなかった。
人間社会学研究科 地域マネジメント専攻	✓ 地域の経済活動の活発化や生活環境・労働環境の改善に、観光学と社会福祉学の視点から地域マネジメントに参画できる、新たな知識・技能を身に付けるための教育を推進した。 ✓ 博士号の学位を 3 年間の教育課程で取得するために指導を強化した。 ✓ 地域マネジメント専攻の主指導教員は、博士号の学位を有する専任教員とした。 ✓ 入学定員 3 人を確保するために、研究指導の補助教員のうち実績を有する者を観光学および社会福祉学から主指導教員に昇格させた。 ✓ 大学院生の研究能力向上と研究費に資するリサーチ・アシスタント制度の充実を図り、1 人のリサーチ・アシスタントを採用した。
健康管理学研究科健康栄養学専攻	✓ 長期履修制度を活用し、無理のない学修・研究計画を立て遂行している。 ✓ 研究業績の積み上げ及び学位取得を促し、研究指導体制の向上を図っている。 ✓ 産学官の共同研究を推進し、外部資金獲得を目指している。
薬学研究科医療薬学専攻	✓ 社会人の入学促進のため、引き続き夜間、土曜日に講義を開講した。 ✓ グローバル化への対応として、博士号取得研究者として必要な英語能力を修

	得させる目的で、英語による講義の開講を継続した。 ✓ 学生の博士課程レベルの研究能力の修得・向上のため主研究指導担当教員と2人の副研究指導担当教員が責任を持って指導する体制を維持した。 ✓ 秋季に実施する研究進捗状況発表会に全研究科教員が参加して、研究内容や進捗状況を客観的に評価することで、博士論文の質や水準向上に努めた。 ✓ あらたに最終年次進捗状況発表会を春季に開催し、大学院生の学位取得を支援する体制を強化した。
--	---

(2) 教育活動

取組の総括	
【教務課】 ✓ 教育活動としては、学園や大学の建学の精神・理念、教育目標や長崎国際大学の3ポリシー及び「令和6年度長崎国際大学及び大学院の学長方針」に基づき、学修者と教育者が学修成果及び教育成果を把握し明確に可視化できるようにホスピタリティ・ループリックやポートフォリオを活用した教員による面接を徹底した。加えて、3ポリシーに基づくカリキュラム編成については、「内部質保証」、「外部評価」及びアセスメント・ポリシーによる不断の見直しを行った。 ✓ 令和7(2025)年度に控える大学機関別認証評価に向けて、各種規程等を整備した。 ✓ 離学防止対策として、引き続き教育基盤センターを中心にPDCAサイクルをまわし、入学前教育から初年次教育の一体化を更に図った。加えて、入学後の学修支援についても毎年度見直しを行っている。 【図書課】 ✓ 図書館Webサイトの移設に伴いサイト内の大幅な見直しをおこなった。利用者が図書館のどのサービスを享受でき、どのコンテンツが利用できるのかを判りやすくして、Webサイトの利便性を高めた改修とした。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 理念や3ポリシーを通じた教育活動の実質化	✓ 建学の理念であるホスピタリティ獲得の為に、DPに定められた5つの諸能力を具現化したホスピタリティ・ループリックを使用した学修ポートフォリオを活用し、教員と学生による面談を通して教育活動の実質化を図った。 ✓ 引き続き教務委員会において「ホスピタリティ・ループリック」の入力状況を確認し、未入力の学生に対する指導を徹底した。
(2) ポリシーに基づく教育課程の編成・実施	✓ DP及びCP点検については、各学科会議、教務委員会、各学部教授会、全学教授会において確認を行い、全学教育会議においても外部評価員による点検を実施した。 ✓ 全学共通科目について、全学共通教育委員会において科目の整理・削減し、各学科における卒業要件単位の改善を行い、カリキュラムの多様性と柔軟性を担保した。
(3) DPの実質化	✓ DPに定められた学修目標と授業科目との関係をシラバスに明記すると共に、令和7(2025)年度からのシラバス電子化に全学的に取り組んだ。 ✓ 全学科において卒業ポートフォリオを作成し、単位修得状況や卒業論文要旨と共に外部評価を実施した。これらの外部評価については、各学部教授会における卒業判定の要素とした。 ✓ 全学教育会議において、本学のアセスメント・ポリシーに則り、各学科で検証した結果を確認し、次年度の教育課程に反映させた。
(4) リカレント教育および社会人学生の支援	✓ 社会人の更なる受入れを目指し、大学院における履修証明プログラムにおいて、遠隔授業による授業でプログラムを修了できる制度を導入した。結果として、令和7(2025)年度にこの制度を利用して履修証明プログラムに参加する社会人が1人となった。
(5) 教育・学修・履修・支援の制度・体制の整備	✓ GPA制度の更なる活用を目指し、健康管理学部及び薬学部における進級判定にGPA値を判定材料として加えた。 ✓ 教育基盤センターにおいて、教職協働のもと以下の事項を実施した。 ✧ 社会福祉学科において、九州文化学園高等学校との共同で内部進学者に対する入学前教育を実施した。加えて、他の学科においても前年度の反省点を踏まえた入学前教育を対面で実施した。 ✧ 指導補助者(TA・SA)に対する事前研修については、従来から義務付けており、ポートフォリオを活用し、確実に実施した。 ✧ ラーニングコモンズの運用については、必要な改善を加えたうえでコロナ禍前の状態に戻し、学生の利用促進に努めた。
(6) 外国人留学生への日本語教育	✓ 留学生の日本語教育については、入学時の日本語プレイスメントテストの結果により、更なるレベル分けを行い、非常勤講師を活用しながら少人数クラスで実施した。
(7) 数理・データサイエンス・AI教育の充実	✓ 文部科学省が実施する「数理・データサイエンス・AIプログラム認定制度(リテラシーレベル)」への申請を目指し、「データサイエンス導入教育プログラム」を実施

	した。
(8) 他大学等と連携した教育(QSP の教育活動関係の取組)	✓ 九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)科目群創出WG(本学責任校)参画校と共同で、次年度以降単位互換制度の体制づくり、科目開発のための協議を開始した。(西九州探求学など) ✓ QSP 参画校で人材バンクを構築し、毎年初めの人事異動に合わせリストを更新、現在 80 人以上の教職員を登録している。令和 6(2024)年度の人材派遣実績は 17 件。 ✓ リカレント教育、ICT、データサイエンスなど、公開講座や SDFD など共同で企画、推進を図った。具体的には、「セルフキャリアドック」、アプリ講座などを実施。 ✓ 『女子中高生の理系進路選択支援プログラム』を幹事校佐賀大学、西九州大学、佐世保工業高等専門学校、久留米工業大学、本学の 5 校で推進。中高生向けに出張講義や実験体験会などを実施。 ・ 6/29(土)リケフェス in 佐世保、10/27(日)リケフェス 2024(於：佐賀大学)

(3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

取組の総括	
✓ 長崎国際大学は、政府が推進する「Society 5.0 for SDGs」の実現に貢献するため、大学・高専機能強化支援事業の補助金を活用し、令和 9(2027)年度に未来理工学部を開設予定である。未来に資する人材育成のため、情報系分野を中心とした教育を通じて、地域社会に優秀な専門人材を輩出することを目指している。地域で学んだ人材を地域に還流させることで、産業振興や教育・文化水準の向上を図り、「ウェルビーイング」な社会の実現を目指している。地域社会と大学が連携し、地域課題の解決や新たなイノベーションの創出に貢献することが期待される。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 新学部の開設	✓ 未来理工学部(情報系、データサイエンス系、建築・デザイン系)を開設予定。
(2) 未来を担う人材育成	✓ Society 5.0 for SDGs の実現に貢献できる人材を育成する。
(3) 地域社会への貢献	✓ 地域で学んだ人材を地域に還流させ、産業振興や教育・文化水準の向上に貢献する。
(4) 社会人リスキリング	✓ デジタルスキルの変化に対応するため、社会人向けのリスキリング教育を積極的に行う。

(4) 研究活動

取組の総括	
【産学連携・研究支援室】 ✓ 研究活動の活性化に向け、研究支援、産学連携推進の体制づくりを引続き進めている。地域産業界との連携に関しては連携に要する予算措置も講じたが実績には至らなかった。 ✓ 研究環境の造成に関しては、研究倫理研修、研究費の適正使用に関するコンプライアンス研修、利益相反マネジメント研修、輸出管理などの研修を通じてリスクマネジメントを推進できた。また、安全保障貿易管理に関する年度監査を実施し、取扱状況を精査するとともに、研究インテグリティに係る意識醸成を行った。 ✓ 各教員の専門分野における研究活動の把握や大学の研究ブランド形成の推進のため総務課が進めている Research map への研究者登録、総合イノベーション戦略に沿った本学学術機関リポジトリ(NIU AIR)の運用実現のための体制整備、情報発信は継続していく。 【図書課】 ✓ 大学学術機関リポジトリ(NIU-AIR)における各コンテンツの配置構成の修正を終え、多様なコンテンツの登録に備える体制を整えた。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 研究機関としての組織的な強化方針や研究課題活動	✓ 大学と企業間との契約ベースでの研究交流は浸透してきたが、契約件数、金額の大幅な増加とはならなかった。 ✓ 現況の研究交流活動の実態を把握、分析したうえで、活動助言、研究環境整備支援、研究交流先の紹介支援、グラント(外部資金)等の情報提供支援の強化を目指していたが、実現には至らず引続き今後の課題とし取組む。
(2) 研究者個人の研究活動・学会発表等の支援	✓ 研究者個人の研究活動を支援するため、科研費応募に必要なスキルの勉強会を引続き実施した。 ✓ 学会活動支援のため、学内学会誘致における助成金を予算化したが実現には至らなかった。 ✓ 産学連携活動支援の一環として、活動時間の創出のため TA、RA の雇用推進の体制整備を行った。 ✓ リスクマネジメントとして、利益相反マネジメント研修を実施した。
(3) 研究系の外部資金の獲得	✓ グラント(外部資金)については、科研費応募件数が 77 件と大幅に増加したことから採択額の増加、グラントの獲得増加を見込んでいたが、結果として 95 百万円と 1 億円には若干届かなかった。科研費説明会については、外部専門業者に委託し質の向上を図り、また、科研費テクニック講習会においては採択実績者による研修を

	実施し内製化を行った。引続き、文科省、厚労省に加え、経産省、農水省などの助成金や民間団体による助成金獲得を目指し、学内への情報発信を徹底する。
(4) 研究倫理の遵守や不正使用防止の啓発	✓ 大学のグローバル化に伴い、世界的水準の研究倫理やリスク管理が求められている中、研究者を補助する研究支援者等にもコンプライアンス研修など研究倫理教育を実施した。URA の育成に関しては、産学連携・研究支援室員の一人が(一社)リサーチ・アドミニストレータースキル認定機構の講座を受講し修了した。
(5) 外部との共同研究・受託研究の推進	✓ 外部との共同研究・受託研究は昨年同様、契約件数、金額ともに少額に留まった。引続き、大学と企業等との組織的な研究活動に向け、研究者への支援を推進し、契約実績の拡大に努める。

(5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

取組の総括	
【キャリアセンター】 ✓ キャリアコンサルタント資格を有するスタッフ 3 人による学生対応は安定している。学科の特性やスケジュール感などに応じたキャリア支援等については、改善の余地がある。売り手市場の中で如何に意思のある就職をサポートできるかが課題。 【学生課】 ✓ 学生数が減少する中で、学長 Café や保護者会などを通じ、意見や要望をヒントと捉え改善していくことが重要と認識。予算・業務量のバランスはあるが改善へ向けて継続する。 【スポーツ支援・振興室】 ✓ 「学修支援・競技力向上支援・地域スポーツ振興活動支援」の 3 つの柱でスポーツ系学生の支援をすることを目的として、UNIVAS や長崎県・佐世保市から情報を得、スポーツサポートセンター及び強化指定部指導者との連携により進め、スポーツ系学生のサポートを行っている。 【図書課】 ✓ 学生選書ツアーを学部生 8 人、教職員 4 人で実施し、選書後はライブラリー・サポーターが代表本のポップを製作し、館内で学生展示を展開した。 ✓ 各部門の代表者同士の書評合戦「ビブリオバトル in 九州文化学園」を、読書活動推進の一助として実施した。 【保健室】 ✓ キャンパスライフ・ヘルス(CH)サポートセンター3 室(保健室・学生相談室・学生生活サポート室)で計画した学生および教職員の心身面の健康の保持・増進と学生生活における相談・支援の事業を、Post-corona(ポストコロナ)体制へ調整しつつ、CH サポートセンター運営委員会構成員による教職協働で、学生に寄り添いながら実践し、達成することができた。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 就職ガイダンス	✓ 各学科向けに各種ガイダンスを実施したが、学科により運営に対して温度差があり、参加者が少ない回もいくつかあった。 ✓ 長崎県教育委員会・長崎県スポーツ協会と本学スポーツ支援・振興室・学生課そしてキャリアセンターが協働し強化指定部向けに就職ガイダンスを実施した。
(2) 就職活動支援	✓ NIU キャリアセンターオンラインの周知が進んでいないことが認識できた。 ✓ SPI 対策である「NIU ドリル」や 25 の資格講座が利用できる「Web 資格講座」など有効なコンテンツを準備しているため、より一層の周知を行う必要がある。 ✓ 令和 6(2024)年度も「就活写真学内撮影会」を開催し 112 人が参加した。(10 月 23 日、11 月 20 日、12 月 11、18 日)
(3) インターンシップ対応	✓ 長崎県インターンシップ推進協議会(長崎県)を通して 14 人(令和 5(2023)年度は 2 人)の学生が県内各企業のインターンシップへ参加。今後もインターンシップの重要性は増すことから、引き続き学内での広報を実施する。 ✓ これまでインターンシップに参加する際、保険を適用するために受け入れ企業との覚書を交わしていたが、事務手続きが煩雑であった。令和 6(2024)年度に「インターンシップ参加届」の運用を新しく開始し、保険適用の要件をクリアしつつ、事務の効率化を図った。
(4) 課程外講座の充実	✓ 公務員試験対策講座にて公務員を志望する学生への特別講座を継続実施(104 コマ)した。
(5) 留学生支援	✓ 留学生向けの日本における就職活動のマニュアルやビジネス日本語、企業採用情報、就職試験対策が利用可能な「留学生就職支援ネットワーク」に加盟し(無料)令和 7(2025)年 4 月より運用を開始する。 ✓ 日本で就職を希望する留学生に対し、外国人留学生就職支援セミナー&個別相談会や、外国人留学生 OB 講話&企業説明会、そして日本で就職の決まった留学生に対する、外国人留学生就職目前 WEB セミナーを実施した。
(6) 個別対応の充実	✓ NIU キャリアセンターオンラインをベースに事前予約を受け付け、就職相談、エ

	ントリーシートや履歴書の添削、個別面談練習など、幅広く対応した。調整が可能であれば、飛び込みの学生にも対応している。
(7) 新歓祭、開国祭、卒業パーティー	✓ 新歓祭は、ステージパフォーマンスと交流イベント及び部活動の勧誘会と二部制で実施した。 ✓ 開国祭は、台風の影響により第 1 日目を中止とし第 2 日目のみの開催となった。検討・決定・周知などこれまでに経験のない調整が必要となったが、実行委員会と協働し、無事開催にいたった。 ✓ 春季卒業パーティーは、初めてホテルオークラ JR ハウステンボスで実施した。会場への導線、受付、料理、サービスともに前回までの会場より改善されており、令和 7(2025)年度以降も継続して開催したい。昨年同様 230 人程度の参加者だった。
(8) 奨学金	✓ 修学支援新制度(給付奨学金)及び貸与奨学金ともに、適切な周知、フォローを実施し利用学生の安定的な制度運用に寄与できた。 ✓ 令和 7(2025)年から制度の運用が開始される「多子世帯」に代表されるように、毎年度変更点が発生するため、安定的な運用には多くの負荷が生じている。
(9) 学長 Café	✓ 第 26 回(7 月 3 日)と第 27 回(2 月 13 日)の学長 Café を開催した。第 26 回では 19 人もの多くの学生が参加し、学長よりこれまでの積み残し案件の状況について詳しい説明があった。また、第 27 回では、令和 7(2025)年 4 月よりスクールバスの運行を計画していることが報告された。
(10) 交通安全教室	✓ 令和元(2019)年以来となる交通安全教室を実施し約 350 人の学生が参加した。従前同様早岐警察署交通課、白バイ隊、ヒューマンスクール早岐から協力をいただき、3 回の事前打ち合わせを実施、より実りのあるものに作り上げた。(テレビ放送あり)
(11) チューリップハウス	✓ 豪雨の影響によりチューリップハウスの裏山からの倒木があり、浄化槽の一部が破損した。浄化槽は新替えることとなり保険の対象ともなったが、2 割程度は本学が負担することになった。今後も同様な事例が発生する可能性があるが、地権者が遠方にいる個人であることから、対応に苦慮している。 ✓ 令和 6(2024)年度末現在で 8 室の空室が発生しており、大きな収入減となる。
(12) アネシス福岡Ⅲ	✓ 令和 5(2023)年度末にエアコン・ガスコンロの新替え、シャワートイレの設置、Wi-Fi の完備を実施したことから、令和 6(2024)年度末時点で 10 室が満室となっている。
(13) 健康診断・健康相談・保健指導	✓ 平成 24(2012)年度から継続した 100%の受診率を維持できた(休学者除く)。 ✓ キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター内の 3 室、保健室・学生相談室・学生生活サポート室の学生の心身の健康管理および相談に対しても、必要に応じて 3 室または関係部署と連携し、適正な相談対応および支援が出来た。さらに、面談方法も対面とオンラインのハイブリッド形式を定着させ、ニーズに合わせて対応することで、学生の多様性にも幅広く対応できた。 ✓ 各自で健康管理できる力を養うことを目的とし、熱中症対策や AED 講習、キャンパスライフ・ヘルスサポートセンターだより発行等による心身の健康に関わる情報発信を行った。
(14) 障がい学生支援のプラットフォーム事業	✓ 令和 4(2022)年から、障がい学生(合理的配慮申請学生含む)を対象とした、産学連携の就労移行支援モデル「入学時からの就職支援」の制度を整備してきた。キャリアセンターと CH サポートセンター、包括協定締結先の社会福祉法人南高愛隣会とで連携し、学年ごとの就職支援スケジュールを作成し、それに沿って「障がい学生就職支援プログラム」を実践した。次年度は、詳細の調整を行う。(新聞取材有り)
(15) ピア・サポート NIU ピア・サポート学生組織	✓ 学長裁量経費で採択された「教育的包摂を先導するコラボレイティブ・ラーニングによる知の創造」として、2つのプロジェクトに長崎国際大学ピア・サポート組織(NPS)執行部学生と関係教職員が連携・協力しながら、取り組んだ。 ① 本学ピア・サポート活動による障がい学生の学びの質保証・向上および包摂性の高い修学環境の構築：ピア・サポート研修会を企画・立案し、支援スキル向上のための研修会を計 3 回実施することができた。NPS 執行部に所属する障がい学生が当事者の立場から車椅子の使用方法などについての研修も行った。その事後アンケート結果では、9 割以上の受講者から高い満足度を得られ、障がい学生との学び合いが研修効果を高めたと考えられる。また、岡山県で開催された研修セミナーに参加し、京都大学 HEAP(高等教育アクセシビリティプラットフォーム)の障がい学生支援の最新の支援技術を学ぶことで、本学の支援環境の課題や今後の支援のあり方について検討することができた。 ② 地域を志向した障がいに対する意識啓発・理解促進のための「知」の拠点化整

	備の推進：今年度より民間事業者も合理的配慮の法的義務が発生したことを受け、開国祭において地域住民などに向けて、学術展示で、合理的配慮の概念や障がい特性に合わせた支援方法を発信した。地域住民など幅広い対象に向けて、障がい理解の啓発・促進を図ることができ、本学の「人間尊重」の基本理念に基づく障がい学生支援の活動実践を地域に向けて広報する機会にもなった。
(16) Post-corona(ポストコロナ)	✓ Post-corona においても、感染予防対策および相談窓口の周知し、学校感染症の対応を原則とした健康チェック提出や Google フォームを活用した感染申告による保健指導を継続した。それにより、早期発見、早期受診・処置へつなげ、感染拡大を抑止し、学生・教職員の安心・安全な大学生活を守ることができた。
(17) スポーツ系学生に対する支援活動	✓ 4/25(木)：マナバ掲載済「熱中症及び暑熱対策について」 ✓ 6/26(水)：「熱中症対策・救急救命講習」開催 ✓ 7/10(水)：「強化指定部対象 就職ガイダンス」開催 共催：長崎県体育保健課 長崎県スポーツ協会 ✓ 11/20(水),11/26(火),12/3(火),12/10(火),12/17(火),12/24(火),1/14(火),1/21(火)：スポーツ系学生学修支援プログラム 8:20～8:50 にて計 8 回実施。担当：スポーツサポートセンター、スポーツ支援・振興室、強化指定部指導者。テーマ：スポーツ系学生のキャリアについて、単位取得の重要性他。

(6) 国際交流・留学生支援活動

取組の総括	
✓ 令和 6(2024)年度は、本学の国際化の推進およびグローバル人材の育成を目的として多角的な取り組みを実施した。 ✓ 海外大学との交流では、中国・フィリピン・イギリスの協定校との相互訪問や研修を通じて、学生間の交流および異文化理解の促進が図られ、学術的・文化的なつながりが深まった。 ✓ 留学生募集活動については、アジア圏を中心とした積極的な募集活動の結果、春季・秋季あわせて 134 人が新たに入学し、11 月 1 日時点の外国人留学生数は 293 人となり、令和 2(2020)年以来最多であった。 ✓ 留学生支援体制の面では、快適な生活環境の整備として宿舎の修繕・Wi-Fi 整備を実施し、またネパール出身の非常勤職員を配置することで、出身国に応じた生活支援が強化された。さらに、個別面談を通じた在籍管理の徹底にも取り組んだ。 ✓ グローバル人材育成の促進では、日本学生支援機構(JASSO)の海外留学支援制度を活用して、長期・短期留学に参加した学生の国際的な視野と実践力を備えた人材の育成が図られた。 ✓ 学内外および地域との連携においては、各種イベント活動を実施し、地域社会との結びつきが強化された。その成果として、2 人の留学生が地元企業に就職をした。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 海外大学との交流の推進	✓ 7 月には、中国の協定校である上海大学社会学院から学生 17 人と教職員 1 人が来学し、本学社会福祉学科の短期研修に参加した。 ✓ 8 月から 9 月にかけては、本学の学生 22 人がフィリピンの協定校にて 1 カ月間の短期研修留学に参加し、英語力の向上およびグローバルな視野の拡大を図った。 ✓ 11 月には、中国の協定校である上海中僑職業技術大学から学生 24 人と教職員 3 人が来学し、日本文化の体験や学生同士の交流を行った。 ✓ 令和 7(2025)年 2 月には、イギリスの協定校であるパードンから学生 5 人と教職員 1 人が来学し、本学で 2 週間の研修を受けた。本学国際観光学科グローバルツーリズムコースの学生との交流も実現した。
(2) 留学生募集の強化	✓ アジア圏を中心に留学生募集活動を行った結果、令和 6(2024)年度の春季・秋季あわせて 134 人の留学生が入学した。令和 6(2024)年 11 月 1 日時点では、外国人留学生の在籍数は 293 人に達し、令和 2(2020)年以来最多となっている。
(3) 留学生支援の充実化	✓ 留学生が快適に寮生活を送れるよう、留学生専用の借り上げ宿舎において、老朽部分の修繕や Wi-Fi などの設備整備を行った。 ✓ 令和 6(2024)年度にはチューター制度が整備されていなかったが、近年ネパール出身の学生の受入れが増加していることから、外部よりネパール出身の非常勤職員を配置した。 ✓ 令和 6(2024)年度も前期・後期の 2 回にわたり、留学生との個別面談を実施し、在籍管理の徹底を図った。
(4) グローバル人材育成の促進	✓ 令和 6(2024)年度は、12 人の学生が JASSO の海外留学支援制度を利用した。 ✓ 海外の大学との交流活動の機会が増加する中で、本学では学生のグローバル人材育成の促進に努めた。 ✓ 令和 6(2024)年度は、長期交換留学に 20 人、短期留学に 22 人が参加し、グローバ

	ル人材の育成を推進した。
(5) 学内外および地域との連携推進	✓ 令和 6(2024)年度も例年通り、スポーツ交流会、モニターツアー、企業と留学生の意見交換会などの各種イベントを実施した。その結果、2 人の留学生が佐世保市内の企業への就職を果たした。

(7) 学生募集・広報活動

取組の総括	
✓ 令和 7(2025)年度春季は、455 人(令和 6(2024)年度比▲12 人)の入学で、春季入学定員比 88.3%、1 年次入学定員比 90.3%となり、定員充足には至らなかった。学科別の 1 年次入学定員比は、国際観光学科 117.9%(前年 115.9%) 前年比+4 人と増加した一方で、社会福祉学科 60.0%(前年 65.0%) 前年比▲3 人、健康栄養学科 77.5%(前年 86.3%) 前年比▲7 人、薬学科 69.2%(前年 75.0%) ▲7 人と減少した。国際観光学科の邦人志願者は対前年比 128%と増加し、留学生の入学数は減少したが入学定員を充足した。社会福祉学科は志願者対前年比 106%、健康栄養学科の志願者は前年比 104%と増加したものの歩留まり率が前年を下回る結果となった。薬学科は志願者対前年比 72%の状況において、一般選抜 A 日程・共通テスト利用前期志願者の歩留まり率が過去 5 年間で最高値ではあったが前年入学人数には至らなかった。受験者一人当たりの併願校数が減少している状況において、本学への志望順位度を高めるために広報手段の拡充と訴求ポイントを整理した対策を講じて次年度は定員充足を目指す。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 定員確保	✓ 入学定員と入学人数は下記の《学生募集の計画値と実績》の通りである。全学部 1 年生、編入学生、大学院の入学定員充足による安定した収容定員の維持を目指しての学生募集活動であったが、入学定員充足に至らなかった。秋季入学での積み上げを図る。
(2) アドミッション・ポリシーの対応	✓ 入試改革内容と現アドミッション・ポリシーとの整合性の確認を行っている。本年一部改訂し、令和 8(2026)年度の入学受け入れ方針とした。今後も必要に応じて変更内容を検討し、見直し後の検証を入試・募集委員で行う。
(3) 学部学生の募集	✓ 進学説明会については、過去に実施した高校内説明会、会場説明会の実績について検証し、継続・不参加・新規参加するものを編成し、高校内 104 件、会場 112 件に参加し、延べ 2,735 人に説明を行った。次年度も計画的かつ積極的に参画することとしたい。 ✓ 高校訪問については、志願者入学実績をベースに、訪問校リストを再編し、年 1～3 回の訪問校を設定した。昨年度とほぼ同数の 324 校 439 回の実績。次年度も情報伝達・収集を行い志願者獲得に繋げたい。 ✓ 進路選択活動の早期化に対応するために Web 広告配信を 6 月、7 月に追加実施した。上記の進学説明会や各種広報媒体からの資料請求者の保有リストは令和 7(2025)年 3 月末時点において 31,638 人、前年比では 2,652 人増加し順調に推移した。これらを入学志願に繋げるために各学科の訴求ポイントを明確にして競合大学との差別化を図り定員確保を目指す。
(4) 大学院生の募集	✓ 大学院生募集については、学部在学生を中心に各研究科長・専攻長が責任を持って定員確保に向けて取り組んでいる。令和 7(2025)年春季は 16 人(前年 18 人)の入学であった。
(5) 外国人留学生の募集	✓ 国際交流・留学生支援センターを中心として、国内・海外における計画的な募集活動を実施している。人間社会学部の 1 年次入学者は、42 人(前年度 66 人)の入学。編入学生については人間社会学部 14 人(前年 14 人)、薬学部 2 人(前年 0 人)。また薬学部の 1 年次では韓国からの志願者が、令和元(2019)年度の 17 人をピークに、減少傾向であり令和 7(2025)年度は 2 人(前年 5 人)の入学者。引き続き国際観光学科の秋季入学をはじめとして収容定員確保を図っていく。
(6) 社会人学生の募集	✓ 社会人学生の募集としてはホームページやパンフレットで案内し、特別選抜区分の中で社会人入試を 11 月と 12 月に設定。社会福祉学科に 1 人の志願者(前年国際観光 1 人、社会福祉 1 人)があり合格し入学。
(7) 高校との連携・協力	✓ 高校から依頼される出張講義に可能な限り参加することとし、21 件 24 講座実施した。学科別では、国際観光 6 回、社会福祉 3 回、健康栄養 4 回、薬 11 回。 ✓ 九州文化学園高等学校からの入学者は 40 人(前年 33 人)と増加し、国際観光学科が前年の 11 人から 26 人と増加したが他学科は減少した。引き続き次年度も情報交換や説明会により学園内部進学者の安定的な入学を図っていく。また、他校においても高大連携の案内強化に努める。
(8) 既存入試制度の実施・改善	✓ 令和 7(2025)年度入試では学習指導要領改訂に伴い出題教科を変更して実施した。また大学入学共通テスト利用選抜においては旧課程履修者に対する経過措置として本年のみ新教育課程と旧教育課程の二つの選抜方法で実施する事とした。 ✓ 薬学部の特別選抜区分に高等学校での探究活動を評価に加えた理系探求型入試を

	新設した。志願者は無かったが、今後も出張講義や体験学習等との連携により出願促進を図る。 ✓ 沖縄県からの受験生の利便性向上と費用負担の軽減による志願者数の回復を図るために、総合型選抜Ⅱ期と指定校特別推薦入試において那覇会場を新設した。この入試区分では 8 人が受験した。
(9) その他	✓ オープンキャンパスにおいては、7 月・8 月に計 3 回実施し 869 組 1,470 人の実績。昨年の 867 組 1,381 人から微増。参加希望者数は毎年増加傾向にある。3 月開催においては、高校生 202 人と 115 人の同伴参加があり、前年に引き続き 300 人を超える動員となった。進路選択活動の早期化により高校 1・2 年生の参加者が増加しており、参加後から次年度のフォローにも重点を置いて対応していく。 ✓ 5 年目となる QSP による鎮西学院大学、長崎外国語大学との 3 大学共同入試「地域創生支援リーダー育成入試」では、令和 6(2024)年度に初めての入学者 5 人を迎え入れ、本年も県内高校訪問と高校 3 年生への DM にて出願者を募り、4 人が志願し入学者 2 人の実績。少子化が進む長崎県における地域創生の担い手のさらなる募集に努める。

《学生募集の計画値と実績》

項目				令和 7(2025)年度入試		令和 6(2024) 年度 入試実績	前年度 比較
				計画 設定値	実績(春季)		
留学生入学者の目標人数(編入学生含む)				70 人	60 人	86 人	▲26 人
入学者数				530 人	455 人	467 人	▲12 人
入学者数	学部	国際観光学科	入学者数	200 人	230 人	226 人	+4 人
			編入学者数	30 人	12 人	14 人	▲2 人
		社会福祉学科	入学者数	60 人	36 人	39 人	▲3 人
			編入学者数	0 人	6 人	4 人	+2 人
		健康栄養学科	入学者数	80 人	62 人	69 人	▲7 人
			編入学者数	10 人	8 人	6 人	+2 人
		薬学科	入学者数	120 人	83 人	90 人	▲7 人
			編入学者数	0 人	2 人	1 人	+1 人
	計			500 人	439 人	449 人	▲10 人
	大学院	観光学専攻		10 人	5 人	9 人	▲4 人
		社会福祉学専攻		10 人	2 人	6 人	▲4 人
		地域マネジメント専攻		3 人	3 人	2 人	+1 人
		健康栄養学専攻		4 人	3 人	0 人	+3 人
		医療薬学専攻		3 人	3 人	1 人	+2 人
	計			30 人	16 人	18 人	▲2 人

(8) 教職員の人材開発

取組の総括	
✓ 本学の SD・FD 活動は、自己点検・評価委員会において、全学的取組みと各部局等で実施する取組みの調整を図り、組織的且つ計画的に実施できるよう、実施計画を策定し目標達成に努めた。 ✓ 全学 SD・FD 活動として、授業アンケートの実施、公開授業の推進、教育向上研究会(各種講演会等)	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) SD・FD の計画および調整	✓ 令和 6(2024)年度 SD・FD 実施計画は、第 1 回自己点検・評価委員会において審議し、実施した。
(2) 新着任研修	✓ 新着任 SD・FD および授業研修会を、自己点検・評価委員会および教育基盤センター運営委員会との共催で実施した。 4 月 1 日(対面) 「新着任教員対象 SD・FD」 4 月 2 日(対面) 「第 1 回授業研修会」 4 月 10 日(対面) 「ICT 活用による教育内容向上に関する研修会」 7 月 3 日(対面) 「第 2 回授業研修会」 12 月 6 日(Web) 「第 3 回授業研修会」(QSP 共同 SD・FD) 12 月 9 日～12 月 26 日(Web) 「第 4 回授業研修会」
(3) SD 活動	✓ 大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取組として、一部 FD と共催で、以下の取組を実施した。 4 月 24 日～5 月 15 日(Web) 「修学上の配慮学生に関する SD・FD」 4 月 24 日～5 月 23 日(Web) 「ハラスメント防止に関する SD・FD」

	6月26日(対面)「認証評価受審にあたって」 7月31日(対面)「大学の財務状況に関して」 9月3日～10月8日(Web)「利益相反マネジメント研修」 9月25日(対面)「機関別認証評価に関して」 10月4日～10月18日(Web)「学生支援SD・FD」 12月6日(Web)「QSP共同SD・FD」
(4) FD 活動(教育改善・教育向上)	✓ 教育内容・方法等の改善の工夫・開発と、効果的な実施のため、一部SDと共催で、以下の取組を実施した。 【1.授業アンケートの実施】 前期・後期それぞれ、非常勤を含む全教員を対象に、原則WEB方式で授業アンケートを実施した。その結果を基に各学部で学部長面談を実施し改善向上に努めた。すべての基幹教員は、授業アンケートの結果に対して「アクションプランシート」で課題抽出と改善策を自己点検・評価委員会に報告した。 【2.公開授業の推進】 前期・後期に全ての学部で授業公開を実施すると共に、授業公開終了後に各学部において報告会を開催し、公開授業に対する課題共有等の意見交換会を行い、その内容は自己点検・評価委員会に報告した。 【3.教育向上研究会(各種講演等)】 4月24日～5月15日(Web)「修学上の配慮学生に関するSD・FD」 4月24日～5月23日(Web)「ハラスメント防止に関するSD・FD」 5月9日～6月7日(Web)「研究倫理研修」 6月26日(対面)「認証評価受審にあたって」 7月8日～7月22日(Web)「コンプライアンス(研究費の不正について)」 7月31日(対面)「大学の財務状況に関して」 7月31日(対面)「科研費申請に係る勉強会」 9月3日～10月8日(Web)「利益相反マネジメント研修」 9月25日(対面)「機関別認証評価に関して」 10月4日～10月18日(Web)「学生支援SD・FD」 12月6日(Web)「QSP共同SD・FD」
(5) SD・FD の大学間連携(QSP)	✓ 他大学との連携事業として、QSPにおける合同SD・FDを実施した。 ✓ QSP 参画他大学との連携事業として、相互に開催を案内し、必要に応じて参加することで、QSPにおける合同SD・FDを実施。 ✓ 12/6(金)「数理・データサイエンス・AI 教育の充実」に向けた実践と課題(本学・総科大)

(9) ステークホルダーとの連携強化

取組の総括	
【地域連携室(QSP 含)、スポーツ支援・振興室】 ✓ ステークホルダーとの連携強化については、特に「知の拠点」である本学と初等・中等教育機関と連携、本学園・本学との包括連携協定締結団体との連携を深化することで、本学園・本学のステークホルダー増に繋がると想定する。 【図書課】 ✓ 全国図書館大会長崎大会において、長崎県大学図書館協議会メンバーとして分科会の準備から当日の開催等に携わり盛会で終えられた。 ✓ 佐世保市立図書館共催の「ビブリオバトル 2024 in SASEBO」を、佐世保市立図書館で開催し本学代表を含む各市民団体代表との書評合戦をおこなった。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 産官学(地域・企業・高校・大学等)連携事業	✓ 【長崎県若者定着課】 県内大学等による地域人材育成・定着支援補助金：157,870円 ✓ STARTUP99 第6回西九州させば広域都市圏ビジネスプランコンテスト 1/25(土)同コンテスト最終審査会1組進出。 ✓ 1/27(金)2024年度第1回地域連携連絡会議兼第7回スポーツサポートセンター会議* 計7団体(10部署)学外者12人参加 *本学園・本学と包括連携協定締結団体との情報交換会
(2) 公開講座・寄付講座関連事業	✓ 公開講座： ○9/14(土)家族で楽しむ子どもの食事～食物アレルギー編～ 21人 ○11/9(土)NIU キッズキャンパス 32講座 小学生238人 同伴者203人 スポーツアナリスト講座(サッカー編) 51人 ○11/24(土)スポーツアナリスト講座(野球編) 31人

	○11/30(土)DX 入門と実践ガイド～DX の基礎から応用まで～ 84 人 ○12/8(土)「大学スポーツ×地域スポーツ×人材育成」第 1 弾キックオフセミナー 53 人 ○12/14(土)「大学スポーツ×地域スポーツ×人材育成」第 2 弾スポーツマネージメントセミナー 72 人 「大学スポーツ×地域スポーツ×人材育成」第 3 弾クラブ化・指導者育成セミナー 158 人 ○12/15(日)「大学スポーツ×地域スポーツ×人材育成」第 4 弾スポーツマネージメントセミナー 112 人 ○12/22(日)「大学スポーツ×地域スポーツ×人材育成」第 5 弾クラブ化・指導者育成セミナー 39 人 ○1/25(土)佐世保の DESIGN 65 人 ✓ 寄付講座：野村證券(株)佐世保支店 後期開講科目「資産管理とライフプラン」 ✓ 寄付講座：回生薬局 科目「ホスピタリティ演習Ⅱ」 ✓ 寄付講座：東ファーマシー(株) 科目「ホスピタリティ演習Ⅲ、総合演習Ⅱ」
(3) 催事関連事業	✓ 10/13(日)第 11 回地域の期待に応える実践活動 対象：薬学部 4 年生 104 人 協力団体・個人：団体 13, 個人 9(本学 OB・OG)
(4) QSP 事業	✓ 令和 6(2024)年度は、QSP の第 2 期中期計画 2 年目となり、初年度の課題を踏まえ、QSP 各ワーキンググループ(以下 WG)で事業計画の推進を図った。 ✓ 具体的には、共同入試、リケジョ事業、リカレント教育、健康ウォーキング、波佐見町の地場産業支援、幼児教育・保育現場における家庭支援に関する共同研究、留学生と地域との国際交流(異文化理解教室など)等に取り組んでいる。また、共同での業務として、共同 IR、SDFD、人事交流、QSP 人材リストの活用、施設設備の共同利用などにも引き続き実績を挙げている。 ✓ また共同入試(地域創生支援リーダー育成入試)では、令和 6(2024)年度合格者 5 人に続き、令和 7(2025)年度も 2 人が入学した。全員本学合格者で、社会福祉学科 1 人、薬学部 1 人。今後地元就職に係る就活プログラムを実施する。 ✓ 私立大学等改革総合支援事業タイプ 3(PF 型)申請に当たっては、調査票得点率 95%と高得点を獲得、自己評価も A として令和 7(2025)年 2 月に採択され、14,400 千円の補助金を獲得した。 ✓ 7/1(月)令和 5(2024)年度の活動実績、自己評価を取りまとめ、QSP 外部評価委員会による外部評価を受けた。9/25(水)講評で A 評価。
(5) ハイスクール茶会事業	✓ 5/18(土)開催令和 6(2024)年度第 11 回参加高校：15 高校、高校生参加者：175 人
(6) NIU キッズキャンパス：小学生版公開講座	✓ 11/9(土)NIU キッズキャンパス 32 講座 小学生 238 人 同伴者 203 人
(7) 初等・中等教育機関連携事業	✓ 7/11(木)佐世保北中学校研究所訪問 4 学科対応 参加者：生徒 39 人、引率者 2 人 ✓ 8/9(金)江上小学校子ども会夏休みイベント「薬学部見学・実験教室」について 20 人 ✓ 10/18(金)佐世保東翔高校「創造 1」高校 1 年生 ✓ 12/14(土)開催「NIU スポーツフェスタ 2024」参加者：約 500 人 ✓ 九文小学校：放課後探求型活動支援：強化指定部 7 回
(8) 「地域スポーツ振興・大学スポーツ振興」事業	✓ 2024 年度長崎県競技力向上対策本部：【国体強化指定クラブ】女子バレーボール部、アーチェリー部 ✓ 2024 年度長崎県競技力向上対策本部委員：スポーツ支援・振興室長 徳吉 ✓ 2024 年度公益財団法人長崎県スポーツ協会評議員兼競技力委員会委員：スポーツ支援・振興室長 徳吉 ✓ 2024 年度東彼杵町部活動在り方検討委員会委員：スポーツ支援・振興室長 徳吉 ✓ UNIVAS 総合推進委員会 Data Library 検討部会委員：スポーツ支援・振興室長 徳吉 ✓ UNIVAS AWARDS2024・25：スポーツ統括部局/SA 賞「大学スポーツ組織運営優秀取組賞」受賞(全国 5 大学) ✓ スポーツ庁公募事業採択事業「感動する大学スポーツ総合支援事業」事業②③事業 ②③委託事業費：約 4,000 千円 ✓ 8/1～1/27 本学ウェブサイト「NIU スポーツ」閲覧数 16,160 件 ユーザー 7,559 人 評価(5 段階)：事業全体学生評価 4.293 自己点検評価 3.63 外部評価 3.62 *外部評価：21 団体
(9) 同窓会	✓ 同窓会バックアップ支援制度、全国大会出場支援：12 団体
(10) 地域連携協議会	✓ 再開できていない。

(11) 保護者会	✓ 対面 347 組 474 人、オンライン 130 組の参加。アンケートの結果では高い満足度(対面：99%、オンライン：100%)を維持できており、本会の開催意義を十分に果たすことができた。
-----------	--

(10) 学園内の連携促進

取組の総括	
✓ 各学科・研究科は九州文化高等学校との高大連携事業を中心として、学園内の各学校に講師派遣を行ったり、共同研究を行ったりと緊密な連携を持つように努めた。その成果として、学園内部からの入学、編入学を得ることが出来た。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 国際観光学科の取組	✓ 九州文化学園高等学校から 11 人の入学、長崎短期大学からは 6 人の編入学があった。 ✓ 学園内の各学校に講師を派遣し、協力を行った。
(2) 社会福祉学科の取組	✓ 九州文化学園小中学校からの出前授業等の依頼に機敏に対応し、将来の福祉人材の確保につなげる企画を実施した。 ✓ 九州文化学園高等学校福祉コースとの緊密な連携を図り、各種交流イベントや、日常授業への本学科教員の参加などにより「顔の見える」関係を構築し、内部進学者の増加を図った。
(3) 健康栄養学科の取組	✓ 学園内の九州文化学園高等学校及び長崎短期大学との連携を強化し、内部進学を促進を図った(前年度 2 人及び 4 人から、今年度 13 人及び 4 人)。 ✓ 学園内の各学校に非常勤講師を派遣した。 ✓ 薬学部及び長崎短期大学との共同研究を継続して行い、論文や学会発表等で成果を報告した。
(4) 薬学科の取組	✓ 長崎短期大学、九州文化学園歯科衛生士学院、調理師専門学校、九州文化学園高等学校衛生看護専攻科へ講師を派遣した。 ✓ 九州文化学園高等学校の教員と意見交換会を行い、学園内進学を強化を図った。
(5) 人間社会学研究科の取組	✓ 長崎短期大学の教員を対象に進学を促したが、至らなかった。今後も学園内の募集の促進に努める。
(6) 健康管理学研究科の取組	✓ 薬学部及び長崎短期大学との共同研究を継続して行い、論文や学会発表等で成果を報告した。
(7) 薬学研究科の取組	✓ 学内連携を促進するため、最新の研究成果を学園内に発信した。

(11) SDGs の推進

取組の総括	
✓ 令和 6(2024)年度の本学の SDGs に関する取組について、実績報告書にまとめた。 ✓ SDGs の取組の一環として、「2024 年度ピア・サポート夏季研修会」や『家族で楽しむ子どもの食事～食物アレルギー編～』を開催した。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 【学園全体】SDGs に関する連絡協議会	✓ SDGs 推進宣言の日イベントに向けて、令和 6(2024)年度の本学の SDGs に関する取組について実績報告書にまとめた。
(2) 2024 年度ピア・サポート夏季研修会	✓ 車いすの仕組みを学んだあとは、実際に車いすに乗りながら、パラリンピックの正式種目である「ボッチャ」の体験。そのなかで参加者は、車いす使用者の視点から乗り心地の体験をすることが出来、よりよい支援の方法を考えてもらう機会となった。
(3) 家族で楽しむ子どもの食事～食物アレルギー編～	✓ 目標 3「すべての人に健康と福祉を」に該当する内容で、食物アレルギーに関する講座を開催。

(12) 管理運営と業務・経費効率化

取組の総括	
✓ 中期計画の達成に向けて、入学者減をカバーすべく経費圧縮による収支改善に努めた。 ✓ 経常費補助金は令和 5(2023)年度の 500,008 千円から令和 6(2024)年度は 412,357 千円と 87,651 千円の減収となった。また、教員の科研費獲得額は令和 5(2023)年度の 49,400 千円から令和 6(2024)年度は 59,930 千円と増加した。 ✓ 令和 5(2023)年度よりスタートした「経営健全化 WG」の取組である光熱水費削減とペーパーレス化は、令和 6(2024)年度についても引き続き実施し、全学的な取組となった。 ✓ 退学・除籍等の離学防止を「離学予備軍の早期発見・対応」「入学後のミスマッチ」「学修支援」の 3 つのアクションプランにより全学で取り組んだ。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 固定経費の見直し	✓ 清掃、ビル管理業務、構内剪定等既契約を見直し、経費削減を図った。
(2) 省エネの推進	✓ 経営健全化 WG を中心に、授業が行われていない教室の空調や照明などの使用状

	況を見回るなど、全学的に光熱水費削減に努めた。 ✓ デマンドコントロールの機能を上げて、節電に努めた。
(3) 経費支出の効率化	✓ 既存業者にこだわらず、新規業者を開拓し相見積をとるなどして効率化を図った。
(4) 外部資金獲得力の向上	✓ 教員の科研費獲得を推奨するなどして、外部資金獲得に注力した。
(5) 適切な予算執行の管理	✓ 会計のルールに則り、適切な予算執行を行った。
(6) 光熱水費	✓ 全学 LED 化等により、光熱水費圧縮を図った。
(7) ペーパーレス	✓ 経営健全化 WG を中心に呼びかけ、ペーパーレス化を推進した。
(8) 離学防止	✓ 退学・除籍等の離学防止を「離学予備軍の早期発見・対応」「入学後のミスマッチ」「学修支援」の 3 つのアクションプランにより全学で取り組んだ。

(13) 施設・設備・システム等の環境整備

取組の総括	
✓ 開学から 25 年が経過し、施設・設備、備品の経年劣化が進行している。教育活動への優先度、重要度を勘案しながら優先順位をつけて対応した。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 薬学部大型研究機器・設備整備	✓ 薬学研究棟 1 階南側の各部屋に空調機を設置した。
(2) 空調関係・熱源更新	✓ 1 号館の熱源及び 4 号館 2 階 2 系統空調機の更新を実施した。
(3) 「第 2 体育館」の検討	✓ 令和 6(2024)年 5 月 1 日現在：『第 2 体育館』の検討、本学強化指定部 9 競技 13 団体:381 人+体育会運動部 7 団体:116 人 計 497 人 学生(1,994 人)対比 24.9% ✓ 特に国際観光学科 2024.4.1 現在、新入学生：1 年生 247 人の内、強化指定部指導者によるスカウト活動において 95 人学生募集している現状(新入学生：1 年生対比 38.5%)、今後の学生募集、さらにスポーツ系学生の満足度向上の為には、約 25% のスポーツ系学生が部活動に励んでいる中、トレーニング室も無い総合大学であり、「トレーニング室、戦略室(AV 機器)、バレーボールコート 2 面」が備わった「第 2 体育館」を設置することは、体育会系運動部だけでなく、一般の学生の満足度が向上することも期待されると想定。今後も本学園、関係部署とも相談していきたい。

(14) 点検評価

取組の総括	
✓ 全学的な内部質保証は学長の責任の下、自己点検・評価委員会を中心に推進した。学部・研究科、その他部局の内部質保証は、部局長当該構成員の責任に基づいて、各種調査等からの課題の抽出を行ない、学部学科の改善向上策を検討し、PDCA サイクルを恒常的に循環させ、大学の改善・改革を着実に推進した。 ✓ 内部質保証の質を維持向上するため、第三者の視点を踏まえた自己点検・評価を実施するにあたっては、授業アンケート、在学生調査、学長カフェ、保護者懇談会一部 WEB 対応、外部評価委員会等の機会を通じて、学生、保護者、外部評価委員などのステークホルダーから意見を収集し、点検・評価を実施した。 ✓ 学生の「授業アンケート」・「卒業生アンケート」等や、教職員に対する SD・FD 実施後のアンケート、「自己点検・評価 データ編」、教学データ 科目履修状況、GPA、学生数等自己点検・評価の基礎となる学内の教育研究情報の適切な把握と分析を行ない、エビデンスに基づく改善・改革が推進されるように情報共有を行った。また、その結果である本学の研究活動や学修実態などの特色や傾向、改善状況を積極的にわかりやすくホームページ等で公開した。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 自己点検評価	✓ 自己点検・評価の実施と、令和 5(2023)年度自己点検・評価 エビデンス集を刊行した。 ✓ 授業アンケート、在学生調査、授業公開等を適切に実施した。 ✓ 教育評価の顕彰としてのベストティーチャー賞における「授業アンケート部門」に関しては基準を見直した。また、新たに「ベストティーチングイノベーション部門」を創設した。 ✓ 意思決定支援及び点検評価における最適な KPI(Key Performance Indicator)の設定のため IR センターにて検討を行ない、令和 6(2024)年度中に試案を策定し、自己点検・評価委員会へ上程する予定である。
(2) 機関別認証評価	✓ 認証評価受審結果の改善とその改善サイクルの確立のため、自己点検・評価委員会で定期的に改善状況を点検・評価していくことを継続している。 ✓ 第 4 クールの機関別認証評価受審を令和 7(2025)年度に受審するため、その準備に取り組んでいる。
(3) 分野別評価	✓ 薬学教育評価を令和 7(2025)年度に受審することが確認されており、その準備に取り組んでいる。
(4) 動物実験外部検証	✓ 令和 6(2024)年 12 月に動物実験の実施体制に関する検証を受けた。検証の結果、適切な保守点検の下、衛生的な管理がなされ、適切な動物実験が実施されていると

	の評価を受けたが、規程及び体制等の整備状況について指摘があった。現在、指摘に沿った規程の改正、及び体制の見直しを進めている。
--	--

(15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

取組の総括	
✓ 部室棟および各種講義棟、第2体育館などの大型スポーツ施設など、キャンパスの魅力と利便性向上として求められる大型案件について、今後も検討を進める。 ✓ 研究環境の改善・充実については、引き続き優先順位をつけて予算化して実現を図る必要がある。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 健康栄養学科の案件	✓ 管理栄養士の社会的ニーズに応じた知識・技能を修得できるカリキュラムの改編の検討。 ✓ 調理や集団給食の技術を修得するために必要な調理実習室・集団給食実習室の改築、増設。 ✓ 教育環境の整備(老朽化した実習機器の更新、講義室・実習室のカビ対策)。
(2) 人間社会学研究科の案件	✓ 院生研究室の環境整備の検討。 ✓ 院生研究費(調査費用・文献購入費用など)充実の検討。 ✓ 研究内容の多様化に対応するカリキュラム改編の検討。 ✓ 博士学位取得者に対する教育歴としての非常勤講師採用の対策。
(3) 健康管理学研究科の案件	✓ 研究環境の整備(ラボの設置、研究機器の新規導入・更新)。
(4) 薬学研究科の案件	✓ 研究環境の整備(ラボの設置、研究機器の新規導入・更新)。
(5) スポーツ支援・振興室の案件(第2体育館)	✓ 令和6(2024)年5月1日現在:『第2体育館』の検討、本学強化指定部9競技13団体:381人+体育会運動部7団体:116人 計497人 学生(1,994人)対比24.9% ✓ 特に国際観光学科令和6(2024)年4月1日現在、新入学生:1年生247人の内、強化指定部指導者によるスカウト活動において95人学生募集している現状(新入学生:1年生対比38.5%)、今後の学生募集、さらにスポーツ系学生の満足度向上の為には、約25%のスポーツ系学生が部活動に励んでいる中、トレーニング室も無い総合大学であり、「トレーニング室、戦略室(AV機器)、バレーボールコート2面」が備わった「第2体育館」を設置することは、体育会系運動部だけでなく、一般の学生の満足度が向上することも期待されると想定。今後も本学園、関係部署とも相談していきたい。 ✓ またスポーツ庁公募事業採択については「令和元(2019)年、令和2(2020)年、令和6(2024)年」と3回採択、さらに「UNIVAS AWARDS 2024-25」では全国5大学の「優秀取組賞」に選出される等、「大学スポーツ=NIUスポーツ」ブランド向上に繋がっており、その状況の中、トレーニング室が無い劣悪な環境は打破したい。

2.長崎短期大学

1) 経営理念・経営目標

経営理念	For Community and With Community 地域中核人材育成・地域と成長する日本版コミュニティーカレッジ
経営目標	教職協働による学生支援の充実 ICTを活用した教育環境の高度化 定員充足による財務基盤の安定と国家試験合格率の向上

2) 1年間の総括と評価

✓ 令和 6 年度私立大学等経常費補助金額は、申請した全国の私立短大 259 校中 2 位の結果であり、教育および研究面から大学改革に教職一体となって取り組んだ成果と言える。
✓ 定員充足は、全体では令和 5(2023)年度と比較して微減だが、留学生は、入学前教育の充実等を図った結果、昨年度並みの入学者数を確保している。
✓ 財務については、経常収支黒字化を達成でき、昨年度比で約 2,100 万円収支改善したが、財務基盤の安定のためにはさらなる徹底した経営改善が次年度以降の課題である。

3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

1	成長力の確保	✓ 少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える、私立大学等戦略的経営改革支援(以下「メニュー1」と記載)及び複数大学等の連携による機能の共同化・高度化を通じた経営改革支援(以下「メニュー2」と記載)の 2 つの新たな補助金を獲得する事ができた。よって、次年度以降の教育改革を一層推進することができる。 ✓ 九州文化学園高等学校との連携事業についてはメニュー1 事業の 1 つである「キラリ 1」(九州文化学園高等学校と連携した保育者養成(以下 キラリ 1 と記載))に基づき、高大連携事業推進のための協議を進めた。 ✓ 既存の入学前教育に加え、新たな介護人材の受け入れ先(三省会)を開拓し入学に結び付けることができた。
2	教育力の向上	✓ FD を組織的・計画的に実施し教育の質向上と教育組織の能力向上を図った。 ✓ 授業アンケートの分析、教員評価(職務報告書の作成と上長との面談)およびピアレビューにより教員個々の能力向上を図った。
3	約定返済の確実な履行	✓ 定員確保ワーキンググループは開催できていない。令和 7(2025)年度の収容定員確保については、85.9%であった。(令和 7(2025)年 4 月 1 日現在)奨学金については昨年度より減少傾向にあるが運用に関しては再検討の必要性がある。

4) 経営改善(健全化)に関する成果

1	収入の増加	✓ 入学者数は 28 人減となり、入学者数及び入学検定料の増強などの目標を達成することはできなかった。 ✓ メニュー1、メニュー2 の新たな経営改革支援事業に採択され、補助金収入が昨年度より改善はしたものの、昨年度獲得できていた改革総合支援事業タイプ 3 が不採択であるなど、減収している項目もあるため、次年度以降の課題として検討を図る。 ✓ 学生数確保のため新たなマーケット開拓の試みと一般選抜対策として、12 月末から 1 か月間 Web 広告(Instagram 等)を実施し、長崎県の保護者層、高校生層に対して広く広報を行った。 ✓ 高校 1・2 年生を中心とした中長期的な募集戦略として、8 月に実施したオープンキャンパスでは、1.2 年生を対象とした内容を企画・実施した。九州文化学園高等学校の 1 年生全員に対して進学イベントを実施した。目標の 60 人に対し、新卒の入学者は 31 人とどまった。
2	支出の効率化	✓ 邦人の奨学金については前年度より奨学金を圧縮することが出来た。募集媒体の効果の検証については、日々検証し経費の圧縮に努めている。 ✓ 入学者ベースで奨学金の圧縮を図ることはできたが、邦人・留学生の奨学金のバランスについては適正化を図ることができなかった。
3	人員・業務の効率化	✓ 学生募集における一般選抜対策として、新規に 12 月末から 1 か月間 Web 広告(Instagram 等)を実施し、長崎県の保護者層、高校生層に対して広く広報を行った。長崎国際大学との連携については、引き続き同大学が参加する長崎県外の会場形式進学説明会を中心に連携をした。長崎国際大学からの転入学および 1 年次入学は 3 人となった。
4	付加価値向上と広報強化	✓ プレスリリースによる認知度向上については、年間目標の 50 本に対し今年度は 22 本(昨年度 28 本)と目標には届かなかった。しかし、委員会において月締めでの各学科・コースのプレスリリースの数を共有し、促進を図った。

5) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	✓ 栄養士実力認定試験対策を強化し、A 判定取得者割合の増加を目指した結果、令和 5(2023)年度は 31.6%(受験者 38 人中 12 人)だった A 判定取得者が、51.9%(受験者 27 人中 14 人)と増加した。 ✓ 製菓衛生師国家試験合格率 100%を目指し、対策講座の充実および個別指導の実施を図ったが、結果は 18 人中 12 人の合格と合格率は 66.7%と振るわなかった。個々の学生の学力、学習方法の確立状況を鑑み、更なる個別対応が必要であった。 ✓ 2 年次には介護福祉士国家試験対策講座を週 2〜3 回行い、理解が不足している学生においては個別指導やグループ指導を行った。その結果、日本人学生の国家試験合格率 100%であったが、留学生の合格率は 17%であった。今後は、留学生の日本語能力と読解力の向上を図りたい。 ✓ TOEIC-IP テスト、韓国語検定、中国語検定、その他検定について、可能な限り検定受験を促し、成果の可視化ができた。 ✓ 全国保育士養成協会九州ブロックセミナー長崎大会に全教員が参加し、第 4 分科会(学生支援)「配慮を要する学生への支援について」を運営した。現場保育者と養成校教員のディスカッションを通じて課題を共有し、本学の学生支援に関する強みや課題について再確認した。これにより自己研鑽およびチーム力向上が図られた。 ✓ 九州文化学園高等学校から入学者は目標の 60 人に対し、31 人とどまった。 ✓ 長崎県内をメインターゲットとして捉え、県央地区・西海地区からの志願者 35 人の達成を目指したが 25 人とどまった。
戦略Ⅱ	✓ 栄養士としての就職率向上を図り学内で企業説明会を実施する等おこなった結果、令和 5(2023)年度は 55.9%(34 人中 19 人)であった栄養士就職率が、令和 6(2024)年度は 96.0%(25 人中 24 人)と増加した。 ✓ インターンシップ(長期就業体験)の充実を図り、就職率向上を目指したところ、1 年次のインターンシップの経験が就職活動に大きな影響があったと学生自身が感じており、例年に比べ夏季休暇前までにホテル関係の内定を得る学生が多かった。しかし就職活動に消極的な一定数の学生に対しては例年同様卒業後まで指導の継続が必要であった。(製菓コース) ✓ 就職に関しての意識づけが遅く、3 月末時点で就職率 94%であった。今後は、2 年前期で就職についてのモチベーションを高め、年内にはほとんどの学生が内定を獲得できるように支援したい。(製菓コース) ✓ 職業意識の向上のため、ロールモデルとして卒業生と触れ合う機会を設定していく。(製菓コース) ✓ 卒業生に対するリカレント教育の質の向上を目的とし、これまでオンデマンドのみであった管理栄養士国家試験対策講座を対面及びオンデマンドの 2 部構成で実施した。 ✓ 卒業生に関しては、オープンキャンパスやリカレント教育で連携を図ることができた。(介護福祉コース) ✓ 就職率は 100%を維持しているが、留学生の就職では、本人の日本語力もあり、卒業までに決定できないケースがある。さらに就職支援をおこないたい。(介護福祉コース) ✓ 令和 6(2024)年度より、保育学科においてもクォーター制を導入したカリキュラムを運用し、合わせて 1 年次からの教育実習をスタートさせた。保育現場からは 1 年次からの実習は早いとの意見もあったが、実習後の学生の授業に取り組む姿勢の変化、また施設実習にもその経験が生かされるなど実践力の向上が図られた。
戦略Ⅲ	✓ 食物栄養コースにおいては、地域社会と連携した活動の意義を高めるため、実施活動の絞り込みを行い、学内対象 8 件、学外対象 12 件の計 20 件を実施した。 ✓ 卒業生や保護者に対する継続した情報提供として、コース公式ラインを使って各種学校行事等について情報発信を行った。(食物栄養コース) ✓ 今年度の製菓コース保護者会は、1 年生は 2 月のインターンシップ学習成果発表時に、2 年生は 8 月にアフタヌーンティーと同時開催、そして 2 月にデザートブッフェの開催と充実を図ることができたが、悪天候によりいくつか中止となってしまった。しかし、開催日を平日と週末の 2 回設定した事により、参加者を多数募ることができた。 ✓ 製菓コース独自の同窓会開催について、卒業生へのアンケートを実施。令和 7(2025)年 8 月に開催を予定している。 ✓ 10 月 31 日に開催した介護実習施設連絡協議会において、実習の方針や計画、記入用紙の変更などの情報共有を行った結果、学生の実習がスムーズに実施できた。 ✓ 5 月の市民公開講座では「生活習慣病と日常生活について」というテーマで講話を行った。さらに、2 月 22 日には地域の福祉用具専門相談員等と連携し、「負担の少ない介護技術」というテーマで福祉用具を使った講座を開催した。地域・施設職員・卒業生などが参加した。 ✓ 白蝶講座として、介護福祉コース基幹教員による施設での講話など合計 5 回、さらに公開講座を 2 回開催したことにより、認知度は向上したと考える。今後も地域活動を活発に行い、認知度の向上を図りたい。

	✓ 海外留学・国内インターンシップは、問題なく実施できた。保護者会は、希望者対象で、対面又はオンラインでの実施をおこない保護者との連携促進を行えた。 ✓ 保育学科保護者会を開催し、特に配慮が必要な学生の支援に向けて家庭との連携を強化した。同窓会は昨年度、希望者がおらず、開催できなかったため、開催時期と対象を見直し、時期を8月、対象者を卒後3年までとして呼びかけ、今年度は9人の参加があった。 ✓ 佐世保市、波佐見町との連携協定に基づき、各種イベントへの学生ボランティアの派遣や教員の保育施設等への講師派遣を行った。また新たに小値賀町、佐世保市社会福祉協議会と連携協定を結んだ中で、小値賀町では保育施設実習支援事業を活用した「保育学特別演習」を実施し、社会福祉協議会とは「welcome 食堂(地域食堂)」を開催するなど地域及び関係団体との連携を強化した。 ✓ 専攻科においては、インターンシップ園との情報共有を活発におこなった。
戦略Ⅳ	✓ 食物栄養コースでは、Google for Education を用いた教育内容の充実を図るため、WEB 上で利用できる学習ツールなどを用いた。 ✓ 製菓コースでは、Google for Education を用いた教育内容の充実を図ったが、今年度は学内基幹教員の利用にとどまった。 しかし、従来の伝達だけでなく課題提出の活用など一部進んでいる。 ✓ 介護過程等の科目において、レポートやパワーポイントの作成について指導を行い、事例研究発表会の充実を図った。 ✓ 保育学科では、非常勤を含めたほぼ全ての授業で google classroom を活用しており、引き続き有効活用方法をシェアすることで授業に役立たせたい。 ✓ 専攻科では、昨年度、実習における PC を活用した実習日誌、指導案作成について調査した結果に基づき、保育現場と連携して実習日誌や指導案作成における PC 活用を進めた。また、一部の授業において PC でのレポート作成、提出など実施したが、課題も多く、引き続き改善しながら活用方法を検討する。
戦略Ⅴ	✓ 食物栄養コースでは、卒業生アンケート等を参考に、更なる「売り」について検討を行い、オープンキャンパス等の参考とした。 ✓ 近隣高校との関係性を強化するための取り組みとして、北松農業高等学校より食物栄養コースの調理実習や給食実習等また製菓コースの製菓実習等で使用する卵の継続的購入を開始した。 ✓ プレスリリースの発信を行い、長崎新聞、西日本新聞、長崎文化放送、テレビ佐世保等メディアの取材を受ける機会が増加した。 ✓ 製菓衛生師国家試験合格率 100%を目指したが、今年度は 18 人中 12 人の合格で低迷した。 ✓ 製菓コースでは、SNS による情報発信の強化を図ったところ、Instagram のフォロワー数・投稿数は微増したが、HP 掲載数やメディアへの露出は昨年を下回った。 ✓ 日本人学生の介護福祉士国家試験合格率は 100%であったが、留学生の合格率は 17%であった。今後は、留学生の日本語能力と読解力の向上に努め、留学生の合格率の向上を図りたい。 ✓ インスタグラムでの情報発信は年間約 50 件、ホームページは約 10 件の掲載となっている。昨年よりは増加傾向であるが、更なる増加を図り、介護福祉コースの認知度を向上させたい。 ✓ 国際コミュニケーションコース独自のホームページを、より高校生に親しみのある Instagram に切り替え、学生にコースの情報を発信してもらう試みを行った。引き続き、学生中心に行うとともに、情報発信数を増加させていきたい。 ✓ メニュー1 に採択され、「地域との共創による保育人材育成～キラリと光る保育学科教育力開発プロジェクト(以下「キラリプロジェクト」と記載)」がスタートした。その中で、保育人材共創委員会を立ち上げステークホルダーとの連携を深め、養成校と保育現場の課題を共有した。今後キラリプロジェクトの展開による学科の教育力向上と保育の魅力発信を図りたい。 ✓ 研究事業の一環として専攻科の同窓会である「第 5 回専蝶会」を開催し、保育者の資質能力のデータを得た。 ✓ プレスリリースによる認知度向上については、年間目標の 50 本に対し今年度は 22 本(昨年度 28 本)と目標には届かなかった。 ✓ メインターゲットは長崎県とし、長崎県以外のエリアについては、長崎国際大学との共同募集活動を展開し、九州・沖縄の受験対象者に限らず、幅広く高校 1・2 年生にも注視したアプローチを実施した。 ✓ オープンキャンパスを年間 5 回開催し、300 人の受験対象者を目標としていたが 254 人の参加者にとどまった。
戦略Ⅵ	✓ 製菓コースでは、内部進学者確保に向け、九州文化学園高等学校との連携強化を目指し、食物調理科の調理実習への講師派遣他、キャリアデザイン科のフードデザインの授業 2 コマを担当した。 ✓ 九州文化学園高等学校からの内部進学は 1 人のみであり、介護福祉コース全体の定員充足には至っていない。 ✓ 5 校の高校内ガイダンスに参加し進学率の向上を図ったが、定員充足には至らなかった。今後は、高校での体験授業などを行い、定員充足を図りたい。(介護福祉コース) ✓ オープンキャンパス、学園祭での学生企画の学修成果発表が軌道に乗りつつあり、今後の学生募集に

	寄与できるものと推察する。(国際コミュニケーションコース) ✓ 九州文化学園高等学校の保育福祉科保育コースへの「出前授業」を 3 学年に対してそれぞれ 2 回実施し、高校との接続教育の一助とした。 ✓ 専攻科進学ガイダンスについて一定数の参加者があったが、入学志願に結びつかないケースがあった。志願に結びつくよう、ガイダンスの方法等の検討を図る。 ✓ 入学者選抜での奨学制度採用の条件変更を検討しつつ、邦人募集については、奨学金の圧縮を勘案しながら、特待生の選考を行った。留学生においては、邦人入学者が激減し、かつ留学生の入学者は前年度と同数であったが、奨学金の圧縮に努めることはできた。ただし、邦人と留学生の数的バランスはとれていない。
学園内の連携促進	✓ 食物栄養コースでは、九州文化学園高等学校生を対象とした連携活動を通して、野球部員生を対象とした身体測定を行い、結果をフィードバックした。 ✓ 介護福祉コースでは、九州文化学園高等学校との連携授業で、1 年生に対してバイタルサイン測定、2 年生に対して入浴介助や手浴などの体験授業を行った。また、1 年生に対しては、介護福祉コースの説明も実施した。今後は、高校生の授業や交流会なども検討する。 ✓ 九州文化学園高校生の語学検定受験は、徐々に増えつつある。高校内での本学学生によるプレゼンの機会があれば、積極的に参加したい。 ✓ 九州文化学園高等学校との情報交換会では緊密な情報交換ができ、学生指導に活かすことができた。(保育学科) ✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園および三川内保育園と連携し、それぞれの行事に学生ボランティアを派遣した。さらに今年度 40 回記念開催となった「幼児のための音楽と動きのつどい」においては両園から年長児を招き、園児との交流を深めた。 ✓ 九州文化学園高等学校の 1 年生全員に対して進学イベントを実施した。2 年生についてはオープンキャンパスへの参加を促し、動員の底上げを図った。 ✓ 長崎国際大学との共同募集活動を展開した。 ✓ 長崎国際大学からの転入学および 1 年次入学は 3 人となった。長崎国際大学への 3 年次編入については健康栄養学科へ 3 人、社会福祉学科へ 1 人、国際観光学科へ 7 人(内留学生 5 人)計 11 人の編入学となった。
付帯計画と課題	✓ 地域の市民公開講座である「万年青大学」から招聘があり、学修成果を相浦地区の住民の方に披露し、好評を得た。 ✓ 長崎県立大学佐世保校からの声掛けにより、地域との連携した防災・防犯への取り組みを行った。

6) 主要情報

(1) 卒業者数、資格等に関する実績

【本科卒業者数】

学科名	専攻・コース名	総計	備考
地域共生学科	食物栄養コース	28 人	
	製菓コース	23 人	
	介護福祉コース	18 人	
	国際コミュニケーションコース	55 人	前期卒 1 人含む
保育学科		79 人	前期卒 1 人含む
総計		203 人	
卒業者の累計		10,089 人	

【専攻科修了者数】

学科名	専攻・コース名	総計	備考
専攻科	保育専攻(2 年課程)	4 人	
総計		4 人	
修了者の累計		420 人	

【学位および国家資格・免許等の実績】

学位・資格・免許等名	取得者	備考
学位：短期大学士	219 人	
学位：学士	4 人	専攻科修了者への大学評価・学位授与機構による授与
栄養士	28 人	
製菓衛生師	12 人	令和 7(2025)年 4 月 14 日現在
介護福祉士	13 人	
保育士	76 人	
幼稚園教諭 2 種免許状	77 人	

幼稚園教諭1種免許状	4人	専攻科修了者
------------	----	--------

(2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
入学式	4月6日(土)	保護者の制限なし
オリエンテーション	4月5日(金)留学生のみ 4月8日(月)・4月9日(火)	4月9日(火)健康診断
スポーツデイ	5月18日(土)	全学的に実施
第1回オープンキャンパス	7月20日(土)	
第2回オープンキャンパス	8月10日(土)	
第3回オープンキャンパス	8月25日(日)	
白蝶祭・第4回オープンキャンパス	10月20日(日)	
第5回オープンキャンパス	3月22日(土)	
音楽と動きのつどい	11月20日(木) 午後 11月21日(金) 午前	アルカス SASEBO で開催 40回記念大会として2回公演
第48回茶道大会	12月8日(日)	学内開催 保護者及び来客あり (不文軒・カルチャーホール)
創立記念式	12月10日(火)	全学的に開催
卒業式	3月7日(金)	保護者の制限なし

<入試関係日程>

入試区分	実施日	備考
総合型選抜[育成型]1期	10月12日(土)	
総合型選抜[育成型]2期	1月11日(土)	
学校推薦型選抜 指定校特待生選考	11月16日(土)	
学校推薦型選抜 指定校制	11月16日(土)	
学校推薦型公募制・内部選抜	11月23日(土)	
一般選抜特待生選考1期	2月2日(日)	
一般選抜特待生選考2期	3月5日(水)	
一般選抜2期	3月5日(水)	
大学入学共通テスト利用選抜1期	-	
大学入学共通テスト利用選抜2期	-	
大学入学共通テスト利用選抜[英語資格型]	-	
社会人選抜1期	11月23日(土)	
海外留学生入試	11月23日(土)	
海外留学生入試	12月14日(土)	
海外留学生入試	1月11日(土)	
国内留学生入試2期	2月1日(土)	

7) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 学科・コース・専攻科の基本方針

学部学科コース・区分の名称	年度の基本方針の達成状況
地域共生学科(全体)	✓ 「地域と人々」では、それぞれのコースの特徴を生かし、コロナ禍前と同じような水準で地域活動を計画実施することができ、活動の実施状況についてはHPやSNSなどで発信することができた。「地域と職業」では、佐世保に拠点を置き全国的に展開している「パーソルワークスデザイン株式会社」の人事部長を招き、地域で求められる人材の要素や学生時代にやっておいたほうが良い活動について講話を行うことができた。
食物栄養コース	✓ 栄養士実力認定試験対策として継続した取り組みを行い、昨年度と比較してA判定取得者の割合を31.6%から51.9%と20.3ポイント増加させた。 ✓ 地域に貢献できる栄養士を養成することを目指し、12件の地域に向けた食育活動を実施した。 ✓ 長崎県内にある給食施設へ栄養士として就職する割合の増加を目指した結果、栄養士としての就職率96.0%(25人中24人)、栄養士就職のうち県内就職率79.2%(24人中19人)と高い割合で、栄養士として活躍する学生を県内に送り出すことができた。 ✓ ステークホルダーの卒業生への支援事業として、管理栄養士国家試験対策や

	ホームカミングを実施し、情報提供等を行った。 ✓ グローバルな視点を獲得することを目的として、本学留学生や地域在住の外国人との異文化交流事業を継続して実施した。 ✓ 協和商工株式会社ならびに一般社団法人フードバンク協和と連携した活動として、「レシピ開発コンテスト」「弁当レシピ開発事業」「フードドライブボランティア」を実施した。 ✓ コースの公式 LINE アカウントを用いた保護者への定期的な情報提供を継続して実施した。 ✓ 中高生を対象とした地域活動、広報活動の強化のため、クックパッドを利用したレシピ紹介を開始した。 ✓ 社会人学生の受け入れを促進するための具体的策を検討したが、今年度は入学者受入れには至らなかった。
製菓コース	✓ インターンシップ(長期就業体験)の充実を図り、学生の職業意識と社会人基礎力の向上を目指したところ、2 年生の就職活動に関してはホテル関係の希望者が多くみられ、例年より夏季休暇前の内定率が高くなった。 ✓ 配慮を要する学生へは保護者・学生相談室と、日本語能力が低く日常会話に困難をきたす留学生へは学生支援課と連動し、学業だけでなく日常生活に関する支援を行うことができた。 ✓ 地域や産業界との連携強化を通して、地域活動の充実と認知度向上を図るため、様々な地域活動に参加した。特に東彼杵町と NEXCO 西日本とのまちづくりワークショップでは、学生 4 人が活動した。
介護福祉コース	✓ 介護福祉士国家試験対策講座や個別指導・グループ指導を行い、日本人 100%、留学生 17%の合格率であった。今後は、留学生の日本語能力の向上を図り、読解力を身につけさせる必要がある。 ✓ 九州文化学園高等学校との連携は、1・2 年生の体験授業と 1 年生への介護福祉コースの説明を実施した。今後は、高校生の授業などに専任教員を派遣して密に連携を行い、内部進学者の増加を図りたい。 ✓ 介護福祉コースの白蝶講座として、専任教員による施設での講話など合計 5 回実施した。さらに公開講座を 2 回開催したことにより、認知度は向上したと考える。今後も地域活動を活発に行い、認知度の向上を図りたい。
国際コミュニケーションコース	✓ 配慮が必要とされる多様な学生に対する柔軟な教育支援を行い、別室で個別支援が必要な学生も卒業させることができた。 ✓ 全ての言語関連の授業において、習熟度別学習を実施し、検定取得率 UP などの効果を得ることができた。 ✓ 一部の授業で、TeamTeaching を行うことで授業内容の均一化やきめ細やかな学修支援を行うことができた。
保育学科	✓ 以下のアクションプランに基づいて学科運営に取り組んだ。 ① 音楽教育・活動をさらに充実・強化する。 ② 専攻科への入学を促進する。 ③ ティーンズキャンパス等の中学生へのアプローチを展開する。 ④ 配慮が必要な学生への個別支援体制・取り組みを強化する。 ⑤ 地域の研修ニーズに対応する。 ⑥ 九州文化学園高等学校および認定こども園九州文化学園幼稚園等との連携を強化する。 ✓ 今後はキラリプロジェクトを推進しながら、ステークホルダーと連携し、保育学科の教育力向上と保育の魅力発信に努めたい。
専攻科保育専攻	✓ 幼稚園教諭一種免許状取得率 100%及び学位(教育学)取得 100%を維持できた。 ✓ 県内就職率 100%を達成できた。 ✓ 定員確保に向けガイダンスを実施したが、進学志願者に結びつかなかった。

(2) 教育活動

取組の総括
✓ 地域社会の発展に寄与する社会人を育成することを教育活動の目的とし、次の 6 項目を計画した。(1)建学の精神を具現化する科目である茶道文化教育の充実を図る、(2) 大学改革 IR 委員会を中心として、エビデンスデータに基づく教育成果の可視化に取り組む、(3) 在学生、卒業生、就職先ヒアリング調査を実施し教学改革に資するデータを取得する、(4) 高校生にアピールできる科目や在学生の満足度を向上させる特別講座等の開設を検討する、(5) 授業外学修を定着させる方策(反転授業など)の導入を検討する、(6) Google for Education の活用を促進し、学修

システムの充実を図る。それぞれの実績等は以下に示す。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 茶道文化教育	✓ 茶道の披露は、白蝶祭、オープンキャンパス、茶道大会等で行った。また、九文幼稚園の園児を対象とした「お茶ごっこ」も実施し伝統文化の継承に努めた。 ✓ 茶道実技を教授する教職員の習熟度の差について学生からの意見を反映し、令和7(2025)年度から茶道の実技研修の再開を検討している。
(2) 教育成果の可視化	✓ ディプロマ・サプリメントを年度末に全学生分作成・配布し、教育成果の可視化を図った。サプリメントの充実を図るため記載内容を検討する等、就職活動への活用が可能な内容とした。
(3) ステークホルダー調査	✓ 在学生、卒業生、就職先へヒアリング調査を行い、3 ポリシーの改善に繋げた。さらに多面的な意見を得るため他のステークホルダー(高等学校4校)への調査を実施した。
(4) 教育課程の見直し	✓ それぞれの養成課程に学生募集に資する新しい資格を提供する教育課程の見直しを検討し、介護福祉コースの実習単位の見直しを行った。 ✓ 在学生の満足度を向上させる施策として、ボトムアップ・トップアップカリキュラムの検討を企図したが実現には至らなかった。
(5) 学修習慣	✓ 図書館のラーニング・コモンズ機能の充実を計画していたが、実現には至らなかった。 ✓ スタディスキルが不足する学生に対する組織的学修支援を企図したが、個別の対応に留まった。
(6) 学修システム	✓ Google for Education を利用し始めて3年が経過した。新任の教職員への活用技術指導は都度実施し、教職員間のスキルに差が生じないようにした。 ✓ 研修会等の実施には至らなかったが、徐々にパソコン等を使う授業数が増えてきている。

(3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

取組の総括	
✓ 保育人材・介護人材育成の大きな中心となる系列高等学校からの進学者を増やすことはできなかった。教員同士の交流は始まったが、短大教員による高校での授業だけでなく、教育内容についての意見交換やそれを踏まえたカリキュラムの調整・見直しについて検討する必要がある。 ✓ 国際コミュニケーションコースでは、これまでの経験を生かし、オンライン・オンデマンドを効果的に導入配置した教育内容を充実させた新たなクラスを新設し、不登校経験者などにも対象を広げる。(メニュー2 案件) ✓ 採択されたメニュー1 事業におけるプロジェクト「地域との共創による保育人材育成・キラリと光る保育学科教育力開発プロジェクト」では、地域に必要な保育人材の確保と定着のために、保育人材共創委員会を設置し、本学と地域ステークホルダーとの緊密な連携・協働体制の下で、長崎短期大学保育学科の教育力を高めることを目的とし、4つのキラリプロジェクトを推進しながら地域の保育ニーズを踏まえた教育改革と、保育の魅力発信、地元就職支援を行っていく。 ✓ 急速な少子化時代を乗り越えるために、社会的ニーズと趨勢から総合的に判断し、本学独自の経営改革として令和8(2026)年度から既存の学科等の編成及び入学定員数の適正化を図っていく。 本件は、多様化する学生への対応として、また地域が求める人材育成強化のために「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」事業への取組みである。入学定員数は、地域共生学科定員135人を125人(製菓コース募集停止、国際コミュニケーションコース10人増)に、保育学科定員100人を80人とし、合計235人を205人の30人定員減とする。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 5年一貫教育を基本とした高大接続	✓ 5年一貫教育につながる取り組みとして、九州文化学園高等学校の保育福祉科保育コースへの「出前授業」を3学年に対してそれぞれ2回実施した。今後、メニュー1の事業としても展開を計画しているため、単位互換を含めた高大接続教育について検討していく。
(2) 多様な学びの場としての長期履修制度の研究	✓ 長期履修制度を活用した3年コースの令和8(2026)年度開設に向けて、学費設定、入試形態、カリキュラム、時間割等の検討に着手している。今後先進校の視察を予定しており、結果を分析して計画に反映させる予定である。
(3) 多様な学びの場としての不登校経験者の受け皿の研究	✓ 国際コミュニケーションコースにおいて、次年度の入試より、不登校経験者など、一定の能力がありながら、高等教育での学びが難しかった層に対して10人の定員を設け募集を開始する。
(4) 地域との共創による保育人材育成～キラリと光る	✓ 西九州させば広域都市圏の自治体、保育、教育現場関係者、地方議員との意見交換会を開催した。 ✓ 幼児のための音楽と動きのつどい40回記念大会2回公演を実施した。

保育学科教育力開発プロジェクト	✓ 小値賀町との連携協定の締結とそれに基づく保育施設実習支援事業(保育学特別演習におけるフィールドワーク)を実施した。 ✓ 佐世保市社会福祉協議会との連携協定締結とそれに基づく「welcome 食堂(地域食堂)」を開催した。 ✓ 保育人材共創委員会を開催した。 ✓ 九州文化学園高等学校出前授業を 3 学年に対しそれぞれ 2 回実施した。 ✓ 保育学科 3 コース制に向けた検討及びチラシの作成と配布を行った。 ✓ 実習連絡協議会の実施を計画、令和 7(2025)年 4 月 12 日に開催予定である。
-----------------	--

(4) 研究活動

取組の総括	
✓ 個々の研究活動を主体に、地域や他大学と連携し、連携講座の実施・共同研究事業に取り組む事ができた。 ✓ 外部との連携強化・資金獲得を目指し、「長崎短期大学 外部資金獲得に関する計画書<第 1 版>」を策定した。 ✓ 研究ブランディング委員会発行の「長崎短期大学 研究シーズ」を用い、本学の更なるブランド力向上を目指す。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学長裁量の傾斜配分による共同研究の促進(1 件 100 万円共同研究)	✓ 令和 6(2024)年度は、対象となる研究活動を実施できなかった。次年度は、学内・学外での共同研究の促進を促していきたい。
(2) 学長裁量の傾斜配分による研究論文の翻訳経費支援	✓ 傾斜配分研究費ではなく、学生支援課経費にて予算を組み立て、翻訳支援に取り組んだ。
(3) 科研費獲得研修会の実施	✓ 日本学術振興会開催のオンライン説明会及び長崎国際大学主催の研修会開催を教職員に向けて広く周知した。
(4) SD・FD 研修会の実施	✓ 産学連携コーディネーターと連携し、教職員対象に「コンプライアンス研修」、「科研費支援研修」、「研究倫理研修」を実施した。研修後に確認テスト等を行い、研修の理解度を高め、定着を図った。
(5) 外部との共同研究・受託研究の推進	✓ 波佐見町と連携し、子育て・親育ち講座を開催した。 ✓ 東彼杵町と連携し、食育事業を開催した。 ✓ 協和商工㈱と連携し、特別授業を開講した。また、メニュー開発事業にも共同で取り組み、学生考案弁当 2 種類を販売する事ができた。
(6) QSP 子ども育成 WG 共同研究「幼児教育・保育現場における家庭支援に関する研究」	✓ 幼児教育・保育現場における家庭支援に関する共同研究を行った。 ✓ 保育者へのアンケート調査及び子どもの行動観察調査を行い、結果に基づく調査報告書を作成した。 ✓ 令和 6(2024)年度を以て、共同研究の参画校数の減少により一旦終了するため、次年度より新たな共同研究者を募り、新たなテーマを設けて共同研究を再スタートする予定である。

(5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

取組の総括	
✓ 学生満足度を向上させ、離学率の低下を図った。 ✓ 奨学費 1,000 万円の圧縮を目指した。 ✓ 学修に関する支援により成績優秀者の満足度向上を目指した。 ✓ 学生生活に関する支援により離学率の低下を目指した。 ✓ 進路に関する支援により就職・進学希望者の決定率 100%を目指した。 ✓ 令和 7(2025)年度入学者のための令和 6(2024)年度の学生募集活動において、奨学費の圧縮を目的として、留学生数を抑えつつ、邦人入学者を増強し定員充足を目指した。 ✓ 奨学費圧縮については、目標は達成できなかったものの、入学者ベースで前年度比 6,035,000 円に圧縮できた。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学修支援	✓ オフィスアワーの設定、シラバスの充実、履修指導の徹底、成績不振学生への対応、クラスアドバイザー制度等により学修支援を実施した。満足度向上を企図した科目等の開設は検討に至らなかった。
(2) 学生生活支援	✓ 配慮を必要とする学生と教員、実習先、学外機関等との連携推進を達成できた。また、クラブ活動を含む学友会活動の活性化を図り、仲間づくり・居場所づくりのきっかけを学生に与えることができた(卒業生アンケート結果より)。
(3) 進路支援	✓ 就職希望、進学希望等学生の要望に沿った支援を行うとともに、1 年次からキャリアデザインが明確になるような指導を行った。
(4) 就職活動の支援	✓ 就職活動支援、キャリア支援の個別相談を充実させるとともに、就職講座の内容を

	精査して学生の多様なニーズに対応することができた。 ✓ 高い就職率を維持するため、企業等との連携強化を進めて、就職の質の向上を目指すことができた。 ✓ 卒業生アンケートから就職活動の様態および学生の意識が変化してきているため、その対応が必要であると認識している。
(5) 奨学金の圧縮	✓ 入学者選抜での奨学制度採用の条件変更を検討しつつ、邦人募集については、奨学金の圧縮を勘案しながら、特待生の選考を行った。留学生においては、邦人入学者が激減し、かつ留学生の入学者は前年度と同数であったが、奨学金の圧縮に努めることはできた。ただし、邦人と留学生の数的バランスはとれていない。

(6) 国際交流・留学生支援活動

取組の総括	
✓ 多様な価値観を理解・享受し、文化の共存・共生に貢献できる人材を育成する。 ✓ 令和4(2022)年度に開設した中国・韓国留学サポートセンターを中心として、学科・コースを限定せず留学(短期研修)を促進した。また、オーストラリア等における有給インターンシップをメインとした語学留学も継続した。 ✓ 交換留学に関する情報を発信し、派遣学生数の増加を目指した。 ✓ 留学生の受け入れについては、留学希望者が増加したミャンマー・スリランカへの募集広報活動に重点を置き、入学前教育を継続する。全学生の20%を占める留学生支援の課題は、学生数と多国籍化であるため、教職員の情報共有と切れ目のない支援体制を構築した。 ✓ 海外の大学生や高校生とオンラインを活用した交流事業を継続し、新たな交流先の開拓を行った。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 海外派遣	✓ 交換留学生として提携大学へ派遣を行った。 ✓ 短期海外研修 合計9人 韓国 2人(釜山外国語大学) 中国 3人(浙江理工大学)、3人(湖北大学) 1人(厦門集美大学) ✓ サンドイッチ1年(休学)留学 8人(CAN 1、NZ 5、AUS 2) ✓ 日本人4年制大学編入(予定含む): 7人(韓国:5人)(中国:1人)
(2) 外国人留学生受け入れ	✓ 前年並みの外国人留学生を新入生として受け入れる事ができた。 ✓ 交換留学生受入れ: 令和6(2024)年度 計3人 (8月まで台湾1人、9月から2月まで中国2人(うち1人都合により途中帰国))
(3) 地域社会への貢献	✓ 7月に椎木町民、近隣高校生を招待した「異文化交流パーティー」を実施した。 ✓ 新しい交流先の開拓は実現できなかった。

(7) 学生募集・広報活動

取組の総括	
✓ 全国的に短期大学の志願者数が年々減少傾向にある中、令和7(2025)年度の入学者は本科184人、専攻科5人の計189人であった。例年短期的な学生募集活動で、受験対象者に的を絞った広報を実施していたが、令和6(2024)年度においても高校1・2年生を対象とした中長期的な学生募集・広報活動に努めた。また、今まで学科・コースのPRを主軸としていた広報の在り方から、長崎短期大学全体の認知力向上を意識した募集広報活動を行った。また、令和8(2026)年度入試においては、メニュー1およびメニュー2を意識した選抜改変、既卒者の掘り起こし策として公募制を含めた入学者選抜の改変を行った。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 入学者の確保	✓ 学科・コースの特性、試験区分に応じた募集人員を設定した。その結果、総合型選抜の入学者は16人となり、昨年比+4人となった。しかしながら九州文化学園高等学校および佐世保市内の高校からの入学者が減少したことにより、昨年度の212人に対し、184人の入学者となった。
(2) 新規リストの獲得と志願者の確保	✓ メインターゲットは長崎県とし、長崎県以外のエリアについては、長崎国際大学との共同募集活動を展開し、九州・沖縄の受験対象者に限らず、幅広く高校1・2年生にも注視したアプローチを実施した。 ✓ 一般入試対策として、12月末から1月末までの1か月間SNS広告を実施し、長崎県内の高校生、保護者層に対し広く告知を行った。 ✓ オープンキャンパスを年間5回開催し、300人の受験対象者を目標としていたが254人の参加者にとどまった。
(3) 新入試制度の計画・実施	✓ 令和7(2025)年度入学者選抜において、総合型選抜では前年比+4人増、大学入学共通テスト利用選抜【英語資格型】では1人の入学者を迎え入れることができた。 ✓ 令和8(2026)年度入学者選抜においてメニュー1及びメニュー2を意識した制度設計を行った。
(4) 中長期的な募集広報戦略	✓ 九州文化学園高等学校の吹奏楽部を中心とした募集については中長期的に高校の

	部活動を通して、継続的に募集を行っている。 ✓ プレスリリースによる認知度向上については、年間目標の50本に対し今年度は22本(昨年度28本)と目標には届かなかった。しかし、委員会において月締めでの各学科・コースのプレスリリースの数を共有し、促進を図った。 ✓ 本学の認知力向上を目的とし、短大単体だけでなく法人全体としての広報の在り方を学園内募集担当者会議にて引き続き検討する。
(5) 専攻科保育専攻	✓ 高校訪問や進学ガイダンスを通して、「短大+専攻科」で学ぶ本学の保育の魅力とキャリア形成をより具体的に説明する。

(8) 教職員の人材開発

取組の総括	
✓ 年度始めに学長 FD・SD にて示された方針「次年度以降の課題」について、各学科・コース等の部門長より、前期には、取組み状況についての中間報告を行い、全体共有を図り、年度末には一年の振り返りとして総括している。 また、年度末には法人本部事務局長による財務に関する FD・SD を毎年実施しており、教職員が本学の財務状況を把握する有効な機会にしている。 ✓ 教育力向上に資する研修等は、学内で8回あり、高い参加率を得ている。 ✓ 学生等の生活指導・支援力強化に資する研修等は、学内で7回、他校と合同で1回行った。 ✓ 職位に応じた機会の創出については、全教員、職員間において、上長による面談を行い、組織内のコミュニケーションを図り人材開発・育成に繋げている。特に、新たな補助金については、各部門長のリーダーシップの下、若手教職員を含めたプロジェクトを組み、獲得することができており一定の成果を納めることができた。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 始めの会・納めの会	✓ 節目に短期大学における環境や本学の現状に対し法人の方針を確認できる機会であり、また、財務に関する FD・SD も丁寧な説明がなされており、情報共有の場、意識統一を図る意味で一定の成果がある。 ✓ 「学長年度方針」「財務状況」「学科・コース・委員会の取組・課題」等の共有を図ることで教職員の意思統一に繋がった。
(2) 茶道大会	✓ 新型コロナウイルス感染症に配慮し学内開催となって6年目の今年度は、保護者・恩師のみならず外部の招待客も招聘し、本学ならではの茶道大会の在り方が確立してきつつある。集客が増えた事により、新たな課題が見えてきたため、今後も検討を重ね継続を図っていく。
(3) SD・FD	✓ 動画視聴を含め、FD・SD 併せて18回の研修会を実施した。
(4) 人事面接、部門長会議、課内ミーティング等の活用等	✓ 業務目標管理シート等をベースに上司・部下間のコミュニケーションを図り人材開発・育成と共に業務改善に繋げている

(9) ステークホルダーとの連携強化

取組の総括	
✓ 地域・地元産業界・他大学とは、防災講座や防災カレンダーを作成する等、相互の資源を活用して連携事業を推進する中で、地域社会への貢献・学生の学びの深化など、互いに高め合う事が出来た。 ✓ 保育人材確保の観点から、新たに小値賀町との連携協定を締結した。連携を深める中で、保育のみならず、他業種との連携へと広げていく。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 市町村との連携	✓ 椎木町・波佐見町・東彼杵町と連携し、各学科・コースの専門性を活かした活動を通して、地域の課題解決を行い、社会貢献していく。 ✓ 介護福祉コースは、市町村との連携事業がなかったため、次年度以降は市町村の要望に応じた事業の展開をしていきたい。 ✓ 市の幼稚園協会、保育会他、各種団体から構成された「させぼわんぱくひろば実行委員会」へ食物栄養コース・製菓コース・保育学科・専攻科所属教員が組織メンバーとして参加し、該当する学科・コースの学生が食育コーナー・イベント景品用菓子製作・遊び体験コーナー・ステージパフォーマンス・各種活動ボランティアに携わり、地域貢献活動を行った。
(2) 協和商工株式会社および一般社団法人フードバンク協和との連携	✓ 協和商工と連携した活動として、「レシピ開発コンテスト」「弁当レシピ開発事業」「フードドライブボランティア」を実施した。本内容の一部については本学紀要にて報告した。
(3) 市民公開講座	✓ 5月の市民公開講座では、前年度のアンケート結果に基づいて、地域の方々が健康な生活を送れるように「生活習慣病と日常生活について」というテーマで介護福祉コースが担当して講話を行った。たくさんの意見や質問があり、食物栄養コース教員が回答する場面もあった。さらに、2月には「負担の少ない介護技術」というテ

	マで福祉用具を使った講座を開催した。地域・施設職員・卒業生などが参加した。 ✓ 上記講座も含めて、委員会主催の公開講座を学内で 4 回開催し、その他、各学科・コース主催の講座を学内外で数回開催した。
(4) 卒業生との連携活動	✓ リカレント教育として、2 月の「負担の少ない介護技術」の公開講座に卒業生が参加した。また 3 月には卒業生と連携して卒業生主体でのオープンキャンパスを実施した。今後も、卒業生と連携した活動を展開したい。(介護福祉コース) ✓ 実習指導において、ゲストスピーカーとして昨年度に引き続き卒業生 3 人(男性保育者)を招き、学生時代の体験談や実習に向けた心構えなどの講話を、質疑応答を交えて実施した。また市内の幼稚園とも連携し、卒業生及び主任保育者を招いて、園での教育・保育の様子、実習に向けた心構えなどを講話していただいた。
(5) 保護者との連携強化	✓ 製菓コースの保護者会を通じ保護者との信頼関係を構築し、本学教育の強力なサポーターとして教育に対する理解を得ることができた。また、特に合理的配慮が必要な学生については必要に応じ保護者と緊密な連絡を取ることができた。 ✓ 9 月に介護福祉コース 1・2 年生の 3 者面談を実施し、学内での生活・学業・就職や進学について情報交換を行い連携を図った。今後も保護者と連携を図って学生をサポートしていきたい。 ✓ その他、各学科・コース毎に保護者会を開催し、情報共有を図る事ができた。
(6) 九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)	✓ 参加する各大学・短期大学がいずれかの WG の責任校となり、連携活動に取り組んだ。本学は子ども育成 WG の責任校として、年に 2 回の協議会を実施し、活動について活発な意見交換を行った。 ✓ 参画校がリレー形式で講師を務める公開講座を開催した。次年度も継続して取り組む予定である。 ✓ 参画校の減少により、共同研究が今年度で一旦終了となる。次年度、新たな研究者および新たなテーマを募り、共同研究を継続していく予定である。
(7) 短期大学コンソーシアム九州	✓ 今年度は、20 周年の記念誌発行に向けての会議が主な活動であった。 ✓ 次年度は、コロナ禍前に開催していた短大フェスの開催が予定されている。
(8) 西九州大学短期大学部との連携事業 (メニュー2 案件)	✓ 令和 6 年度私立大学等経常費補助金に係る「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援」のメニュー2「複数大学等の連携による機能の共同化・高度化を通じた経営改革支援」事業に、西九州大学短期大学部に長崎女子短期大学を加えた 3 校で「Higher Education For All 短期大学の教育機能の共同化・高度化の取り組み～短期大学の経営改革のための複数短期大学等による連携事業～」というテーマで応募し、短大部門で唯一採択された。
(9) 白蝶講座	✓ 介護福祉コースの白蝶講座として、基幹教員による施設での講話など合計 5 回実施した。今後も施設等と連携を図り、地域に貢献していきたい。 ✓ 保育学科の白蝶講座として、保育者向けに 1 回、親子向けに 3 回実施した。
(10) 地域との共創による保育人材育成ーキラリと光る保育学科教育力開発プロジェクト (メニュー1 案件)	✓ 西九州させば広域都市圏の自治体、保育、教育現場関係者、地方議員との意見交換会を開催した。 ✓ 小値賀町との連携協定の締結とそれに基づく保育施設実習支援事業(保育学特別演習におけるフィールドワーク)を実施した。 ✓ 佐世保市社会福祉協議会との連携協定締結とそれに基づく「welcome 食堂(地域食堂)」を開催した。 ✓ 保育人材共創委員会を開催した。次年度以降も定例的に開催予定である。 ✓ 実習連絡協議会の実施を計画し、令和 7(2025)年度 4 月に開催予定とした。

(10) 学園内の連携促進

取組の総括	
✓	公募での適切な確保ができない実状からも窺える教員のなり手不足は、昨年度からの継続課題であり、今後も課題として引き続き協議が必要である。その不足を補う意味で、近年、学園内で相互協力し、教員を非常勤として配置することで何とか教育活動を維持できており、学園内での連携促進の賜物である。しかし、相互の負担が重ならないためにも人材育成や人材発掘のための学園内プロジェクトが必要であると推察する。
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(食物栄養コース) (1) スポーツ栄養学に関する共同研究	(1) 長崎国際大学健康管理学部健康栄養学科と協働し、スポーツ栄養に関連した研究活動を実施した。 (2) 九州文化学園高等学校と連携し、運動部への栄養・健康サポートの継続的な取り組みとして、野球部員生を対象とした身体測定を行い、結果をフィードバックした。
(製菓コース) (1) 九州文化学園小学校と	✓ 九州文化学園小学校 1 年生を対象にアイシングクッキー講座を実施した。 ✓ 九州文化学園高等学校食物調理科の製菓実習へ講師派遣を 6 回実施した。

のコラボ事業 (2) 九州文化学園高等学校とのコラボ事業 (3) インターンシップ	✓ インターンシップ(学内研修)の一環として、長崎国際大学・九州文化学園調理師専門学校・九州文化学園歯科衛生士学院・九州文化学園小中学校にて菓子販売を5回実施した。
(介護福祉コース) (1) 九州文化学園高等学校との連携強化	✓ 9月に九州文化学園高等学校1年生へ対してバイタルサイン測定、10月に2年生へ対して入浴介助や手浴などの体験授業を行った。また3月に1年生へ対して介護福祉コースの説明を実施した。今後は、専任教員の高校での授業などを展開していきたい。
(保育学科) (1) 九州文化学園高等学校(保育福祉科保育コース)との連携強化 (2) 認定こども園九州文化学園幼稚園および三川内保育園との連携強化	✓ 3学年に対し、それぞれ2回ずつ出前講座を行い、接続教育の一助とした。 ✓ 情報交換会では入学前の貴重な情報交換ができ、学生指導に活かすことができた。 ✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園および三川内保育園と連携し、それぞれの行事に学生ボランティアを派遣した。さらに今年度40回記念開催となった「幼児のための音楽と動きのつどい」においては、両園から年長児を招き、学生と園児との交流を深めた。
(専攻科保育専攻) 専攻科インターンシップ	✓ 九文幼稚園へ専攻科の有給インターンシップ制度の理解がさらに深まり、次年度のインターン生が1人継続となった。
(入試募集課) (1) 九州文化学園高等学校との連携 (2) 長崎国際大学との連携	✓ 九州文化学園高等学校の1年生全員に対して進学イベントを実施した。2年生についてはオープンキャンパスへの参加を促し、動員の底上げを図った。目標の60人に対し、新卒の入学者は31人とどまった。また、吹奏楽部を中心とした募集については中長期的に高校の部活動を通して、継続的に募集を行っている。 ✓ 長崎県以外の九州・沖縄県で開催される進学説明会については、引き続き同大学が参加する九州・沖縄県の会場形式進学説明会を中心に連携をとった。 ✓ 長崎国際大学からの転入学および1年次入学は3人となった。 ✓ 長崎国際大学への3年次編入については健康栄養学科へ3人、社会福祉学科へ1人、国際観光学科へ7人(内留学生5人)計11人の編入学となった。

(11) SDGs の推進

取組の総括	
✓ 事業者・教育機関・社会の一員の項目を軸にSDGsを推進する取り組みを展開した。 ✓ 「つかう責任」「気候変動」「ジェンダー」「働きがい」の4つの視点から事業者として活動を実施。 ① 省エネ・資源削減プロジェクトに基づきエネルギーの見直しや資源の有効活用に努めた。 ② ハラスメント対策委員会等と協働し、リーフレット等の発行・配布・相談員を設け、ジェンダー平等の意識向上を図った。 ③ 教育的観点としては、カリキュラムにSDGsを組み込んだ科目を拡充し、実践的にSDGsを体験できる学外体験プログラムを実施した。 ✓ FD研修会を開催し、SDGsに関する情報や先行事例を共有し、意識レベルと行動レベルの変容を図った。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 創立記念式典	✓ 終戦直後に各種学校として認可された九州文化学院を母体とした学園の成り立ちや先達・創始者の教育に対する志や想いを知ること、学生と教職員全員が共に学ぶ喜びを再認識した。創立記念式典を通してあらためて、語りつがれる建学の精神に想いをはせる事ができた。
(2) 茶道大会	✓ 様々な学生達が、茶道を通して自分なりのおもてなしの気持ちを表現する事をイメージし、12月8日、学内において、「桜梅桃李」をテーマに第48回茶道大会を開催した。2年生全員が各学科・コース別に茶道教育の教育成果の披露の場として、濃茶席289人、立礼席342人を対象にもてなし、ホスピタリティを具現化した。
(3) 一般社団法人フードバンク共和からの食品提供を活用した活動	✓ 各企業の過剰在庫、賞味期限(1~2年)を意識した食材の提供を受け、フードロス対策に協力した。在庫食品の仕分けや中継ぎ業者の役割や課題を知ること、社会に仕組みの一面を認識することができた。 ✓ 「FM させば」ラジオに計5回参加し、短期大学の食に関する紹介を行った。 ✓ 提供された食品を必要とする学生に配布したり、それらの食品を活用した食事提供イベントを開催したりした。
(4) 白蝶祭(学園祭)	✓ 「百花繚蘭～みんなの個性が輝く祭典～」をテーマに開催し、吹奏楽やダンスバトル、長短歌うま王決戦、コスプレ、専攻科による音楽劇など楽しいプログラムで一気にセンタープラザの参加者が一体化し、地域貢献の一助となった。 ✓ 各種展示や体験コーナー、模擬店エリアも大好評で、学修成果の披露の場として教育の効果を再認識できた。

(5) 九州文化学園 SDGs 宣言の日イベントへの参加	✓ 平成 7(2025)年度に迎える九州文化学園創立 80 周年事業に向けた協議会に参加し、短大ブースの提案をするなど企画立案に参画した。
(6) 本学独自の SDGs 宣言の作成	✓ SDGs に関するさまざまな地域活動やイベントに関連する活動をホームページ等で公開した。
(7) 専攻科保育専攻	✓ 以下の保育行事に参画した ・海きらら「こどもひろばあまもば」におけるお楽しみ会【目標 4,6】 ・佐世保市児童福祉週間事業「わんぱくひろば」ステージパフォーマンス【目標 4】 ・佐世保市保育会「親子であそぼ」ステージパフォーマンス【目標 3,4】
(8) その他の学内活動	✓ 生理用品の環境を整え、助け合おうプロジェクトで、トイレに「生理用品無料交換チケット」を設置した ✓ 子どもたちにワクチンを届けようプロジェクト〜で、ペットボトルの回収活動を通して、リサイクル資源として提供する活動を続けている。

(12) 管理運営と業務・経費効率化

取組の総括	
✓ 法人本部案件の重点経営課題、重点教育課題、中期計画基本方針の進捗管理は定期的に報告し確認している。 ✓ 財務目標の達成を図るため収容定員の見直しを検討し、令和 8(2026)年度より、地域共生学科及び保育学科両学科において、収容定員の削減を理事会に諮り了承された。 ✓ 昨年度に引き続き、教員研究費の削減、経費適正化の一助としての消耗品一元管理体制を図り、経費制御を行った。 ✓ 補助金等外部資金については、新たな補助金獲得により昨年度比 1,200 万円増収となった。しかしながら、長崎県留学生支援補助金においては、申請内容について減額対象となったため、今後、内容の精査を検討課題とする。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 経費の適正支出	✓ 予算管理システムにおける支出申請が定着しつつあり、各学科・コースにおける予算管理の意識付けが出来てきている。 ✓ 消耗品を一元管理する事により、経費抑制の意識が高まっている。
(2) 私立大学等経常費補助金	✓ 少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援に学長を初め、各学科長が主となり獲得に向けて取り組み、2 つとも採択された。採択された事により、一般補助の増額にもつながった。 ✓ 一方、私立大学等改革総合支援事業の各タイプについては、例年獲得できていた、タイプ 3PF 型の個別事業に採択されず、補助金獲得額が減額となった。今後は、申請要件の再確認を行い、再獲得を目指すと共に、タイプ 3 地域型の新たな補助金獲得を目指していく。
(3) 研究費外部資金	✓ 科研費、受託事業の獲得を推進する事を目的とし、「長崎短期大学 外部資金獲得計画<第 1 版>」を策定した。
(4) 運営会議	✓ 本学では、学長をはじめとして各部門長が構成員となり運営上重要事項を審議する運営会議を月 1 回実施している。本機関の中で中期計画・事業計画の浸透に関する意思の統一から増収策、業務・経費の効率化などを年次計画に沿って議論し方向性を示している。

(13) 施設・設備・システム等の環境整備

取組の総括	
✓ 学内施設整備は、この 3 ヶ年で主要設備(照明・空調・通信等)の更新を実施し、残る電気設備(高圧受電設備)についても着手し昨年度更新予定であったが、納入が今期となった。今後も老朽化による施設補修が必要であり、特に外壁補修や雨漏り対策、開閉に支障をきたしている学内施設のドアは急務であるため、選択と集中による予算配分により計画的な整備に努める。また、卒業生アンケートによる意見としての学内トイレ改修及び駐車場整備についても、計画的に整備を行っていく。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 電気設備	✓ 高圧受電設備(キュービクル)の更新
(2) 建物保全	✓ 体育館ステージ側雨漏り工事を行った。 ✓ 集団給食実習室の水漏れ工事を行った。 ✓ 浄化槽のポンプを 1 基交換した。
(3) 内線電話	✓ 落雷により不通となった、本学と高校施設間の内線電話の復旧工事を行った。

(14) 点検評価

取組の総括	
✓ 機関別評価で適合(適格)を得る。	

✓ 自己点検・評価委員会を中心として毎年度自己点検・評価報告書を作成しホームページで公開している。前年度の踏襲となりがちであるが、中期計画との兼ね合いも考慮しながら報告書を作成し、次の認証評価に向け新しい基準への適合、評価機関の選定等について検討した。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 自己点検・評価報告書	✓ 第4クールの基準について情報収集を行いつつ、評価機関を短期大学基準協会から高等教育評価機構に変更した。
(2) 教職課程自己点検・評価報告書	✓ 令和4(2022)年度から義務化された教職課程の自己点検・評価を確実にを行い、教育の質を担保することができた。

(15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

取組の総括	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
該当なし	

3.九州文化学園高等学校

1) 経営理念・経営目標

経営理念	建学の精神の下、人として大切な徳性と香り高き品格を身につける
経営目標	経営理念に則り、知・情・意のバランスが取れた全人教育を行い、生徒の夢の実現に努める

2) 1 年間の総括と評価

✓	入学者数は前年度の 315 人に対し、269 人と 46 人減となり定員割れとなった。推薦入試志願者数の 42 人減が大きき原因と考える。特に衛生看護科および食物調理科は令和 5(2023)年度入試では定員を上回る志願者数であったが、令和 6(2024)年度入試では定員を下回る志願者数であった。令和 7(2025)年度の入学者数は 268 人であった。公立高校入試制度の変更が実施されたなか、定員割れであったものの影響は小さかったと判断する。引き続き、本校の強みを活かし、定員 280 人以上の入学者数の確保を目指す。
✓	普通科では S アカデミー・S グローバル・総合進学の新しいコースの完成年度であった。それぞれ国公立大および難関私立大への進学・英語教育の充実・内部進学と部活動との両立を目標として、魅力ある教育を展開していくことができ、成果もあがった。
✓	タブレット端末は計画通り購入し、1・2 年生が所有している。また、各教室にプロジェクターおよびスクリーンが設置され、ICT 環境は数段進歩した。教員は授業等において積極的に活用しており、職員研修を通して、授業および家庭での効果的な活用方法について研鑽を重ねている。また、校務支援システムを本格的に導入し、職員・保護者への連絡、出席・成績管理等を行っている。さらに他の校務へ活用を研究する。
✓	部活動については、水泳部、空手道部が全国の舞台に進むほどの活躍をみせ、吹奏楽部も多くの地域から招かれて演奏を披露するなど、学校関係だけではなく多くの地域の方々と繋がり活躍の場を広げている。
✓	「例年通りは後退である。」を合言葉に取り組んできたが、令和 7(2025)年度も継続していく。

3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

1	成長力の確保	✓ 普通科 S コースについては、それぞれのコースの目的・目標に則した教育活動の展開に努めた。完成年度でもあり、アカデミーコースは大学入試センター共通テスト・個別学力試験を突破しての合格者を出すことができた。この 3 年間の教育活動を総括し、普通科の特徴あるコースとして軌道に乗せていきたい。 ✓ 衛生看護科、食物調理科の施設の拡充および定員の拡大については、検討を重ねたが実現は難しいが、さらなる教育内容の充実にむけて精進したい。
2	教育力の向上	✓ グループ内での各分野の連携を進めるとともに、先進校視察や教職員の研修を実施し一定の成果を得た。引き続き、体系的な職員研修を計画し、資質向上に向けて努力する。 ✓ プロジェクトチームは発足したものの、十分な活動には至らなかった。令和 7(2025)年度は軌道に乗せ、10 年後、20 年後の本校の道筋を探りたい。
3	約定返済の確実な履行	✓ 収益は減少したが、キャッシュフローは確保し約定返済は履行できている。

4) 経営改善(健全化)に関する成果

1	収入の増加	✓ スクールバス維持費や寮費の値上げを実施。
2	支出の効率化	✓ 細部にわたり経費削減に取り組んだがスクールバス委託費の増加をカバーできなかった。
3	人員・業務の効率化	業務の効率化の進捗は遅れている。職員の意識改革が必要。
4	付加価値向上と広報強化	✓ インスタグラムでの積極的な広報活動に取り組んでいる。

5) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	✓ 看護は予定通り 1 人増となったが、他教科は増員補充に至らなかった。
戦略Ⅱ	✓ 専門学科を中心に、技術の習得や資格の取得に向けた教育活動を実施している。また、グループ内連携を推進し、他部門からの出前授業等を体験することで、高度な専門的知識を身につけ、職業の魅力を発見する活動を行った。
戦略Ⅲ	✓ 長崎短期大学にて椎木町連絡協議会が開催された。吹奏楽部が地域の催し物で演奏を披露するなど地域 ✓ と積極的に関わることができた。学園祭には地域の方にも足を運んでいただき好評であった。 ✓ 学校評価の結果、学校に対する満足度は、生徒 77.0%、保護者 89.5%であった。
戦略Ⅳ	✓ 今年度も計画通りタブレット端末を導入し 1・2 学年が所有している。授業等において積極的な活用が進んでいる。 ✓ 授業および家庭での効果的な活用方法について職員研修を重ねた。出席・成績管理等、校務への活用を本格的に開始した。他の校務への活用を推進していきたい。

	✓ 教室へのプロジェクターやスクリーンの設置が完了し授業での活用が進んでいる。また、授業配信の試行を行い成果を得た。
戦略Ⅴ	✓ 広報誌を通して、入学式や県高総体などの学校行事や学校生活の様子を中学校等に伝えている。また、ホームページやInstagram等のSNSを利用し、積極的な情報発信に努め、学校生活や部活動の様子を広く知らせることができた。
戦略Ⅵ	✓ 令和6(2024)年度の経常収支差額は35百万円(3.2%)を確保した(前年比▲15百万円)。
学園内の連携促進	✓ 進路指導、生徒募集をはじめとして、食物や福祉関係など各専門学科の担当者同士もよく連絡し合い、積極的に連携をとることができた。 ✓ 英語科においては、九州文化学園中学校と意見・情報交換を実施し中高連携しての英語教育の充実に向けて議論を深めることができた。 ✓ 普通科Sアカデミーコースについては、長崎国際大学薬学部から出前講座を実施していただき、生徒たちの学問に対する興味関心を高める。
付帯計画と課題	✓ 普通科Sアカデミーコースについては、各対外実力テストの結果を踏まえて、ブロック職員および教科担当者で分析会を実施し、その後の学習指導・進路指導に活かすことができた。

6) 主要情報

(1) 卒業者数、資格等に関する実績

【本科卒業者数】

学科名	人数	備考
普通科	106人	
食物調理科	49人	
保育福祉科	67人	
衛生看護科	53人	
総計	275人	
卒業者の累計	16,708人	

【専攻科修了者数】

専攻科名	人数	備考
衛生看護専攻科(2年課程)	53人	
総計	53人	
修了者の累計	1,048人	

【国家資格・免許等の実績】

資格・免許等名	取得者	備考
調理師	49人	
介護職員初任者研修課程修了	34人	
准看護師	53人	
看護師	48人	

(2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
新入生オリエンテーション	4月2日(火)	
始業式	4月8日(月)	
入学式	4月9日(火)	
衛生看護専攻科入学式	4月11日(木)	
育蝶会総会および学校説明会	5月11日(土)	
体育祭	5月17日(金)	
ハイスクール茶会 in ハウステンボス	5月18日(土)	
長崎県高総体	6月1日(土) ～6月9日(日)	
「ありがとうを強さにかえて」 北部九州総体2024	7月25日(水) ～8月4日(日)	
第1回オープンスクール	7月23日(火)	
第2回オープンスクール	7月24日(水)	
第3回オープンスクール	8月22日(木)	
入試相談会	10月5日(土)	
学園祭	10月27日(日)	

第79回創立記念式	12月13日(金)	
推薦入試	1月15日(水)	
一次入試	1月21日(水) ～1月22日(木)	
学祖追悼式	1月28日(火)	
卒業証書授与式	2月21日(金)	
衛生看護専攻科卒業証書授与式	2月28日(金)	
修学旅行	3月2日(日) ～3月6日(木)	スキー研修等(新潟県・東京都)
終業式	3月18日(火)	
2次入試	3月19日(水)	
合格者オリエンテーション	3月21日(金) 3月26日(水)	

7) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 学科・コースの基本方針

学部学科コース・区分の名称	年度の基本方針の達成状況
普通科 S アカデミーコース	✓ 少人数制の授業展開によりきめ細かい指導を行い成績の向上につながった。企業訪問や国公立大学のオープンキャンパスに参加することで、進学に対する意識を高めることができた。
普通科 S グローバルコース	✓ 英語の外部試験を定期的実施することで、着実に英語力が高まっている。また、ウクライナからの編入生とともに、学校生活を送ることで、国際理解を深めることができた。
普通科総合進学コース	✓ 学業と部活動の両立を軸に、多様化する入試に対応できる力を育んだ。結果内部進学をはじめ幅広い進路希望実現に繋がった。
普通科キャリアデザインコース	✓ 各種検定の受検、インターンシップ、中国語や韓国語等の特色ある活動を実施し幅広く豊かな学習活動を展開することができ、進路選択の幅を広げることができた。
食物調理科	✓ 在籍人数に応じ適切な人数のグループを作りながら円滑に調理実習等ができるような工夫を行い実習に励んだ。保護者対象のお食事会も実施でき、生徒たちは感謝の気持ちを保護者に伝えていた。専門知識の習得に励み、調理技術とてなしとのバランスの取れた専門人材の育成に努めた。
保育福祉科保育コース	✓ 専門知識の習得に加え、保育技術の錬成に努め、年間を通して生徒自身の専門性を高めることができた。また、実習施設と綿密に打合せを重ね、実習を実施し現場における学びを深めることで、豊かな情操と感性を育んだ。
保育福祉科福祉コース	✓ 専門知識の習得に加え、介護技術等の錬成に努め、年間を通して生徒自身の専門性を高めることができた。また、実習施設等の理解と協力のおかげで実りある実習を行うことができた。課題研究にも積極的に臨み、福祉に携わる人間としての資質向上につながっている。
衛生看護科	✓ 病院実習が学内実習等に振り替わることもあったが、現場での経験を得ることができた。座学にも十分に力を入れることで、准看護師資格試験においては100%の合格を達成できた。
衛生看護専攻科	✓ 病院実習が学内実習等に振り替わることもあったが、コロナ禍の時期よりも病院等での実習が実施できた。看護師国家試験においては91%の合格率であった。

(2) 教育活動

取組の総括	
✓ 「確かな学力、豊かな心、健やかな体を基盤とした生きる力の養成」に関して、高校生としての基本的生活習慣および学びの姿勢が身につくような指導を展開している。教育活動もコロナ禍以前のように活気が戻ってきた。インフルエンザ等の感染症に対する予防対策を徹底することで教育活動を保証したい。 ✓ 専門教育は、その専門性を高めながら行われている。Sコースは完成年度を迎え、教育の魅力も広がっている。部活動では最近目覚ましい結果を残す部も現れてきており、注目すべき部も増えてきている。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 基本的な生活習慣とマナーの育成	✓ 生徒たちには「気づき 考え 行動する」を常に意識して日々生活するよう指導している。 ✓ 学校内における活動のルールや制服の着こなし等、生徒指導部から担任を通じ日頃より注意喚起を行っている。日常の教育活動を通して、生徒たちが何事も自分

	事としてとらえるようそれぞれの立場で自分の言葉を通して、継続的に指導していくことが必要である。 ✓ 時代にそぐわない校則の一部見直しを検討し改訂を行った。
(2) 長崎国際大学および長崎短期大学との連携推進	✓ 専門の授業や実習など、大学および短大の先生方の協力を得ながら実施することができ、生徒の視野が広がった。 ✓ 今後も積極的に連携を図り、生徒の進路意識の向上や内部進学者の増加、教職員の資質向上に繋げたい。
(3) 教育機会の充実	✓ 講演会、講話、芸術鑑賞等の後には、振り返る機会を設けることで、「聴く まとめる 書く」力の育成に努めた。 ✓ 校内合唱祭や各科の課題研究発表会等をとおして、生徒たちの視野を広げ、思考力や表現力を高めることができた。
(4) 人権教育・主権者教育の充実	✓ 人権教育については全学年で映画を視聴することで、人権意識の醸成につとめた。 ✓ 主権者教育費については、佐世保市選挙管理委員会の協力のもと、3 年生を対象に実施した。
(5) 部活動の充実	✓ 運動部についてもこれまで通り活発な活動が見られているが、伝統のある部に加え、県上位の結果を残す新しい部も増えてきており、各部が切磋琢磨して学校の雰囲気盛り上げている。 ✓ 吹奏楽については、地域ともよく連携し活動の幅を広げている。弁論部については全国大会や九州大会において上位入賞を果たした。また、茶道部など文化部も充実した活動を行っている。

(3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

取組の総括	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
該当なし	

(4) 研究活動

取組の総括	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
該当なし	

(5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

取組の総括	
✓ 「安全で安心な学校環境の構築に努める」に関して、生徒や保護者の悩みや課題等に対応できるように専門の人材を配置し、適宜支援を行うことができた。調査の実施等も定期的に行い、生徒の困り感を早期に把握し、対応できるように努めた。生徒数が多い分、課題等多様化しているが、そのような中でも一人一人を大切に支援していける体制を続けていきたい。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) キャリアガイダンスの充実	✓ 進路指導室には就職指導員が 1 人常駐し、協力をいただきながら職場見学やインターンシップの実施を行うなどし、生徒の職業観の育成に努めた。また、グループ内の学校説明会を行い、進学に関する情報提供も行った。
(2) スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置	✓ 2 人の SC(および SSW)を配置し、毎週定期的にカウンセリングに当たっていただいている。その都度担任等との情報共有も行い、生徒支援に繋げている。 ✓ 家庭環境に起因する案件も増えてきており、SSW の常駐が必要と考える。
(3) 特別支援教育、道徳教育の充実	✓ 道徳教育に関しては、各学科コースまたは各教科・科目等における計画を行い、様々な場面でその教育がなされるよう取り組みを進めている。 ✓ 特別支援教育については、校内研修を実施するなどし、教育的ニーズの把握や支援のあり方についての理解向上に努めている。
(4) いじめ・体罰防止の徹底	✓ 各学期に 1 回いじめ悩み調査を行い、年に 1 回体罰調査を行うなどして、実態の把握および防止の徹底に努めた。早期対応につながっており、今後も継続していく。
(5) 課外活動補助	✓ 運動部・文化部における各種大会およびコンクール等の参加補助を行った。さらに大会等への参加補助規定を明確にして、部活動間での平等化を図った。
(6) 学生寮・スクールバスの充実	✓ 若竹寮、椎木寮および野球部寮、サッカー部寮の運営を学園のグループ会社に業務委託を行い、学校負担の軽減に繋がっている。

	✓ 在籍の7割がスクールバスを利用している。各方面12の路線を運行している。運行を3社に委託しているが、1社から運転手不足のため他社への委託の相談があり、令和7(2025)年度は4社に委託することとなり新年度も運行路線の確保はできている。引き続き、安全運行の徹底を業者と確認する。
--	---

(6) 国際交流・留学生支援活動

取組の総括	
✓ 「活動を通し視野を広めるとともに、地域および国際社会の一員という認識を深める」に関して、普通科の生徒を対象に他部門の留学生との交流の機会を設けることができた。また、他部門での交流会に参加する機会があり生徒たちは積極的な姿勢で臨んでいた。Sグローバルコースを中心に国際交流が盛んになればと期待している。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 普通科 S グローバルコースを中心とした留学の斡旋	✓ 留学費用の高騰(円安、物価高等)により、募集をかけても催行人数まで集まらない状況であった。一人でも参加可能のプログラムの検討等が必要である。 そのような中、令和7(2025)年度には、5月に韓国、7月にイギリスに短期語学研修を実施する予定で準備を進めている。 ✓ オンラインでの留学または日本国内でのネイティブスピーカーを交えたプログラムの利用などの検討も必要である。
(2) 留学生の受け入れ	✓ 短期・長期とも留学生の受け入れはなかった。
(3) 長崎国際大学・長崎短期大学の留学生との交流会	✓ 長崎国際大学との連携行事である「異文化理解教室」を実施し、留学生と交流を深めることができた。次年度はさらに様々な国の留学生と交流できることを期待したい。
(4) 姉妹校および韓国の高校との交流	✓ サッカー部が韓国に遠征し、高校生との交流を行った。
(5) その他	✓ 5月に台湾の高校とオンライン交流を行った。 ✓ 西海市主催、台湾短期語学研修に1人の参加があった。

(7) 学生募集・広報活動

取組の総括	
✓ 「本校の魅力を的確に伝えるとともに、安定した定員充足を目指す」に関して、複数の媒体を活用して本校の魅力の発信を定期的に行うことができています。ホームページに関しては、担当者の尽力により、これまで以上の頻度で情報発信することができた。オープンスクールをはじめとした募集関係の行事では、これまでも、中学生やその保護者また地域に寄り添った手作りの内容を提供し好評を得てきた。これからも準備には十分力を注ぎ、さらには生徒を表に立ててアピールしていけるようなものを作っていきたい。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) パンフレットおよびホームページの充実	✓ パンフレットについては、伝わりやすいデザインに加え中身の充実を図り、より情報を得やすいような冊子になるよう工夫した。ホームページについてはリニューアル後、オープンスクール等の大きな行事での活用はもちろん、日頃の学校活動に関するこまめな情報発信を心がけた。専攻科についてもホームページの活用を力をつく。
(2) オープンスクール、入試相談会、入試説明会の充実	✓ 今年度は7月、8月にオープンスクールを実施し、多くの参加者を受け入れることができた。内容に関しては日によって少しずつ変化をつけるなど、複数回参加する生徒にもその都度新しい体験をしてもらえるような工夫を凝らした。入試相談会や入試説明会も活発な質問、相談がなされ、生徒募集のヒントとなる情報も多く得られた。
(3) 中学校訪問の強化	✓ オープンスクールの案内やパンフレットの配布のため、本校生徒の出身中学校や受験の実績がある中学校などへ訪問を行った。要請に応じて離島地区などへの訪問にも対応できるよう準備は行っている。
(4) 幼小中高連携・高大連携の推進	✓ 7月にSコースの教員・生徒が九文中学校の生徒・保護者への説明会を行い、好評であった。今後も継続的に実施し、さらには九文小学校でも実施できればと考えている。 ✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園および長崎短期大学のご協力のもと、保育コースの幼稚園実習、出前授業等十分に連携を図ることができた。 ✓ オープンスクールの際に、各コースの体験授業のなかで長崎国際大学・長崎短期大学の先生方から中学生に説明を行っていただいた。 ✓ Sアカデミーコース1・2年生が、長崎国際大学薬学部で体験授業等を実施していただいた。生徒は設備の整った実験室での実習や施設見学を通して、自然科学への興味関心が高まった。

	✓ 長崎国際大学薬学部に進学した本校卒業生の情報交換を行った。薬学部を志望する生徒への指導の一助となった。
(5) 学業(グループ内特待)・スポーツ特待生の確保強化	✓ それぞれの部の核となって活躍できる生徒について県内外を問わず募集を行い、各部数人ずつ確保することができた。また、学業特待生についても入試結果の芳しい生徒を一定数確保することができている。
(6) 入学試験の検討・分析	✓ 実施日程について、今年度は1月の3～4週目となっていたが、細かい日にちについては佐世保市内の私立高校同士の日程が重なることを回避するよう学校間で連絡し合い調整している。また、普通科Sコースを含め全学科コースとも、推薦基準や入学試験の内容を検討していく必要がある。

(8) 教職員の人材開発

取組の総括	
✓ 「事業計画の充実、達成のため研究活動および研修を実施する」に関して、ICT教育に関する校内研修会やミニ研修等が実施され、先生方も興味深く参加されていた。校務支援システムの導入により、校務での活用を見据え研修への参加も多かった。教室にプロジェクターの設置が完了し、さらに次年度で全学年端末が行き渡り、校内インフラの整備がひと段落する。また、生徒対応に関わるような研修についても関心は高く、研修の機会自体を貴重なものであると先生方自身が感じているようだ。次年度以降も体系的な研修の実施を計画していきたい。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 校内・校外研修への参加	✓ 文科省主催、県教育委員会主催の教育相談関係の研修にそれぞれ参加し、職員への還元研修を行った。 ✓ 私学九州地区初任研に2人、長崎県私学協会主催研修会に1人参加した。また県の私学協会主催、地歴公民部会に1人、生徒指導領域に2人参加した。参加した先生には後日、職員会議にて報告を行ってもらい、研修内容を全職員で共有する機会を設けた。 ✓ 11月の校内研修で、SWOT分析を体験してもらった。各学年、ブロック、分掌等で課題解決に向け活用を図る。
(2) 他校への授業見学、研修・研究会への参加	✓ 国語・数学・英語のSアカデミー教科担当で、諫早地区の高校2校を訪問し、授業参観ののちに、教科指導・進学指導についてご教示いただいた。また、Sアカデミーの学力分析会議にベネッセからも参加いただき、指導方法等の助言をいただいた。
(3) 本学園の職員としての意識構築および確認	✓ 年度当初、職員会議資料に掲載し確認を行った。また、創立記念式や学祖追悼式等の行事において資料を配付し、建学の精神を改めて確認するとともに、生徒に伝える場を設けた。
(4) 長崎短期大学との合同研修会の実施	✓ 保育領域について、長崎短期大学主導で数回協議会が実施された。また、担当者間で連携について協議を行い、高校において連携授業を実施していただいた。

(9) ステークホルダーとの連携強化

取組の総括	
✓ 長崎短期大学にて椎木町連絡協議会が開催された。吹奏楽部が地域の催し物で演奏を披露するなど地域と積極的に関わることができた。学園祭には多くの地域の方に足を運んでいただいた。保護者および周辺地域の方々にも多く来校していただき、各学科コース・部活動・育蝶会(PTA)の特色を活かした様々な企画を楽しんでもらうことができた。また、ホームページ、インスタグラム等を活用し、様々なツールを活用し開かれた九州文化学園高等学校でありたい。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 地域との合同協議会および交流会の充実	✓ 長崎短期大学にて椎木町連絡協議会が開催された。交流会については、高齢者も多くコロナ等の感染が心配であることから実施していないが、学園祭の折には、多くの方が足を運んでいただき、楽しんでいただいた。
(2) 地域住民との交流・連携	✓ 吹奏楽部が地域の行事に招かれて演奏する機会が数回あった。地域の方々には大変歓迎された。
(3) 地域清掃活動の実施	✓ 10月30日(水)、3月1日(土)に学校周辺地域の清掃活動を実施した。
(4) 保護者との連携	✓ 育蝶会役員会・総会、私学振興大会などPTA行事をはじめ、学園祭ではバザーを開いてもらい学校の応援団として積極的に関わってもらった。
(5) 同窓会との連携	✓ 同窓会総会が数年ぶりに開催され、本校からも同窓会担当を含め多くの教職員が参加した。日頃から物心共に支援いただき感謝している。引き続き、連携を強化し本校の応援団として協力いただければ幸いである。

(10) 学園内の連携促進

取組の総括

✓ 九州文化学園グループのさらなる強みを構築するために、内部進学にかかる委員会やグループ内の一貫教育についての検討委員会等に参加する」に関して、様々な連携会議に参加し率直な意見交換を行うことができている。ただ、会議の結果を受けて次の行動に繋げることができているものもあれば、話をするだけにとどまっているものもあるので、会議を行うことが目的にならないように、会議の形はコンパクトに収めて、具体的に次の行動に繋がられるような実効性のある会議のあり方が必要であると感じている。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学園内募集担当者会議	✓ 各部門の状況報告等を行い、部門を越えて協力できることなどがないか協議を重ねた。
(2) 食物分野に関する連絡協議会	✓ 内部進学率を上げるための、各部門の課題や他部門へ期待することなどの情報共有および各部門とのイベントや合同授業企画等を話し合った。合わせて各部門の活動実施報告(オープンキャンパス等)を行った。
(3) 福祉分野に関する連絡協議会	✓ 内部進学者数の増加に繋げるための具体的な連携の検討 ✓ 高大連携授業の実施に向けた具体的な内容の検討 ✓ 卒業生による講演会の開催に向けた協議 ✓ 在校生の進路希望調査結果報告卒業生(内部進学者)の状況報告と連絡協議
(4) 各部門の英語科職員の合同研究協議会	✓ 各部門の取り組みについて報告 ✓ 今後の部門間の連携のあり方や、グループ内での英語指導の縦の流れについて検討が必要である。
(5) SDGs に関する連絡協議会	✓ 令和 7(2025)年 5 月に実施される佐世保市の SDGs イベント参加に向けた企画を考案し学園の準備会議で検討している。

(11) SDGs の推進

取組の総括	
✓ 「これまでの活動と SDGs の関連性を知り、これからの活動に SDGs を意識する」に関して、その目標の通りこれまで生徒を第一に行ってきた本校の教育が、今大きく叫ばれている SDGs の目標と繋がりを持っていることを確認することができている。SDGs の目標を達成するために本校の教育を合わせるといことでは決めているが、意識ができれば学びの幅が広がることにはなるので、授業の中だけではなく、学校活動の随所にちょっとした配慮も織り交ぜながら、SDGs の広がりとともに本校の活動も魅力を増していけるようにしていきたい。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 地域清掃活動の実施	✓ 10 月 30 日(水)、3 月 1 日(土)に学校周辺地域の清掃活動を実施した。
(2) 食材の有効活用	✓ 食物調理科の生徒が「フードロス削減」を意識して調理実習に取り組んだ。
(3) 教育内容および環境の充実	✓ スクールバスや寮を完備し、多方面からの通学を可能として、あらゆる生徒に本校での学びの機会を与えている。また、授業内容に工夫を凝らし、課題等を適切に課すことで、家庭でも十分な内容の学習ができるよう指導を行っている。
(4) 健康的な活動の奨励	✓ 生徒には日頃の健康観察を欠かさないように心がけるよう啓発を行っている。集会時には感染予防対策をとりながら教育活動を行った。無理を控え、その分健康であるときには活発に学校活動がなされるよう声かけ等を行った。
(5) ジェンダー平等の実現	✓ 混合名簿の使用や体操服、ジャージを男女統一したデザインを使用するなどしている。
(6) 働きがいのある労働環境の促進	✓ 土曜日には生徒登校日を極力設けず、土曜日に部活動や研修を行えたり、休暇を取りやすくなったりなど、各自の状況に合わせた働き方のできる行事予定等を作成した。

(12) 管理運営と業務・経費効率化

取組の総括	
✓ 定員確保による安定した収入の確保と、計画的な支出管理により、収益の確保を図る。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 増収策	✓ スクールバス維持費の値上げや寮の運営経費の見直し等経費削減に注力した。
(2) 健全な財務基盤の構築	✓ 経常収支差額は 35 百万円を確保したが、経費増加により減収となった。

(13) 施設・設備・システム等の環境整備

取組の総括	
✓ 設備の老朽化が進行中で、計画的な設備改修計画が必要な時期に来ているが、下記はいずれも未実施となった。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 屋内練習場新築工事	✓ 未実施
(2) 室外機	✓ 未実施
(3) 室内機	✓ 未実施

(4) 空調設備	✓ 未実施
----------	-------

(14) 点検評価

取組の総括	
✓ 自己評価を、教職員、生徒および保護者に実施した。評価結果は教職員で共通理解を図り、課題となる評価項目については改善を図っていく。また、育蝶会総会で評価結果を説明し、加えてホームページにて公表する。質問項目は中期計画の完成年度まで大きく変更はしない予定である	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学校評価の実施	✓ 教職員の自己評価については、4 段階で平均 3.1 であった。3.0 を下回った評価項目については課題として捉え、改善を図っていく。 あると捉える。「九文高校でよかった」の質問には生徒 8 割、保護者 9 割が 4 と 3 に回答している。さらに、満足度が高くなるようや努力する。

(15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

取組の総括	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
該当なし	

4.九州文化学園中学校

1) 経営理念・経営目標

経営理念	変化対応力、優れた品格、健全な心身を育む全人教育を提供する
経営目標	英語、IT、茶道文化を3本の柱とした先進的教育により、グローバル人材を育成するとともに地域に貢献する

2) 1年間の総括と評価

✓ 入試制度の改革の年として、これまでの入学試験をマイナーチェンジすることに加え、県立中入試に準拠した「適性検査」を導入した。1次2次試験も含め、最終的には内部進学者14人を含む27人の入学者となったが、さらなる受験者数の獲得に向けて教職員が一丸となって取り組んでいく。また、開校以来初めてとなるカナダへの修学旅行を実施することができた。事前学習を含め、現地での様々な体験は生徒にとっても深い学びとなった。
✓ さらに、今年度留学に関する協定を結び、次年度の本格的な実施に向けて保護者向けに紹介し、一番のステークホルダーである保護者へ本校ならではの学びの特色として示すことができた。また、1単位時間を45分に設定し、1日7コマの日課にすることで、学校5日制になっても豊富な時数を確保し、生徒の学力向上に向けて各教科様々な取組をすることができた。今年度も他部門との連携、地域社会との連携において、キャリア学習では生徒へ多様な学びの機会を示すことができた。

3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

1	成長力の確保	✓ 9年間を見通した本校独自の魅力ある教育課程として、小学校との接続を意識して作成したカリキュラムを実際の活動と照らしながら、よりよいものへ修正を重ねることができた。九州文化学園高等学校とキャリア教育の一環として高等学校Sコースの説明会を実施することができた。
2	教育力の向上	✓ 研究主任を中心に、年間を通じた研修に計画的に取り組んだ。また、市の教育研究会への参加など校外の研修にも積極的に参加し、個々の教育力の向上につなげた。
3	約定返済の確実な履行	✓ 全職員がコスト意識を高く持っているものの、定員充足には至っていないため、財務状況は依然として厳しい状況が続いている。

4) 経営改善(健全化)に関する成果

1	収入の増加	✓ 各種補助金の獲得、スクールバス利用料金の値上げ、適性検査の実施により、収入が微増した。
2	支出の効率化	✓ 業者の見直しやシステムのクラウド化を導入することで、ランニングコストの削減に努めた。
3	人員・業務の効率化	✓ チーム担任制の導入 ✓ 次年度システムのクラウド化移行へ向けた準備
4	付加価値向上と広報強化	✓ 海外の語学学校と協定を締結した。 ✓ ターゲット(小学6年生)に即した広報(タイミング・内容)に課題が残る。

5) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	✓ 若手研修の実施により、基礎・実務知識を習得させ、教員としての資質向上に努めた。また、IT教育・グローバル研修を実施し、教員の英語力の水準向上やITスキルアップに努めた。
戦略Ⅱ	✓ 中学校チーム全員担任制を実施し、教育上の相談をチームで日常的に行うことにより、問題の早期解決を図り、安心できる教育環境の提供に努めた。 ✓ 授業を45分の7校時へ変更することで、これまで放課後に実施していた探求学習を全員が受けられるようにし、週の学習時間を55分増やすことができた。 ✓ 放課後学習の時間は、「主体的学習コース」と「補充学習コース」に分かれ、「主体的に学びに向かい、自らの学びを構築する力」を育むことを目指した。
戦略Ⅲ	✓ イギリスの語学学校との提携など生徒の留学機会を増やす準備ができた。また、イギリスのダウトン&サウスダーボシヤス大学の学生の訪問を受けるなど、国際交流ができた。
戦略Ⅳ	✓ 法人全体におけるネットワーク環境の再構築に加え、開校6年目を迎え、支障が見られたネットワーク環境整備に努めた。 ✓ 経年劣化を見越した今後の整備を鑑み、諸々の配備品とその価格を再度見直し、スリム化を図り、経営の効率化に努めた。
戦略Ⅴ	✓ Instagramを中心に動画を投稿し、本校の魅力について視覚的に伝えた。 ✓ 学校の認知を広げるための幅広い集客が見込めるマルシェや、本校の魅力を伝えるオープンスクール、季節のイベント等で学校の魅力に直に触れてもらうことができた。
戦略Ⅵ	✓ 私立学校よかとこ推進プロジェクト事業費補助金を用いて、高精度なフィルタリングソフトの導入や校務システムの導入、IT(プログラミング)を専門とした外部講師を招くことで、インシデント発生率の

	低減、業務効率の向上による教職員の負担軽減、特色ある授業を展開し、専門性の高い授業を実現した。 ✓ 定員充足率が過去最も低く、安定的な生徒確保が早急な課題である。 ✓ 補助金については、計画的に獲得しており、収入の最大化に努めた。
学園内の連携促進	✓ 四期生 16 人が卒業し、うち 3 人(18.8%)が九州文化学園高等学校に進学した。 ✓ キャリア教育においては他部門との連携を活発に行った。特に、九州文化学園高等学校とは、キャリア教育の一環として高等学校 S コースの説明会を実施することができた。 ✓ 長崎国大大学、長崎短期大学、九州文化学園高等学校、九州文化学園調理師専門学校、九州文化学園歯科衛生士学院と授業やキャリア教育で連携し、より専門的な学びの機会を創出することができた。
付帯計画と課題	✓ 習熟度別学習が本格化するため、未使用教室を整備し、それに充てることを協議し、整備計画を立てた。全ての整備完了は、次年度 6 月を見込んでいる。

6) 主要情報

(1) 卒業者数、資格等に関する実績

【卒業者数】

区分	人数	備考
中学校	16 人	
卒業者の累計	80 人	

【資格等の実績】

資格等名	取得・合格者	備考
実用英語技能検定(英検)	延べ 39 人	【準 1 級】1 人【2 級】3 人【準 2 級】7 人【3 級】16 人【4 級】8 人【5 級】4 人
実用数学技能検定(数検)	延べ 14 人	【準 2 級】1 人【3 級】7 人【4 級】4 人【5 級】2 人
日本漢字能力検定(漢検)	延べ 7 人	【3 級】4 人【4 級】2 人【5 級】1 人

(2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
入学式	4 月 9 日(火)	
運動会	5 月 13 日(月)	雨天順延 5 月 12 日(日)
キッズフェスタ九文マルシェ	5 月 25 日(土)	
カナダ修学旅行(中 3)	5 月 25 日(土)～6 月 3 日(月)	
授業公開	6 月 1 日(土)	
第 1 回オープンスクール	6 月 15 日(土)	
第 2 回オープンスクール	7 月 6 日(土)	
Summer festival	7 月 20 日(土)	
夏休み工作教室	7 月 27 日(土)	
第 3 回オープンスクール	8 月 3 日(土)	
国際交流デー	8 月 6 日(火)	
入試説明会	9 月 7 日(土)	
プレ音楽祭	10 月 30 日(水)	
錦秋茶会	11 月 28 日(木)	
クリスマスフェスティバル	12 月 14 日(土)	
学祖追悼式	1 月 30 日(木)	
学習発表会(英語)	3 月 1 日(土)	
卒業式	3 月 11 日(火)	
修了式	3 月 24 日(月)	

<入試関係日程>

入試区分	実施日	備考
適性検査	11 月 30 日(土)	
第 1 回学力検査	12 月 7 日(土)	
第 2 回学力検査	2 月 1 日(土)	

7) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 学年・クラス等の基本方針

学部学科コース・区分の名称	年度の基本方針の達成状況
学校目標	✓ 学習活動・生活両面において個別最適な指導の在り方に重点を置いた。生徒一人

学年目標(全学年共通)	一人の個性の伸長を促すことができた。 ✓ 教育の 3 本柱を中心に据えた教育活動や自治的な生徒会活動、教育活動全体を通して行う道徳教育、多彩な体験活動、行事などを通して、生徒一人一人が実感をもって目標の達成に迫ることができた。
-------------	--

(2) 教育活動

取組の総括	
✓ カリキュラムを活用した教科連携や日課の見直しによって、生徒の主体的な学びを育む環境を構築することができた。研修を通して、本校ならではの小中一貫の学びの在り方を共通理解し、指導目標達成のための手段として ICT を活用しながら教育活動の充実を図ることができた。その成果と課題も研修や、校種・分掌・教科の各部会で共有し、具体的な手立てをもってさらなる向上と改善に努めた。	
項目名・取組名	
(1) 教育課程・日課の見直し	✓ 45 分 7 時間日課への変更による授業改善に努めた。その成果と課題を共有、改善策を共通理解しながら教育活動を行った。
(2) 小中高連携の在り方の構築	✓ 研修を通して、本校ならではの小中一貫の学びの在り方を共通理解し、その具現化に向けた実践を行った。高等学校との研修共有はできなかった。
(3) 生徒会活動の充実	✓ 自治的な活動を目指し、一人一役の徹底と各専門委員会活動の充実を図った。継続しているいじめ撲滅の活動については、佐世保市内公立中学校 5 校と協力して取り組んだ。本校発信の人権尊重の活動が広がりを見せたことは有意義であった。
(4) 全部門との ICT 技術共有	✓ 学園内の各部門との ICT 会議の実施や各部門の ICT 技術の共有は、新しく導入した校務支援システムの BLEND の情報交換を行ったほか、インターネット回線統合による構築のための各部門との会議、不具合等の情報交換を行った。

(3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

取組の総括	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
該当なし	

(4) 研究活動

取組の総括	
✓ RV-PDCA サイクルに基づいて立案した校内研修計画に沿って、28 回の校内研修を行い、研究を推進することができた。教育課程研修では、三本柱に関する研修、生徒理解に関する研修、各種学力調査の分析を行った。ICT 研修では、各教科の授業実践を開き合い、ICT の効果的活用について共有し、更なる活用について協議することができた。また、計画的な研修によって、小中一貫校としての学びの在り方について共通理解することができた。このような研修を通して、児童生徒の学力向上、職員間の同僚性の構築も十分に図られたと考える。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 授業公開	✓ 「小中一貫の学び」を広く知らせることを目標に、教育関係者・保護者・本校入学希望者を対象にして実施した。多くの参加者を得たが、本校入学希望者の参加者数を伸ばすことが次年度の課題である。
(2) 共同研究	✓ TOPPAN ホールディングス(株)との AI ドリル navima の実証研究を行い、年間 3 回の研究推進委員会を開催し、研究を深めた。
(3) 研究発表	✓ JAET 優良校の再認定を受けた。 ✓ 全日本教育工学研究協議会全国大会での実践発表が行えなかった。
(4) 現職研修	✓ 教職員としての資質および指導力向上をねらう研修を計画的に実践した。 ✓ 各学力調査分析を全職員で行い、児童生徒の共通課題を設定、共有し、その改善に努めた。

(5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

取組の総括	
✓ 充実した教育活動のもと、よりよい職業観を育み、将来の展望を具体的に描くことができる指導に努めた。総合学園の強みを生かし、学園内の人材や連携企業を活用したキャリア学習を計画的に行った。さらに、様々な活躍する多様な講師を設定し、予測困難な時代を生きる生徒にとって刺激ある講話を設定した。 ✓ 全員担任制の強みを生かした教育相談活動によって、進路相談の充実はもとより生徒指導問題の未然防止を行うことができた。 ✓ 内部進学者を迎える次年度スタートのタイミングで、さらなる学習環境の整備のため、中学棟 3 階の教室の整備計画について検討し、次年度早々に着手するよう計画した。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) キャリア講話	✓ 社会金融教育家 田内学氏、公益財団法人日本サッカー協会 常務理事 高田春奈氏、

	合同会社 TMG PLUS 代表 中山佑介氏をはじめとする講師を招聘し、講話をいただいた。生徒たちの生き方を見つめ、考えるきっかけとすることができた。
(2) 充実した教育相談	✓ 毎月こころと体の健康チェックを行い、気になる項目にチェックが入っていた生徒には教育相談を実施することができた。
(3) 教室の整備	✓ 3階ダイニング予定地としていた教室を、授業などが出来る環境へ再整備する計画を立て、準備に取り掛かった。

(6) 国際交流・留学生支援活動

取組の総括	
✓ 本校創立以来、初めての海外修学旅行を実施できた。協定を結んだビクトリア(バンクーバー)でのホームステイを通して、生徒たちはその国の文化の中で生活を体験し、違いを感じ、改めて日本の良さを実感した。帰国後に英会話に積極的に取り組み、将来の生き方の一つに海外を視野に入れるなど、考え方や行動に変化が見られた生徒もいた。 ✓ 佐世保市役所からの国際交流案内が減少し交流は減ったが、大きな行事である修学旅行に向けた取組が中心となった1年だった。また、ホームステイ先で日頃学んでいる茶道を紹介したことで、日本文化を発信することの大切さを学んだ。 ✓ イギリスの語学学校と交流協定を締結した。次年度以降、本校特別価格での留学プログラムがスタートする。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 語学研修旅行	✓ カナダへ修学旅行を実施した。ホームステイ先では、英語でコミュニケーションを行い、実践的な研修を行った。普段から自立した生活を心がけることが課題であるとの気づきがあった。
(2) 海外とのオンライン交流	✓ 実施なし。ミスフィリピンに来校あり。国を代表する立場としてボランティア活動を実践されており、他のために働くことの意義を学んだ。
(3) 職員のグローバル研修	✓ 小学校・中学校それぞれに年2回ずつ実施した。グローバル的視点を持つことの共通認識を図った。

(7) 学生募集・広報活動

取組の総括	
✓ 定員充足を達成するために、オープンスクールや入試説明会、小学校・学習塾などへの定期的な訪問に加え、SNS(特にInstagramや公式LINE)を活用し、総合学園としての独自で魅力ある教育内容を受験対象者に向けて発信することで、私立小中学校ならではの教育環境を効果的にPRすることができた。 ✓ オープンスクールでは、本校ならではの授業を体験できるよう、英語授業やプログラミング(ドローン操作)、茶道体験などを実施した。 ✓ 入学試験の改定として県立中学校の入試に準拠した適性検査型入試を導入し、受験者数の増加につなげることができた。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 入学試験の改定	✓ 県立中学校の入試に準拠した適性検査型入試を導入し、受験者数の増加につなげることができた。
(2) オープンスクール	✓ 校内見学・教育内容説明 6月・7月・8月に実施 ✓ 英語、IT、茶道本校の教育の3本柱体験を実施した。参加人数が少なく課題が残った。
(3) 入試説明会	✓ 入試試験改定の効果もあり、参加者からの出願率が多くなった。教員から本校の教育方法の詳細を説明したことで保護者にアピールすることができた。WEB出願導入初年度であったが、事前準備を十分にを行ったことで、紙による出願からWEB出願への移行を円滑に進めることができた。
(4) 個別相談会	✓ 個別相談会そのものに参加はなかったが、その他の時期に個別に対応した。
(5) 受験対策講座	✓ 英語、国語、算数を講座として行い、小学校6年生に対して実施した。 ✓ 第1回、第2回ともに参加した児童は交流につながり、よい雰囲気でも実施できた。
(6) 小学校、塾定期訪問	✓ 市内の塾を訪問し関係構築を築いた。特に㈱智翔館とは、塾生の保護者説明会に伺い本校の教育内容と入試説明を行った。また10月に本校で模試を行い、今年度導入した適性検査に誘導することができた。
(7) SNS	✓ 昨年に引き続き生徒の学習の様子をInstagramに投稿した。
(8) IT体験会&九文マルシェ	✓ マルシェ参加者向けにIT体験の一環としてドローン操作体験を実施した。ドローン体験会はとても好評で、事前申し込みでほとんどの回が満員であった。 ✓ その他にも約50店舗が出店し、来場者は約2,000人になった。

(8) 教職員の人材開発

取組の総括	
✓ 今年度も教師に求められる資質能力【①教職に必要な素養②学習指導③生徒指導④特別な配慮や支援を必要とする	

子供への対応⑤ICTや情報・教育データの利活用】を網羅して研修に取り組んだ。チーム別研修や全体研修など形態を変えながら、研究主任を中心に、同僚性の構築を図り、組織力の向上を意識して計画的に研修に取り組んだ。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 定期的な職員研修	✓ 毎月第1・3水曜日を研修日として設定し、年間28回の校内研修に取り組んだ。
(2) より専門的なICT研修	✓ 今年度も文部科学省の学校DX戦略アドバイザーでもある福田孝義氏の講義や指導助言を受け、職員の資質向上につなげた。

(9) ステークホルダーとの連携強化

取組の総括	
✓ 一番のステークホルダーである保護者との連携強化は常に大切にしており、チーム担任制に変更することによるメリット・デメリットを年度当初に詳しく説明し、1年間やってくることが出来た。保護者としては、相談しやすい教員に話が出来ること、学校とのつながりを安心して持つてもらうことにつながっている。 ✓ 佐世保工業高等専門学校との共同事業は3年目となり、卒業生で高専の生徒も参加しており、つながりを持った共同事業へと発展している。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 4月保護者対象学校説明会	✓ 45分×7時間日課への変更について、そのメリット・デメリットについて詳しく説明し、疑問や不安にも回答することができた。また、学力向上に係る説明、エゴ研修に係る説明も十分に行うことができた。
(2) 行事における保護者活用	✓ 保護者との連携により、児童生徒の活動をより円滑に遂行することができた。
(3) 佐世保工業高等専門学校との共同事業	✓ 月1回中学1・2年生を対象に合同の活動を実施できた。9月には、佐世保工業高等専門学校の施設を借用しての体験、2月には1年間のまとめとして、中学1年生が小学生に作成した教材を体験してもらう機会の設定を行うことができた。

(10) 学園内の連携促進

取組の総括	
✓ キャリア教育において、長崎国際大学だけでなく長崎短期大学、歯科衛生士学院と連携することができた。特に接続機関である九州文化学園高等学校とは、Sコースの生徒によるコース説明会の実施や九州文化学園高等学校の進路指導室の見学を行うことができた。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 接続カリキュラムの検討	✓ 中高の連結した教育カリキュラムの構築に向けて、高校副校長・英語科職員と本校職員との会議を実施した。
(2) SDGsに関する連絡協議会	✓ 教員・事務職員から各1人ずつ担当者を選出し、SDGsフェスティバルへの出展内容の検討など計画的に準備を行った。
(3) 他部門との合同研修	✓ 6月1日実施の授業公開では、長崎国際大学や認定こども園九州文化学園幼稚園の先生方にも参加いただき、本校の小中一貫の学びを肌で感じる機会を設けることができた。
(4) キャリア教育	✓ 長崎国際大学での薬剤師体験、歯科衛生士学院での体験などを実施することができた。

(11) SDGsの推進

取組の総括	
✓ 本校ではSDGsの推進に向け、専門委員会ごとにSDGsの17の目標から関連するテーマを選定し、それに沿った具体的な目標を設定して生徒会活動を展開した。これにより、生徒自身が社会課題を主体的に捉え、実行に移す力を育んだ。また、教科学習との連携として、中学2年のIT授業においてCADを活用し、災害対策をテーマにした建物設計や避難所配置の課題解決型学習を実施した。これにより、技術力と社会的視点の両方を伸ばすことができた。さらに、業務面では配付物をBLENDで電子配信するなどペーパーレス化を推進し、環境への配慮と業務効率化の両立を図っている。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 専門委員会でのSDGs推進	✓ 各専門委員会でSDGsのテーマに沿った目標を立て、生徒会活動を実施した。
(2) 教科学習への取り入れ	✓ ITの授業にて中学2年生で、CADを使用した災害対策等の学習を取り入れた。
(3) 業務におけるペーパーレス化	✓ 配付物をBLENDにて配信するなどの電子化を図った。

(12) 管理運営と業務・経費効率化

取組の総括	
✓ 4月当初に事業計画の周知徹底を行い、経費の効率化についても一丸となり取り組むことを確認したことで、無駄な出費は年間を通じて無く、適正な予算執行に努めることができた。加えて、補助金や外部資金の獲得へ向けては、教職員一丸となり取り組むことが出来た。 ✓ 中学校の大きな課題としては、入学者を一人でも増やすことであり、そのための策として入試制度の改革を行った。	

塾との連携を取り付けた結果、受験者数が伸びた。内部進学者第1期目の年でもあり次年度入学者数は増加となる。 ✓ スクールバスの運営においては、料金の値上げを実施したことで収支改善が実現した。児童生徒数が増えていく次年度の運行ルートと児童生徒の配置について協議を重ね、現状5台のバスで回転させる計画案を立案した。 ✓ 運営委員会、職員会議、週2回の朝会を定期的に開催した。教職員が現状を共通理解し物事に当たれるよう努めた。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 中期計画・事業計画の説明	✓ 職員会議や運営委員会において周知徹底した。
(2) 予算執行	✓ 引き続き無駄を省き、適正な予算執行に努めた。 ✓ スクールバス利用料金の値上げを実施したことで、スクールバスに係る費用については赤字幅が縮小した。
(3) 校内会議における情報の共有	✓ 職員会議や運営委員会において計画の進捗状況や本校における課題を共有し、目標の達成に向けて取り組んだ。
(4) 学園内での情報の共有	✓ 責任者連絡会・事務局長会議において、情報の共有に努めた。

(13) 施設・設備・システム等の環境整備

取組の総括	
✓ 木製の扉や机椅子の不具合・破損が進んでいる。都度修理できるものは自前でやるが、今後のことを考え、新規購入品については検討が必要 ✓ 技術室・家庭科室前廊下にシロアリ被害が確認された。来春、業者を入れ駆除する計画 ✓ 3階ダイニング予定地を内部進学者が入学する4月からのタイミングで教室化するように協議を進め、計画した。 ✓ 業務の効率化を図るべく新校務システム導入を決め、移行準備を計画的に行った。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 安全点検の実施	✓ 毎月の安全点検を確実に実施し、その結果をもとに施設維持に努めた。
(2) 教室数の確保	✓ 引き続き施設キャパシティ問題を法人本部に報告・相談した。
(3) 新校務システム移行	✓ 新校務システム移行に向け、二者面談等による保護者への周知、欠席連絡の新システムへの移行・連絡メールの移行と段階を追って取り入れることで、保護者の大きな混乱もなくスムーズに移行することができた。

(14) 点検評価

取組の総括	
✓ 保護者との更なる連携の強化を目指し、アンケート調査を実施した。また、結果を運営委員会で共有し、次年度の教育活動に生かすための手立てを検討した。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学校評価	✓ 学校評価では、中学校の総合評価は3.4だった。「子どもを本校に入学させてよかった」の項目に関しては、3.5となっており、さらに回答者の63%が「4」と答えており、高い評価を得ることができた。

(15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

取組の総括	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
該当なし	

5.九州文化学園小学校

1) 経営理念・経営目標

経営理念	変化対応力、優れた品格、健全な心身を育む全人教育を提供する
経営目標	英語、IT、茶道文化を 3 本の柱とした先進的教育により、グローバル人材を育成するとともに地域に貢献する

2) 1 年間の総括と評価

✓	小学校の完成年度を迎え、関西への修学旅行、小学校の卒業茶会の実施など 6 年間の学習の集大成となる活動に取り組むことができた。本校の教育目標を念頭に、教員一人一人が魅力のある授業づくりや児童への細やかな指導・支援に日々努めている。今年度も 3 月に英語学習発表会、また、英語のレシテーションコンテストの実施など 3 本柱の一つである英語教育に小学校 1 年生から多くの時間をかけて取り組んでいる成果を保護者に示すことができた。
✓	他部門との連携、地域社会との連携においては、昨年度に引き続き、小学校 5 年生で大塚食品株式会社とタイアップし、大豆ミートを使用したオリジナル弁当の制作を行い、県内の株式会社エレナで販売された。今年度は長崎県の国保・健康推進課とも連携し、より深い学びとなった。さらに、エレナ五番街では、販売体験もさせていただき、流通の現場を肌で感じる事ができた。

3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

1	成長力の確保	✓ 9 年間を見通した本校独自の魅力ある教育課程として、小学校との接続を意識して作成したカリキュラムを実際の活動と照らしながら、よりよいものへ修正を重ねることができた。
2	教育力の向上	✓ 研究主任を中心に、年間を通した研修に計画的に取り組んだ。また、市の教育研究会への参加など校外の研修にも積極的に参加し、個々の教育力の向上につなげた。
3	約定返済の確実な履行	✓ 全職員がコスト意識を高く持っているものの、定員充足には至っていないため、財政状況は依然として厳しい状況が続いている。

4) 経営改善(健全化)に関する成果

1	収入の増加	✓ 各種補助金の獲得、スクールバス利用料金の値上げ、適性検査の実施により、収入が微増した。
2	支出の効率化	✓ 業者の見直しやシステムのクラウド化を導入することで、ランニングコストの削減に努めた。
3	人員・業務の効率化	✓ 次年度システムのクラウド化移行へ向けた準備
4	付加価値向上と広報強化	✓ 海外の語学学校と協定を締結した。

5) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	✓ 若手研修の実施により、基礎・実務知識を習得させ、教員としての資質向上に努めた。また、IT 教育・グローバル研修を実施し、教員の英語力の水準向上や IT スキルアップに努めた。
戦略Ⅱ	✓ 大塚食品(株)や(株)ファーストリテイリング等の企業と共同プログラムで学ぶ機会を積極的に得、実践的な学びの機会をつくることで、将来の仕事観を早期に育むことが出来た。
戦略Ⅲ	✓ スウェーデンからのインターンシップを受け入れ、英語の授業の実践の場を設けることができた。
戦略Ⅳ	✓ 法人全体におけるネットワーク環境の再構築に加え、開校 6 年目を迎え、支障が見られたネットワーク環境整備に努めた。 ✓ 経年劣化を見越した今後の整備を鑑み、諸々の配備品とその価格を再度見直し、スリム化を図り、経営の効率化に努めた。
戦略Ⅴ	✓ Instagram を中心に動画を投稿し、本校の魅力について視覚的に伝えた。 ✓ 学校の認知を広げるための幅広い集客が見込めるマルシェや、本校の魅力を伝えるオープンスクール、季節のイベント等で学校の魅力に直に触れてもらうことができた。
戦略Ⅵ	✓ 若手研修の実施により、基礎・実務知識を習得させ、教員としての資質向上に努めた。また、IT 教育・グローバル研修を実施し、教員の英語力の水準向上や IT スキルアップに努めた。 ✓ 私立学校よかとこ推進プロジェクト事業費補助金を用いて、高精度なフィルタリングソフトの導入や校務システムの導入、IT(プログラミング)を専門とした外部講師を招くことで、インシデント発生率の低減、業務効率の向上による教職員の負担軽減、特色ある授業を展開し、専門性の高い授業を実現した。
学園内の連携促進	✓ 一期生 24 人が卒業し、うち 14 人(58.3%)が九州文化学園中学校に進学した。 ✓ 長崎国際大学、長崎短期大学、九州文化学園高等学校、九州文化学園調理師専門学校、九州文化学園歯科衛生士学院と授業やキャリア教育で連携し、より専門的な学びの機会を創出することができた。

	✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園の園児を招いて季節に合わせた英語レッスン等を実施し、内部進学につながる様に努めた。
付帯計画と課題	✓ 習熟度別学習が本格化するため、未使用教室を整備し、それに充てることを協議した。

6) 主要情報

(1) 卒業者数、資格等に関する実績

【卒業者数】

区分	人数	備考
小学校	24人	
卒業者の累計	24人	

【資格等の実績】

資格等名	取得・合格者	備考
実用英語技能検定(英検)	延べ33人	【2級】1人【3級】8人【4級】14人【5級】10人
実用数学技能検定(数検)	延べ80人	【5級】4人【6級】6人【7級】11人【8級】11人 【9級】18人【10級】12人【11級】18人
日本漢字能力検定(漢検)	延べ67人	【5級】3人【6級】6人【7級】10人【8級】18人 【9級】12人【10級】18人

(2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
入学式	4月9日(火)	
運動会	5月13日(月)	雨天順延5月12日(日)
キッズフェスタ九文マルシェ	5月25日(土)	
授業公開	6月1日(土)	
関西修学旅行(小6)	6月12日(水)～6月14日(金)	
第1回オープンスクール	6月15日(土)	
第2回オープンスクール	7月6日(土)	
Summer festival	7月20日(土)	
夏休み工作教室	7月27日(土)	
第3回オープンスクール	8月3日(土)	
国際交流デー	8月6日(火)	
入試説明会	9月7日(土)	
プレ音楽祭	10月30日(水)	
クリスマスフェスティバル	12月14日(土)	
学祖追悼式	1月30日(木)	
6年生卒業茶会	2月12日(水)	
学習発表会(英語)	3月1日(土)	
卒業式	3月11日(火)	
修了式	3月24日(月)	

<入試関係日程>

入試区分	実施日	備考
第1回選考	11月2日(土)	
第2回選考	1月18日(土)	
編入試験	1月18日(土)	

7) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 学年・クラス等の基本方針

学部学科コース・区分の名称	年度の基本方針の達成状況
学校目標	✓ 学年に応じた支援により、基本的生活習慣や基礎的な学力の定着を図り、向上が見られた。
低学年	✓ 低学年の児童は、基本的生活習慣や学習習慣の定着を中心に学校生活を円滑に行えるように努めた。ほとんどの児童が3分前着席などの時間を守ること、教室などの整理整頓を行うといった日常生活のルールを学び、守れるようになった。また、集団生活でのルールやマナーを守ることが強化し、授業や休憩時間において

	積極的に係活動に取り組むなど、友達と協力する姿が見られるようになった。今後も元気よく学校生活が送れるように支援していきたい。
中学年	✓ 中学年では、学校における基本的生活習慣の確立、基礎学力の定着に注力した。毎日の課題においては、問題を解く過程も重視しながらノートの使い方、調べ学習など学習方法にもアドバイスをしながら進めた。友人関係では言葉が足りないことがトラブルになっていたので、きちんと自分の気持ちを言語化できるような、活動を取り入れたり、道徳で取り組んだりした。今後も高学年に向けて児童会活動や学校行事に責任をもって取り組めるよう、支援していきたい。
高学年	✓ 教科指導において習熟度別指導を取り入れ、児童の理解度に応じた指導を実施。基礎的な学力の定着と応用力の育成において効果が上がるよう取り組んだ。完成年度をむかえ、児童会活動が少しずつ充実し、リーダーとしての役割や責任を意識しながら行動する児童が増えた。特に、企画・運営において意見を出し合い、協力する力が育まれている。運動会などの学校行事において、企画や運営、司会進行などを児童が担うことで、主体的な行動力とリーダー性の育成につながるようにした。

(2) 教育活動

取組の総括	
✓ 英語・ICT・日本文化の三位一体推進で、児童の表現力・論理的思考力・ホスピタリティを育成 ✓ 英語教育では、1、2年生週4コマ、3から6年生は週5コマ体制を確立 ✓ 全学年でCEFR-Jによる到達度評価を開始 ✓ ICT教育では、1人1台端末を用いた協働学習を常態化 ✓ 思考の可視化と学び合いを深化 ✓ 日本文化教育では、茶道を核に礼節教育を充実 ✓ 保護者・公開授業で成果を広く発信 ✓ 放課後学習の深化として、国語・算数・英語に加え、体育的活動やビジョントレーニングを組み合わせた多領域プログラムを編成 ✓ 学力向上のためAIドリルを連動させ、個別最適化した学習サイクルを確立	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 英語教育	✓ 小学1・2年生は週に4時間、3・4・5・6年生は週に5時間、英語の授業を行った。6年生に関しては習熟度別に授業を行った。また、季節に応じたイベントを小学校・中学校合同で行った
(2) ICT教育	✓ 週に1回ITの時間と教科毎にICTを活用した学習を行った。
(3) 日本文化教育	✓ 茶道を通して、礼法・作法を身に付けておもてなしの心を育んだ。
(4) 放課後学習	✓ 国語、算数、英語の学習を行い、体育的活動やビジョントレーニングを組み合わせた多領域プログラムを編成し、学力向上を目指した。
(5) 探究・キャリア教育	✓ 大塚食品㈱・TOPPANホールディングス㈱等と問題解決型学習5件実施。商品化・地域イベント出展を経験し、プレゼンテーション力が向上

(3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

取組の総括	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
該当なし	

(4) 研究活動

取組の総括	
✓ RV-PDCAサイクルに基づいて立案した校内研修計画に沿って、28回の校内研修を行い、研究を推進することができた。教育課程研修では、三本柱に関する研修、生徒理解に関する研修、各種学力調査の分析を行った。ICT研修では、各教科の授業実践を開き合い、ICTの効果的活用について共有し、更なる活用について協議することができた。また、計画的な研修によって、小中一貫校としての学びの在り方について共通理解することができた。このような研修を通して、児童生徒の学力向上、職員間の同僚性の構築も十分に図られたと考える。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 授業公開	✓ 「小中一貫の学び」を広く知らせることを目標に、教育関係者・保護者・本校入学希望者を対象にして実施した。多くの参加者を得たが、本校入学希望者の参加者数を伸ばすことが次年度の課題である。
(2) 共同研究	✓ TOPPANホールディングス㈱とのAIドリルnavimaの実証研究を行い、年間3回の研究推進委員会を開催し、研究を深めた。

(3) 研究発表	✓ JAET 優良校の再認定を受けた。 ✓ 全日本教育工学研究協議会全国大会での実践発表が行えなかった。
(4) 現職研修	✓ 教職員としての資質および指導力向上をねらう研修を計画的に実践した。 ✓ 各学力調査分析を全職員で行い、児童生徒の共通課題を設定、共有し、その改善に努めた。

(5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

取組の総括	
✓ 学年の発達段階に応じた内容でキャリア教育を展開し、自分の良さや役割、将来の働き方について考える機会を設けた。これにより、児童の自己理解や将来への関心は概ね高まったが、個人差も見られ、今後さらなる支援が求められる。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 放課後学習	✓ 国語、算数、英語の学習を行い、学力向上を目指した。
(2) 検定試験対策	✓ 昼休みの時間と放課後学習において、過去問を中心に対策を行った。
(3) 児童会活動の充実	✓ ㈱ファーストリテーリングの服のチカラプロジェクトに参加した。本校だけでなく、保幼小連携で交流を行った保育園や幼稚園に協力を得ることができた。また、5・6年生がそろった活動が初めてだったので、引き継ぎまでの一連の流れを作ることができた。
(4) メンタルサポート	✓ スクールカウンセラー面談 延べ 53 件。

(6) 国際交流・留学生支援活動

取組の総括	
✓ 様々な授業やイベントを通して、海外の文化を学んだ。月に 1 回「ミニ留学」と称して 1 年に 10 か国の紹介ができ、また、食文化の紹介として給食にもその国の料理が提供された。さらに、昨年と同じく、インターンシップ生も受け入れることができ、児童が海外文化を理解するきっかけにもなった。 ✓ イギリスの語学学校と交流協定を締結した。次年度以降、本校特別価格での留学プログラムがスタートする。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 海外学生との交流	✓ 小学 4 年生が長崎短期大学において、留学生と交流をした。アジアを中心に出身国の紹介を聞き、一緒に活動を行った。
(2) 各種イベント	✓ 中学生が企画運営したイベントに参加した。(サマーフェスティバル・ハロウィン・クリスマス)積極的に英語を話す姿も見られた。
(3) 海外インターンシップ生の受入れ	✓ スウェーデンからのインターンシップ生を迎え、授業でのアクティビティのフォローや出身国の紹介をしてもらい、児童と積極的にコミュニケーションをとった。
(4) 短期体験学習生の受入れ	✓ 海外の小学校に通う児童が夏休みを利用して、体験入学を行った。お互いの言語を使い、コミュニケーションをとっていた。他国の小学校の様子を聞いて刺激を受けた様子であった。また、留学生は日本の小学校生活を体験することができた。

(7) 学生募集・広報活動

取組の総括	
✓ 定員充足を達成するために、オープンスクールや入試説明会、幼稚園・保育園等への定期的な訪問に加え、SNS(特に Instagram)の活用や IT(ドローン)体験を実施し、新入生および編入希望者に向けて本校の魅力を発信した。総合学園としての独自で魅力ある教育内容を積極的に紹介することで、私立小中学校ならではの教育環境を効果的に PR することができた。 ✓ さらに、本校パンフレットには代表児童の写真とコメントを掲載し、それと連動するかたちで本人によるコメント動画を Instagram に投稿した結果、多くの再生回数を記録し広く関心を集めることができた。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) オープンスクール	✓ 校内見学・教育内容説明 6 月・7 月・8 月に実施 ✓ 昨年度は 3 回実施した。参加児童数：第 1 回 15 人、第 2 回 24 人、第 3 回 53 人 ✓ 英語、IT、茶道本校 3 本柱体験を実施した。参加人数が多く活発な活動ができた。また、児童が参加したオープンスクールでは流暢な英語で司会進行をし、英語の授業でのサポートもすることができた。
(2) 入試説明会	✓ 入試スケジュール・入試内容の説明を 9 月に実施 ✓ WEB 出願導入初年度であったが、事前準備を十分に行ったことで、紙による出願から WEB 出願への移行を円滑に進めることができた。
(3) 個別相談会	✓ 個別相談会そのものに参加はなかったが、その他の時期に個別に対応した。
(4) 小学校、塾定期訪問	✓ 本校児童生徒募集イベント前に訪問
(5) SNS	✓ Instagram での本校教育内容の発信
(6) IT 体験会&九文マルシェ	✓ マルシェ参加者向けに IT 体験の一環としてドローン操作体験を実施した。 ✓ その他にも約 50 店舗が出店し、来場者は約 2,000 人になった。

(8) 教職員の人材開発

取組の総括	
✓ 今年度も教師に求められる資質能力【①教職に必要な素養②学習指導③生徒指導④特別な配慮や支援を必要とする子供への対応⑤ICTや情報・教育データの利活用】を網羅して研修に取り組んだ。チーム別研修や全体研修など形態を変えながら、研究主任を中心に、同僚性の構築を図り、組織力の向上を意識して計画的に研修に取り組んだ。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 定期的な職員研修	✓ 毎月第1・3水曜日を研修日として設定し、年間28回の校内研修に取り組んだ。
(2) より専門的なICT研修	✓ 今年度も文科省の学校DX戦略アドバイザーでもある福田孝義氏の講義や指導助言を受け、職員の資質向上につなげた。

(9) ステークホルダーとの連携強化

取組の総括	
✓ 産官学連携の拡充で「学び」と魅力発信を両立することができた。 ✓ 企業との連携では、TOPPANホールディングス㈱とAIドリル「navima」実証研究を実施 ✓ 幼保連携では、近隣の幼稚園・保育園と年間8回交流 ✓ 大塚食品株式会社×株式会社エレナ×長崎県との産学官連携事業としてお弁当の開発事業を行った。本事業としては2年目。今年、長崎県が加わり、産学官連携事業へと発展した。企業・行政の方々から学ぶ授業は、実践的で、多様な学習機会のひとつとなった。 ✓ TOPPANホールディングス㈱とのAIドリルnavimaの実証研究は、今年度も年間3回会議をもった。企業・保護者・教員が集ってnavimaについて検証することが出来た。 ✓ 保幼小連携事業では、近隣の保育園・幼稚園と年間8回の交流事業を実施した。本校の教育の特徴を生かした内容で交流した。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) TOPPANホールディングス㈱とのAIドリルnavimaの実証研究	✓ 学力の向上を推進委員会(年3回)で発信し、成果をまとめた教育論文「教育DX時代に求められる新たな学力向上対策の取組～小学校算数科におけるAIドリルを活用した個に応じた学習指導の強化～」が日教弘教育賞(全国表彰)に推薦され、奨励賞を受賞。
(2) 近隣の幼稚園・保育園との連携	✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園や近隣の幼稚園・保育園と交流活動を行った。本校は全学年がそれぞれ交流する機会を設け、英語やIT、その他教科での交流を持つことができた。
(3) みらい坂56(高学年の放課後学習)	✓ 年間180回実施。参加率60%
(4) 九文マルシェ	✓ 参加人数約2,000人

(10) 学園内の連携促進

取組の総括	
✓ 長崎国際大学だけでなく長崎短期大学とも連携することができた。特に接続機関である九州文化学園幼稚園とは保幼小連携での交流以外でも、英語活動など積極的に連携することができた。 ✓ 小学5・6年生を対象にした探求学習「みらい坂」において、今年度は、大学の強化指定部によるスポーツの授業を提供してもらった。参加した児童は、大学生から様々なスポーツの手ほどきを受け、楽しく運動を身近に感じる事が出来ていた。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 連携授業	✓ 保幼小連携での交流だけでなく、英語活動など幼稚園に訪問しての活動や小学校へ来校してもらっての活動など積極的に連携することができた。 ✓ 長崎国際大学との連携による理科授業、長崎短期大学製菓コースとの連携によるお菓子作り体験など豊かな学びの場を提供していただいた。
(2) SDGsに関する連絡協議会	✓ 教員・事務職員から各1人ずつ担当者を選出し、SDGsフェスティバルへの出展内容の検討など計画的に準備を行った。
(3) 他部門との連携促進	✓ 6月1日実施の授業公開では、長崎国際大学や九州文化学園幼稚園の先生方にも参加いただき、本校の小中一貫の学びを肌で感じていただく機会を設けることができた。

(11) SDGsの推進

取組の総括	
✓ SDGsプロジェクト5本を展開した。その成果を「SDGsフェス」で発表予定 ✓ 主な成果として、「届けよう、服のチカラPartⅡ」では、古着15箱を㈱ファーストリテイリング社経由で難民キャンプへ送付した。 ✓ 次年度は、海洋保全学習を新たに計画する。その前段として、アマモの種付けを鹿町で行った。	

項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) SDGs を広めよう！	✓ 17 の目標について調べ、ポスターを制作
(2) 平和について考えよう！	✓ 佐世保空襲記念館見学・佐世保空襲の語り部講話
(3) 人権の花運動	✓ 「SDGs フェス」で展示発表し、植ええ体験を実施予定
(4) 届けよう、服のチカラ”プロジェクト Part II	✓ 古着 15 箱回収・発送完了
(5) 海洋保全学習	✓ 佐世保市水産課と計画

(12) 管理運営と業務・経費効率化

取組の総括	
✓ 4 月当初に事業計画の周知徹底を行い、経費の効率化についても一丸となり取り組むことを確認したことで、無駄な出費は年間を通じて無く、適正な予算執行に努めることができた。加えて、補助金や外部資金の獲得へ向けては、教職員一丸となり取り組むことが出来た。 ✓ スクールバスの運営においては、料金の値上げを実施したことで収支改善が実現した。児童生徒数が増えていく次年度の運行ルートと児童生徒の配置について協議を重ね、現状 5 台のバスで回転させる計画案を立案した。 ✓ 運営委員会、職員会議、週 2 回の朝会を定期的に開催した。教職員が現状を共通理解し物事に当たれるよう努めた。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 中期計画・事業計画の説明	✓ 職員会議や運営委員会において周知徹底した。
(2) 予算執行	✓ 引き続き無駄を省き、適正な予算執行に努めた。 ✓ スクールバス利用料金の値上げを実施したことで、スクールバスに係る費用については赤字幅が縮小した。
(3) 校内会議における情報の共有	✓ 職員会議や運営委員会において計画の進捗状況や本校における課題を共有し、目標の達成に向けて取り組んだ。
(4) 学園内での情報の共有	✓ 責任者連絡会・事務局長会議において、情報の共有に努めた。

(13) 施設・設備・システム等の環境整備

取組の総括	
✓ 木製の扉や机椅子の不具合・破損が進んだ。入学制数も増加したことにより、新たなる机椅子を購入した。その際、耐久性・利便性・費用を考慮して選別した。低学年分から段階的に入れ替えを計画する。 ✓ 技術室・家庭科室前廊下にシロアリ被害が確認された。来春、業者を入れ駆除する計画 ✓ 業務の効率化を図るべく新校務システム導入を決め、移行準備を計画的に行った。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 安全点検の実施	✓ 毎月の安全点検を確実に実施し、その結果をもとに施設維持に努めた。
(2) 教室数の確保	✓ 効果的な学びとして習熟度別学習を行う際の教室が足りておらず、引き続きの課題である。
(3) 新校務システム移行	✓ 新校務システム移行に向け、二者面談等による保護者への周知、欠席連絡の新システムへの移行・連絡メールの移行と段階を追って取り入れることで、保護者の大きな混乱もなくスムーズに移行することができた。

(14) 点検評価

取組の総括	
✓ 保護者との更なる連携の強化を目指し、アンケート調査を実施した。また、結果を運営委員会で共有し、次年度の教育活動に生かすための手立てを検討した。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学校評価	✓ 学校評価では、小学校の総合評価は 3.4 だった。「子どもを本校に入学させてよかった」の項目に関しては、3.7 となっており、令和 5(2023)年度より 0.2 ポイント上昇し、高い評価を得ることができた。

(15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

取組の総括	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
該当なし	

6.認定こども園九州文化学園幼稚園

1) 経営理念・経営目標

経営理念	園児ひとりひとりを大切にし、質の高い保育・教育を行う。
経営目標	強い身体と豊かな心を持つ子どもを育てるために保育者のスキルアップに努め、保護者から選ばれる園であり続ける。

2) 1 年間の総括と評価

✓	全市的に少子化に伴い園児数が減少する傾向にある中に、安定的な園経営を目指すため①園児の安定的確保、②園児数に見合った職員組織の編成の 2 つを本園における事業計画の柱とした。①については佐世保私立幼稚園協会も一日体験入園の案内を新聞折り込みから情報サイトへ切り替え、本園で実施した一日入園参加者アンケートから認知度は新聞の 2%から情報サイト 11%にあがり一定数の効果が見られた。在園児保護者への案内プリント配付や募集ポスター掲示依頼の他に、2 月よりInstagramを活用し、給食や日々の活動の様子を鮮度の高い情報を配信した。年度末に実施したインスタに関するアンケートに回答があった保護者の 8 割がインスタを視聴していることがわかった。Instagramを通して未就園児をもつ保護者に本園の魅力や特色を伝えていきたい。園児募集の結果、令和 7(2025)年 4 月 1 日現在で新入園児は前年度より 2 人減、総園児数は 4 人減であり微減に留めることができた。
✓	②については働きやすく働きがいのある職場づくりにおける当事者意識を全職員がもてるよう働きかけてきた。園評価によって明確になった課題を丁寧に解決すると共に、全職員が風通しのよい職場の雰囲気醸成する当事者であることを粘り強く訴え、他者への配慮や尊重が重要であることを共通理解してきた。令和 6(2024)年度の退職者は給食室 1 人、保育士 1 人の計 2 人で例年より少なく主な退職の理由が職場の人間関係が原因ではなかった。長崎短期大学生の実習申込が複数人、長崎短期大学より 2 人の新規採用者があり、園内の人間関係については外部から見ても良い方向に向かっていると見える。職員構成における不確定な要素であった中途退職のリスクが減少したことで、職員組織の編成の見通しがもちやすくなった。
✓	保護者、園児、保育者から選ばれる園を目指す意義を全職員が理解していることで、目的意識が一本化に近づいていることが大きな成果である。

3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

1	成長力の確保	✓ 求められている保育・教育と、本園の現状を客観的に分析する資料とするため毎年園評価を 1 月に実施している。前年度の成果と課題を基盤に令和 6(2024)年度をスタートさせ、令和 7(2025)年 1 月に実施した園評価は令和 7(2025)年度の方角付けと可能な課題は年度内に対策を講じた。改善については全職員の園経営への参画意識が重要であることを常に説明してきた。必要に応じた改善や改革を、主体的に進めることができるリーダーおよびリーダー候補育成は年度後半から具体的に進めることができた。
2	教育力の向上	✓ 職員の希望に応じた研修参加が十分ではなかったという評価結果があり現状に応じたシステムの構築が必要である。経験や役割に応じたキャリアアップ研修については、担当より計画的に提案し、個々の必要性に応じて履修している。日々の保育・教育の質を高めるため、特別支援教育について長崎短期大学の白蝶講座を活用し講師派遣による実践的な研修を実施することができた。これも、担当者の参加後に伝達研修を行う形で、参加者が限られていた。集合研修によらない方法と全園児の降園後に集合研修を設定するなどハイブリッドでシステムを構築する必要がある。
3	約定返済の確実な履行	✓ これまで提供している子育て支援(スクールバス送迎、預かり保育、未就園児親子教室)や諸活動においては、スクールバスのコースと便数の見直しに着手し、今までの 3 コース、2 便を 3 コース、1 便にする準備を整えた。預かり保育希望者の増加に対応するため、保育体制の見直しを図り、乳児部、幼児部合同でのシフト設定の計画を進めた。給食の経費については、効率化の努力を超えた物価高騰となり、給食費値上げについて具体的な検討段階であることを確認した。

4) 経営改善(健全化)に関する成果

1	収入の増加	✓ 園児数について令和 6(2024)年 4 月 1 日現在の比較で、前年度より 14 人増の 218 人でスタートし、中途退園もありながら年間を通した丁寧な園児募集活動によって 3 月末現在で 13 人増の 231 人となった。大幅な増員ではないが、少子化で子どもたちの数が減少している中に、微増で年度を終わることができた。10 月からの園児募集については、4 月 1 日現在同時期での比較で次年度のスタートは 4 人減の 214 人の予定である。卒園児数、中途退園児数など年度によって予測できない要素があるが、これからも園児の安定確保のため努力していきたい。 ✓ 園児募集の強化を図るため、令和 7(2025)年 2 月よりInstagramによって給食と日々の活動の様子を発信している。未就園児家庭に園の様子や特色をお伝えすることをねらいとし、園児募集のきっかけになることを期待している。
---	-------	---

2	支出の効率化	職員組織に応じた園児数の安定確保が理想であるが、園児数に応じた職員配置基準や、教室数の関係で、年度途中の新たな園児募集ができない学年があった。年度途中の職員採用が大変難しい状況であるため、職員組織の変動率は小さい。また、園児数についても少子化の影響から大幅な増員は期待できないため予算についても物価高騰による不確定要素を除けば例年通りであった。園児数に応じた補助金で運営しているため、園児の安定確保は必須であり、SNS の活用によって園児募集の強化を図った。3 歳児からの入園が減少傾向にあるため、乳児の段階から園児を獲得する方向性にシフトして数年経過した。
3	人員・業務の効率化	- 行事を精選し、1 つ 1 つの行事の精度を上げ、子どもに向き合う保育者のゆとりを生むことで、保育・教育の質を高めることを目指した。例年 7 月末に実施していた幼児部における家庭訪問を取りやめ、園内における保護者面談に切り替え、その面談における情報交換によって、例年紙面で各家庭へお伝えしていた 1 学期の子どもの様子を発行しないこととした。 - 園内 LAN 整備によって、USB の活用を中止し、ハードディスクにデータを保管することで、情報の共有及び整理を進めた。
4	付加価値向上と広報強化	年度初めにテレビ佐世保に対して、年間の行事予定を知らせ、取材を積極的に受け入れている。YOSAKOI 佐世保祭り、九文少英語交流会、10 月誕生会、ハロウィンパーティー、交通安全パレード、ふれあいコンサートの取材がありテレビ放映があった。SNS(Instagram)を令和 7(2025)年 2 月より活用し、給食や子どもたちの活動や園生活の様子を発信している。年度末に行った Instagram についての保護者アンケート結果では、8 割の保護者が見ているとの回答があり、楽しみにしているとのコメントも多かった。

5) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	- 職員連絡会や職員会議・面談等の機会を利用し、職種や正規・パートの違いを超えて互いを尊重し、協力して専念する意識を高めるため、連絡事項や研修資料等、全職員を対象として配信した。 - 毎週必ず連絡会の時間を設け、伝達事項の漏れがないよう努めるとともに、毎学期・行事後には振り返りの時間を設け、園児・保護者に対してよりよい保育・教育を提供できるよう努め、課題や成果を明確にし、次の学期や年度に生かせるよう整理した。 - 九州文化学園高等学校、長崎短期大学、長崎国際大学からの教育実習やインターシップの受け入れを行った。実習生やインターンシップ生に対して、全職員が後輩を育てるという視点を持ち、実践的、具体的にわかりやすく指導するとともに、自己の保育や教育の姿を見せると共に、保育者自身にとっても自己研鑽の機会と捉え自らの資質の向上に努めた。さらに、学生数の減少傾向についても共通理解し、採用に向けた太いパイプづくりの一環であることも理解させた。 - 建学の精神を体現する茶道文化について、教職員はその理念や意義を十分に理解して尊重し、関連する行事・活動にも参加・協力した。また、園児にとっても茶道は、他の園にない情操教育の推進に寄与するものであるため、長崎短期大学より講師を派遣いただき、お茶ごっこの充実を図った。
戦略Ⅱ	- 認定こども園として、0 歳児から小学校就学前までの一貫保育・教育を展開するため、新指導要領に示された小学校就学までに育てたい 10 の姿勢を基本とした保育・教育の連続性のあるカリキュラムの編成に取り組むこととし、年間カリキュラムの中に茶道・英語活動・運動遊びの位置づけを図り、情操教育、英語教育、体育・健康教育の推進を図った。 - 年長児については小学校入学に向け次のステップを知る機会と捉え、学園内の小学校教員による英語のレッスンを実施し、慣れ親しむ機会を設けた。九州文化学園小学校の生徒と交流する機会には保護者が参観できる機会を設け、多くの参観者があった。 - 専門講師による体育指導や外遊びを奨励し、体育・健康教育の推進を図り、本園の特色の 1 つとした。 - 就学に向けて安心感や期待感を持てるよう一人一人の成長を理解し、きめ細かな指導・支援を行った。
戦略Ⅲ	- 園外保育の推進を図るため、地域を知ること、マナー・モラル・安全教育の充実を図った。子どもたちの安心・安全を最大限に考慮し、園児が地域行事に参加することにより町内会や知己の方々との繋がりを深める。また、老人ホーム訪問による交流はできなかったが、敬老のハガキをお送りし、手紙による交流を図った。 - 英語教育の推進として、専門講師による英語遊びや九文小学校と交流活動を継続して実施した。
戦略Ⅳ	- 活動の様子をホームページに加えて SNS(Instagram)を通して発信した。 - 安心・安全メールによる資料配付(ペーパーレス化)への移行をさらに進め、保護者記載のアンケート等を除きほぼデータ化が定着した。さらに、簡易的なアンケートについてはグーグルフォームを活用する傾向が強くなった。そのグーグルフォームを活用したアンケート等の実施による意見収集と集計によって事務作業の効率化が図れた。その結果を迅速に保護者等へ還元できるようになった。 - グーグルサイトを活用して保護者の要望に応じた欠席状況の広報を平日については毎日行い、欠席状

	況に対する問い合わせや要望がなくなった。 ✓ 園内 LAN 構築による業務の効率化とセキュリティ向上および ICT 化に向けた基盤を整備し、次の段階の準備を整えた。
戦略 V	✓ 園行事や日頃の活動の様子をホームページ等で保護者や地域に広報することができた。 ✓ 認知度向上をねらいとした地域行事等への積極的な参加によるマーチングやよさこい踊りなどを披露することができた。 ✓ 幼児部の保護者を集めた行事や懇談会等で、九州文化学園小学校職員による学校紹介・入学説明会の時間を確保してきた。また、ポスターや案内など優先的に配付・配信した。
戦略 VI	✓ 長崎短期大学・長崎国際大学教員による本園職員への研修、保護者向けの講演会を開催した。 ✓ 長崎短期大学・長崎国際大学の研究・調査へ協力し、連携を図ることができた。 ✓ 九州文化学園高等学校・長崎短期大学・長崎国際大学からの実習生を受け入れ、歯科衛生士学院などの学生の受け入れによる連携促進を行った。お茶ごっこの保護者参観によって園の特色についての理解促進を図ることができた。 ✓ 九州文化学園小学校と年長児・年中児の交流を進め異年齢児との交流を深めた。園の英語レッスンを九州文化学園小学校職員に依頼し、校種を超えた職員交流を図ることができた。幼稚園又は小学校におけるそれらの交流の様子を園保護者にも公開することで、学内進学に対する興味・関心を高めるよう努力した。 ✓ 養成機関としての長崎短期大学と密接に連携し、職員の資質向上を図るよう努めた。令和 3(2021)年度に始まった長崎短期大学との連絡協議会は担当者の異動により一時中断しているが、双方向にとってメリットとなる連携の在り方について研究・協議する必要性については両者で共通理解できた。
学園内の連携促進	✓ 長崎短期大学・長崎国際大学教員による本園職員への研修、保護者向けの講演会を開催することができた。 ✓ 長崎短期大学・長崎国際大学の研究・調査へ協力し、連携を深めることができた。 ✓ 九州文化学園高等学校・長崎短期大学・長崎国際大学からの実習生の受け入れ、歯科衛生士学院などの学生を受け入れることで、園児のみならず学生にとっての学びの場とできるよう連携促進を図った。 ✓ 九州文化学園小学校と年長児・年中児の交流を進め異年齢児との交流を深めた。園の英語レッスンを九州文化学園小学校職員に依頼し、校種を超えた職員交流を図った。幼稚園又は小学校におけるそれらの交流の様子を園保護者にも公開することで、学内進学に対する興味・関心を高めるよう努力した。 ✓ 養成機関としての長崎短期大学と密接に連携し、職員の資質向上を図っている。令和 3(2021)年度に始まった長崎短期大学との連絡協議会は担当者の異動により一時中断しているが、双方向にとってメリットとなる連携の在り方について研究・協議する必要性については両者で共通理解できた。 ✓ 幼児部の保護者を集めた行事や懇談会等で、九州文化学園小学校職員による学校紹介・入学説明会の時間を確保するよう努めた。
付帯計画と課題	✓ 園の経営上、早朝勤務や居残り勤務など時間的制約を有することから、正規職員ならびにパート職員の確保方法について検討しているが、待遇や労働条件などさらに検討する必要がある。 ✓ 求人採用した職員が定着するように、その職務内容を整理しわかりやすく伝達すると共に、働き甲斐があり、働きやすく、長く働ける職場環境づくりに全職員が当事者意識をもって勤務した結果、例年と比較して退職者が減少した。

6) 主要情報

(1) 卒園者数

【卒園者数】

区分	人数	
1 年課程修了	1 人	
2 年課程修了	7 人	
3 年課程修了	17 人	
4 年課程修了	10 人	
5 年課程修了	13 人	
6 年課程修了	5 人	
総計	53 人	
卒園者の累計	6,325 人	

(2) 主な行事等の開催実績

行事等人	実施日・期間等	備考
入園式	4 月 11 日(木)	
幼児部 歓迎遠足	4 月 23 日(火)	森きらら(幼児部全体で実施)
幼児部 保育参観	5 月 11 日(土)	

乳児部 はじめて参観日	5 月 25 日(土)	
幼児部 はみがき教室	6 月 4 日(火)	歯科衛生士学院 1,2 年生来園
幼児部 ファミリーのつどい	6 月 8 日(土)	
乳児部 こっそり参観 WEEK	7 月 8 日(月)~12 日(金)	
年中お泊り保育・年長お泊りキャンプ	8 月 30 日(金)~31 日(土)	台風 10 号の影響を受けて中止
幼児部 キッズフェスティバル	9 月 9 日(土)	
乳児部 運動会	9 月 28 日(土)	計画通り園庭で実施
幼児部 運動会	10 月 13 日(日)	計画通り園庭で実施
1 日入園(入園募集)	10 月 17 日(木)	41 世帯、46 人が参加
YOSAKOI させば祭り参加	10 月 18 日(金)	年長マーチング、年中よさこい踊り
ハロウィンパーティー	10 月 31 日(木)	
交通安全パレード	11 月 29 日(金)	年長マーチング参加
ふれあいコンサート	12 月 8 日(日)	アルカス SASEBO 大ホール
乳児部 お遊戯会	12 月 14 日(土)	プレイルームで実施
幼児部 お遊戯会	2 月 9 日(日)	プレイルームで実施
一日体験入園	2 月 13 日(木)	入園説明会及び体験入園
乳児部 親子お楽しみ会	2 月 22 日(土)	
卒園式	3 月 15 日(土)	第 76 回卒園式 53 人卒園

7) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 学年・クラス等の基本方針

学部学科コース・区分の名称	年度の基本方針の達成状況
乳児部	✓ 十分に養護の行き届いた中で情緒を安定させて心身の調和的な発達を図るとともに健康安全などの日常生活に必要な基本的な習慣や態度を養うよう努めた。
幼児部	✓ 自由遊びと課題の活動をバランスよく取り入れたカリキュラムを編成し、指導計画のもと豊かな体験を通して小学校就学までに自立性・協同性・表現力・思考力・道徳性を培い数量や図形や文字などへの関心を高めることができた。

(2) 教育活動

取組の総括	
✓ 個人差や多様性に配慮する必要性が年々高まる傾向にあり、実際、個々に困り感をもっている園児の割合は高まり、経験的には学級の 2 割程度だと感じている。園経営理念の通り、園児一人一人を大切にしたい教育・保育の内容や展開を常に工夫するよう努力した。園の教育活動は、園選択に関わる大きな要因の 1 つであるため、保護者が求める教育活動を園評価等で把握するよう努めた。外部に対して本園を紹介する機会や募集活動時を中心に、本園の特色や魅力を整理している。 ✓ その 1 つとして、幼保連携型認定こども園として保育と教育の連続性を生かした一貫教育を強化するため、乳児部、幼児部の連携の強化を計画している。物的環境も大きな要因の 1 つであるため、安全で快適な環境を保持するため、施設・設備について計画的に改修等を行っている。	
項目人・取組人	取組の実績・成果・課題
(1) 一人一人を大切にしたい教育・保育	✓ 個に応じたきめ細かな保育・教育を実践するため、全職員で人権教育、特別支援教育にかかわる研修を深め、支援や指導にかかわる理解と実践力を高めた。特に特別支援教育にかかわるスキルアップを図るため、長崎短期大学の白蝶講座を活用し講師招聘研修を実施した。
(2) 特色の明確化	✓ 外部評価等を活用し、本園の特色を明確にすると共に、他の活動との関連性やバランスを考慮し、1 つ 1 つの活動や、行事の精度を上げ、ゆとりをもって取り組むことができるよう、次年度に向けて行事や活動等を精選することができた。
(3) 一貫教育の連続性強化	✓ 教育理念等をもとに、カリキュラム等の系統性・関連性・整合性を見直し、幼児部においては自由遊びと課題の活動をバランスよく取り入れたカリキュラムを編成するよう努めた。さらに、乳児部から幼児部への移行を滑らかにするため、進級を見通した活動を順次取り入れてきた。
(4) 施設・設備の改修	✓ 大規模、中規模、小規模改修についての年次計画の策定および、必要な備品購入についての年次計画を策定することが大切なことを再確認した。

(3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

取組の総括
✓ 幼稚園においては安定的に園児を確保できる定員構成を重視し、3 歳児の未就園児が減少している状況においては、乳児の段階での園児確保に重点を置いてきた。そのため年間を通して入園希望に対応できるよう乳児部の職員配置にゆとりを持たせ 1 年間で 10 人程度の増員を果たせた。

✓ 2 年前に今後の安定的な園児確保のため、利用定員総数は変更せず、1 号認定の利用定員を減じ、2 号、3 号認定定員を増員を行ったが、保護者のニーズや就労の状況より、今後その内訳について見直しを図る必要がある。	
項目人・取組人	取組の実績・成果・課題
(1) 年齢による進級	✓ 乳児部においては入園希望が大幅に増加した場合、満年齢によって進級させ、定員の少ない 0 歳児、1 歳児の入園枠を随時空けて入園希望に対応できる体制を整えていた。

(4) 研究活動

取組の総括	
✓ 経営理念の達成のためには、質の高い保育・教育が不可欠であり、経営目標の達成のためには保育者のスキルアップを持続させ、保護者から選ばれる園であり続けるよう努力した。 ✓ 研修は保護者並びに地域社会において求められる認定こども園であるために、今日的課題についての研究と、質の高い保育・教育を提供するために、職員が段階的に成長できるキャリアアップにかかわる研修内容およびプログラムの整理を行い計画的に取り組めるよう個別に支援した。 ✓ 長崎国際大学、松尾嘉代子先生による「幼児期における塩育評価指標としての尿中 Na/K 比の有用に関する研究」における研究・調査について昨年度に引き続き協力した。さらに、長崎短期大学、中尾健一郎先生による「幼児期における運動能力の推移についての研究」に対しても、年長園児、保護者、担任の協力を得て調査やアンケートを実施し、本園の課題が運動能力における 2 極化傾向にあることが明確になった。	
項目人・取組人	取組の実績・成果・課題
(1) 教育・保育の基本方針についての理解	✓ 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領に立ち返り、教育・保育の基本方針をこれまでの教育実践もとに読み返すことで、基本方針についての理解を深めた。また、関連する資料等を配付し、職員間で共有した。
(2) 各種ガイドライン解説についての理解	✓ 保育に関する基本的なガイドライン解説に関する研修を行い、自らの保育・教育を振り返り、解釈や理解の相違について気づき、改善する機会を設けるよう努力した。
(3) これからの保育についての理解	✓ こども家庭庁の施策や、少子化対策など、新たな保育の方向性や、保育施設にもとめられている姿や役割を資料等を通して理解できるよう努めた。
(4) 配慮を必要とする子どもと保護者の支援についての理解	✓ 安全に対する配慮が特別に必要な園児の進級に向けて、特別な支援を必要とする子どもや保護者への対応方法についての理解を深めるよう努めた。

(5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

取組の総括	
✓ 九州文化学園小学校への内部進学促進のため、小学校の特色や魅力発信に協力し、年長園児の懇談時には進学先を確認すると共に、問い合わせや質問に幼児部担任も対応できるよう説明用資料を準備した。さらに、小学校の施設・設備、教育活動の様子を見学する機会を園児と小学生の交流活動の機会を利用して設けた。 ✓ 預かり保育のニーズが年々高まる状況へ対応するため、遊具や玩具など年次経過を策定しながら整え、安心・安全な環境を整備すると共に、預かり専任となる正規職員を担当者とした。さらに、現職員組織で預かり保育を必用とする園児増員に対応するため、幼児部だけではなく、乳児部も含めた職員配置を計画することができた。	
項目人・取組人	取組の実績・成果・課題
(1) 九州文化学園小学校への内部進学促進	✓ 九州文化学園小学校へ通学しているきょうだい園児以外の保護者に対して、進学する小学校として選択肢に入るよう、九文小学校の特色や情報に触れる機会を九文小学校と連携しながら効果的に設定していく。
(2) 遊具や玩具などの整備	✓ 遊具や玩具の整備について年次計画を策定する必要性を確認した。
(3) 預かり専任担当者の確保	✓ 預かり専任担当者となる保育パート職員を採用することが困難であったため、現職員組織内で対応できるよう、乳児部と幼児部が連携した職員配置を計画した。

(6) 国際交流・留学生支援活動

取組の総括	
✓ 外国籍園児の受け入れはこれまでの経験を生かし連絡等の徹底を図るため、両親が外国籍の場合は通訳者の契約、日本の携帯電話契約、G.I.BILL.PAY SERVICES INC.との契約を入園の条件に加えている。また、ベース関係者においてはコマンドの申告を課した上で入園を許可することで、職場への連絡がスムーズになった。外国籍保護者の紹介やベースに近い立地から一定数、外国籍園児が在籍している。	
項目人・取組人	取組の実績・成果・課題
(1) 外国籍園児の受け入れ	✓ 複数年在籍する可能性の高い園児を優先させながら外国籍園児を受け入れている。

(7) 学生募集・広報活動

取組の総括	
✓ 定員 270 人に対する充足率は令和 4(2022)年度 2 月において 84%、令和 5(2023)年度のスタート時は 76%、令和 6(2024)年度のスタート時は 81%であった。年度全期間を通した募集活動継続によって、令和 6(2024)年度末においては目指していた 85%に達することができた。	

✓ 認知度向上のため、マスコミの取材等へは積極的に対応し、10月においてテレビ佐世保より複数回の取材があり活動の様子を放映いただいた。2月よりSNS(Instagram)による発信を開始し、給食、行事、日頃の活動等を鮮度を保ちながら発信した。年度末のアンケートにおいて回答者の8割がInstagramを見ていることがわかった。内容についての保護者の要望を確認しながら、未就園児をもつ保護者に対しても魅力ある内容を発信できるよう努力していきたい。	
項目人・取組人	取組の実績・成果・課題
(1) 報道依頼	✓ 年度初めに、テレビ佐世保に対して園の年間行事予定表を添付した報道依頼を行い、可能な限り積極的に取材を受け入れた。その結果、園児募集が本格的になる秋、10月にはYOSAKOIささば祭り、九州文化学園小学校との英語交流活動、誕生日会、ハロウィンパーティー、交通安全パレード、ふれあいコンサート取材・放映いただき、本園の活動の様子や特色を周知することができた。
(2) 1日入園体験の内容充実	✓ 園の施設や保育・教育環境を実際に知る機会として、見学者に本園の特色や魅力についての理解を促す、説明、体験活動を設定した。特色ある活動として年長のマーチング、年中のよさこい踊りを園庭で披露し、子どもたちが生き生きと活動する様子を実際に見学頂いた。また、幼児部各教室では未就園児とのふれあい交流できるブースを設置し、施設見学を兼ねて教室を巡っていただくことができた。
(3) 未就園児体験教室・園庭解放・教育相談の充実とPR	✓ 未就園児体験活動(こどもの城)を継続し、未就園児家庭へ本園の魅力や環境を周知する機会とした。10月に主担当者が退職し、主幹教諭が代行したが、栄養士や外部体育講師などの協力を得て教室を運営することができた。さらに、次年度に向けて音楽、健康、給食についての教室が開催できるよう準備することができた。
(4) 園ホームページおよび園便り等による園活動の広報と園児募集の周知	✓ 入園を検討する家庭に対しても必要な情報が効果的に伝わるよう、園ホームページの入園にかかわる内容を充実させた。在園保護者に対して、園の魅力や特色ある活動によって子どもたちが成長する姿を園だよりを通して伝え、満足度を高めるよう努力した。さらに、園児募集協力依頼(知り合いへの広報、募集ポスター掲示)を行った。
(5) 地域等への広報活動	✓ マーチングではYOSAKOIささば祭り、交通安全パレードなど地域行事や催しに積極的に参加し園児の生き生きとした姿を通して本園をPRすることができた。
(6) 募集活動の推進	✓ 年間を通した募集活動(幼稚園バス、園ホームページ)に加えて、園児募集時期においては園ホームページを充実させた。2月よりSNS(Instagram)を活用して広く広報活動を行い、給食、行事、子どもたちの様子を発信し、ホームページへ導くようシステムを整えた。

(8) 教職員の人材開発

取組の総括	
✓ 選ばれる魅力的な園であるための基盤は、園児一人一人を大切にし、質の高い保育、教育を継続することである。その保育・教育の直接的な担い手となる教職員の資質向上は園経営において最重要課題である。保育・教育に携わる者として専門性と資質、人間性の向上に努めさせるよう指導・支援を粘り強く継続した。さらに、経験年数やその役割等キャリアに応じたキャリアアップ研修に取り組ませた。保育施設の特性として集合研修が難しい勤務形態であるため、研修資料を適宜配付し、個人研修の材料とした。また、令和5(2023)年度より実施している全職員との個人面談を継続して行い、個に応じた支援を行った。また、その結果を園内であるが人事異動は研修のチャンスとなるよう、新しい役割・担当・組み合わせの資料とした。	
項目人・取組人	取組の実績・成果・課題
(1) 園内研修の実践	✓ 乳児部、幼児部それぞれにおいて、指導の研究および公開研究保育を行い指導方法の研究を深めた。さらに、教育実習においては対象の生徒、学生に対して実践的、具体的な指導や助言を与える立場として自己研鑽に努めさせるよう指導した。指導的な立場であることが、率先垂範の態度に繋がると共に、指導に際して意欲を引き出すスキル向上になっている。
(2) 園外研修への参加	✓ 市幼稚園協会主催の保育・教育に関わる研修や、県・市幼児教育センター主催の保幼小連携に関わる研修の機会を活用し、外部から本園を捉えたり、他園、他校種と比較したりすることにより、保育、教育における視野を広げると共に研究を深めさせた。
(3) 個人研修の推奨	✓ キャリアや役割に応じて必要とする研修に自ら取り組む。さらに、人権擁護セルフチェックなど、教職員として求められる道徳性や人間性など資質向上を図った。さらに今日的課題に対して敏感に反応し、関連する資料を読んだり、調べたりするなど学び続ける教職員としての姿勢を具現化できるよう、随時資料等を提供した。
(4) 他施設の訪問	✓ 新規採用職員として本園での勤務をスタートさせた職員が10人以上在籍し、判断の基準が本園での経験が中心となるため、他施設を訪問できる機会を逃さず、他施設の保育・教育環境や内容について知ることで、発想の幅を広げさせるよう努力し

	た。市内未就園児教室を訪問した際にも、その環境づくりやシステムなど先進的な方法に触れ、刺激を得ていた。
(5) 個人面談の継続	✓ 意向調査をもとに、全職員と個人面談を行い、業務に対する悩みや不安、やりがい等を知るとともに、将来的に必要なスキルや資質等について話し合い適切な支援を行った。本園のシステムや組織の在り方などについての意見に耳を傾け、働きがいがあり、働きやすい職場づくりの参考にした。
(6) 茶道への取り組み	✓ 建学の精神を体現する茶道文化について、その理念や意義を十分に理解して尊重し、関連する行事・活動へ積極的に参加した。

(9) ステークホルダーとの連携強化

取組の総括	
✓ YOSAKOI させば祭り、交通安全パレード、公民館祭りなど地域の催し物に積極的に参加し、子どもたちの成長や活躍を披露する機会とした。保幼小連携活動においては久保小学校と連携し異年齢交流を深めると共に、進学に対する不安を払拭し、小学校生活への期待を増大させるよう実施した。父母の会との連携については、共働きが増加している現状に合わせ、負担軽減のために組織や活動内容のスリム化について支援し、無理のない連携によってよりよい関係づくりに尽力した。さらに、保護者の声や意見を募る機会を Google フォームを活用して設けたことで保護者の考えを園経営に反映させることができるようになり、保護者との連携強化に繋がった。	
項目人・取組人	取組の実績・成果・課題
(1) 同窓会(卒業生)との連携	✓ 現段階では卒園生にかかわる同窓会等の組織は存在しないため、その必要性やあり方等について検討し、80 周年記念事業において卒園生を対象とした活動ができないか模索している。
(2) 地域行事への参加	✓ 清水地区公民館祭りでの作品掲示や YOSAKOI 佐世保祭り、交通安全パレードなど地域の行事や活動への参加によって、子どもたちの成長や活躍を披露し、園の特色や子どもたちの生き生きとした姿を広報する機会とした。
(3) 保幼小連携活動	✓ 九州文化学園小学校および佐世保私立久保小学校との保幼小連携活動によって、異年齢交流を深めると共に、小学校の生活環境や活動などを知ることによって、進学の不安を払拭し、入学への期待を増大させるよう実施した。
(4) 父母の会との連携強化	✓ 父母の会との連携の中で、父母の会活動に対して負担感が増大している声に耳を傾け、時代に合った活動になるよう組織や活動のスリム化を図るよう支援した。

(10) 学園内の連携促進

取組の総括	
✓ 学園内連携は本園の大きな特色であり、他施設との差別化の材料である。学園内との部門間連携の強化を図ることで、本園の行事や活動を充実させ、保育、教育の質を向上させる本園の特色と位置付けている。生徒や学生の実習においては、生徒や学生の来園そのものが本園に活力をもたらし、子どもたちにとってもダイナミックに遊んでもらえる頼もしい存在となっている。従前よりこの連携促進は続けられているが、本園の特色であることを再確認する機会を設けることで、より積極的に推進させると共に、その様子を発信するよう心掛けた。	
項目人・取組人	取組の実績・成果・課題
(1) 長崎国際大学との連携	✓ 健康栄養学科学生による園児への食育指導および学生による YOSAKOI 佐世保祭り参加時の園児引率及び演技についての援助などのボランティア活動。
(2) 長崎短期大学との連携	✓ 共通テーマによる研修と、保育、教育に関わる指導、助言および学生によるボランティア活動と教育実習の受け入れを行った。
(3) 歯科衛生士学院との連携	✓ 園児に対する歯磨き指導を依頼した。
(4) 九州文化学園高等学校との連携	✓ 保育福祉科保育コース及び衛生看護科生徒による教育実習・施設実習およびボランティア活動。
(5) 九州文化学園小中学校との連携	✓ 英語教育および異年齢児とのふれあい交流活動および幼保小連携活動。本園からの内部進学促進。
(6) 長崎短期大学保育学科との連絡協議会	✓ 連絡協議会の継続による連携強化のため連携協議会が設定されたが、担当者の異動等によって開催できなかった。その必要性については本園も長崎短期大学も認識している。
(7) 学園内募集担当者会議	✓ 担当者の異動等によって今年度は開催できなかった。担当者会議の継続による園児募集強化を図る手立てについてのヒントを得ていきたい。
(8) SDGs に関する連絡協議会	✓ 期日や開催方法について協議された結果、令和 7(2025)年度は第 3 回 NAKIRI SDGs FESTIVAL のイベントに参加する準備を担当者を中心に進めた。
(9) 80 周年記念事業	✓ 各 WG に園からも担当者を選出し準備を進めた。

(11) SDGs の推進

取組の総括	
✓ 九州文化学園グループ全体の SDGs に取り組む姿勢や考え方の認知向上を図るため下記のような 5 本の柱で実施	

してきた。学園としての構想をもとにしながら、乳児、幼児に対しても理解することができ、保護者と連携しながら日常的に親子でも取り組める SDGs を推進できるよう努めた。	
項目人・取組人	取組の実績・成果・課題
(1) 乳児、幼児にも取り組める SDGs	✓ 乳児、幼児にも取り組むことが可能で、取り組む意義があり、その目的が感覚的に理解できる内容を精選し、保護者と連携しながら日常的に取り組んだ。取り組みの柱は 5 つで、①献立ボードの活用、②ミツバチの一枚画コンクール、③ペットボトルキャップを集めてワクチンを！、④届けよう服のチカラプロジェクト、⑤廃材の利用である。③のペットボトルキャップ回収は 3 年目となり、子どもたちと保護者に浸透してきた活動である。九州文化学園小学校の児童会より協力依頼があった不用品の回収に対しても多くの保護者の協力が得られた。 ✓ 次年度の計画として、九州文化学園小学校と連携し、栽培活動に利用できる廃材を活用した如雨露を作成し、緑を増やし、緑を大切にする活動に興味をもってもらい機会とできるようペットボトルの回収を保護者へ依頼し準備する計画を立てた。

(12) 管理運営と業務・経費効率化

取組の総括	
✓ 教育理念や教育目標および、具現化の道筋の明確化による共通理解、共通実践ができるよう理解しやすい経営案を年度初めに提案した。集合研修によって対面で説明する機会が十分ではなかったため、理解度については把握できないが、この経営案の内容を視点や資料を変えながら繰り返し説明してきた。また、学期の初めの会、納めの会でも繰り返し、あとから確認できるよう PDF 資料でも示し全員にメール配信している。 ✓ 強い身体と豊かな心を持つ子どもを育てるために保育者のスキルアップに努め、保護者から選ばれる園であり続けるため、教育理念や教育目標および、具現化の道筋を明確に示しながら、共通理解、共通実践を行ってきた。	
項目人・取組人	取組の実績・成果・課題
(1) PDCA 推進計画	✓ 園評価の分析結果によって「成果」と「課題」を明確化し、実践的に効果的な課題解決の具体方策を設定し、具現化の道筋を示しながら徹底を図るよう努力した。 ✓ 第 3 者評価結果を保護者に公表し、園経営における説明責任を果たすとともに、子どもたちの健やかな成長のため連携を強化する共同体として、理解、協力を得るよう努めた。 ✓ 職員組織については副主幹 2 人を設定し、補佐体制の強化・改善を目指すよう計画することができた。
(2) 関係機関等との連携	✓ 園経営にかかわる法令等を順守し、関係機関からの指導や支援を経営に生かすため日頃より情報交換を密に行う関係性を構築するよう努力した。
(3) 健全な財務基盤の構築	✓ 専門家等の調査やアドバイスを活用しながら、計画的・効率的な経費執行による支出管理を遂行できるよう努めた。 ✓ 令和 7 年度教育支援体制整備事業費補助金(緊急環境整備・ICT 化支援)の有効活用に向けて準備している。
(4) 労務管理の改善	✓ 働き甲斐があり、働きやすい職場にするため、職員による自己評価の結果を分析し、職場環境にかかわる課題を整理し、計画的に改善のための手立てを実践した。各自が組織の一員として園経営に参画できるよう個々の意見や考えを園経営に生かしていくよう努めた。 ✓ 預かり園児の増加に伴い、乳児部、幼児部合同の職員配置を構築し、試行しながら改善を重ね、保育・教育の質の向上を図る計画を立てた。

(13) 施設・設備・システム等の環境整備

取組の総括	
✓ 安全な園生活や業務を効率化できる環境の整備が必要である。平成 18(2006)年に現在地に新築移転し 19 年経過した。施設設備の経年劣化が進み、空調設備については 5 年計画で新しい機器と入れ替えを行い令和 8(2026)年度に園児が生活する教室については終了する予定である。その他外壁や屋上、デッキなどについては多額の費用が必要となり年次計画を策定する必要があるが目途は立っていない。安全な園生活のための安全マニュアルも年度毎に見直し、必要に応じて保護者とも共有してきた。安全管理マニュアルの理解を深めるために、行政作成の資料を活用し、適宜、研修を実施することができた。職員の業務を支援する ICT システム導入について具体的に検討することができた。	
項目人・取組人	取組の実績・成果・課題
(1) 施設設備の経年劣化対応	✓ 年次計画の策定と長寿命化計画の策定が必要であることを確認した。
(2) 送迎バスの安全	✓ バス送迎安全マニュアルの見直しを図ることができた。
(3) 安全にかかわる研修	✓ 行政作成の資料を活用し、安全管理マニュアルの理解を深めるため、動画視聴による研修を実施することができた。
(4) 園内 LAN 構築とネットワーク	✓ 職員の業務の効率化とセキュリティ対策向上のため構築された園内 LAN の活用が浸透し、データのやり取りに USB を利用することは稀になった。データ量が増え

	たり、担当者が変わったりしても保存しているデータを効率よく利用できるよう保存方法等について提案してきた。今後、再整理する必要がある。
--	--

(14) 点検評価

取組の総括	
✓ 点検評価活動においては職員の当事者意識の向上による園経営への参画と、保護者の園活動に対する理解と協力の獲得をねらいとしている。 ✓ 園評価(職員による自己評価、全保護者を対象とした保護者評価、学校関係者による学校関係者評価)を継続し、経年による評価結果の比較を行いその変容を表した。職員の自己評価結果については、それぞれが感じる成果と課題について整理し、次年度に向けた方向性を検討する指標とした。評価結果を分析させ、活用させることで点検評価活動の意義を確認するとともに当事者意識を高め、園経営に参画させるよう働きかけた。これらの評価を総合的に分析し、園経営方針において重点課題として明記し、一点突破により取り組みの効果上げるよう計画している。成功体験を実感させることで、PDCA サイクルによる取り組みの意義やよさを全職員に理解させるよう努めた。評価結果については保護者へ周知し、園の活動について理解と協力を得ることができるよう説明責任を果たした。	
項目人・取組人	取組の実績・成果・課題
(1) 自己評価	✓ 解決の具体方策まで検討し改善を具体化する PDCA サイクルを丁寧に行い、その意義やよさを実感できるよう努めた。自己評価結果より課題と成果を明確にする作業を課したことで、当事者意識や園経営の参画意識を醸成した。
(2) 保護者評価	✓ 園の魅力と課題の明確化が図れるよう、意見が募りやすいよう無記名でグーグルフォームを活用した回答を昨年度より行っている。少しずつ回答者も増え(50人→70人)家庭数の4割程度となった。無記名ではあるが意見の内容も批判や不満ばかりに終始するのではなく、建設的な意見が増えている。
(3) 学校関係者評価	✓ 総合的な分析による重点課題の設定を行い、その結果を次年度の園経営に生かせるよう整理することができた。

(15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

取組の総括	
✓ 1号認定園児数の減少に伴い、送迎バス利用者が減少している現状から、将来的なバス運行の在り方について運営費の増加と、利用者の利便性を考慮しながら方向性を整理する必要がある、バス運行コースの見直しを行い便数を2便から1便に減便する計画を立てた。	
項目人・取組人	取組の実績・成果・課題
✓ バス運行の在り方検討	✓ 1号認定園児数の減少に伴い、送迎バス利用者が減少している現状から、将来的なバス運行の在り方について運営費の増加と、利用者の利便性を考慮しながら、方向性を整理する必要がある、まずバス駐車場を各園児の自宅前から複数人が利用できる場所に変更し、運行の利便性を図るよう計画した。将来的には主要道路を中心にしたコースに変更し、運行の効率化を図りたいが、保護者の利便性についても配慮が必要であり、慎重に進めていく計画である。さらに、バス運行をしないことも含めて検討していく必要がある。

7.九州文化学園調理師専門学校

1) 経営理念・経営目標

経営理念	高度な調理技術の習得と社会に貢献できる調理師の育成
経営目標	● 自主・自律を重んじ、積極的で意欲のある学生の育成 ● 地域・社会に貢献できる専門性の高い調理師の育成

2) 1年間の総括と評価

✓	令和6(2024)年度は「輝く未来を切り拓くステージに！」というテーマのもと、「情熱 2024」というスローガンを設けて学校経営を行った。第1は「建学の精神をベースとした教育活動の展開、第2は「自主自立を重んじ積極的で意欲のある人材の育成」、第3は、「地域連携と積極的な情報発信による募集定員の確保」、第4は「留学生受入れ」の4つである。
✓	昨年度から取り組んでいる、高校生料理コンテスト開催、クッキングコンテスト参加など、今年度も継続して実施した。学生だけでなく職員も成長できる機会となった。
✓	学生募集に関しては、22人の志願者があり、8年ぶりに20人を超えた。留学生は2人で、うち1人は長崎日本語学院の卒業生である。社会人3人の入学も8年ぶりだった。九州文化学園高等学校から2人の志願者があり、昨年度の4人に次いで、直近10年では2番目に多かった。

3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

1	成長力の確保	✓ インターンシップ(2年生15日間、1年生7日間)実施 ✓ 集団給食実習年間10回実施(年間543食)
2	教育力の向上	✓ 教職員の研修参加(嚥下調整食研修など)
3	約定返済の確実な履行	✓ 情報発信(ホームページ21回、Instagram137回)

4) 経営改善(健全化)に関する成果

1	収入の増加	✓ 新入生の確保に努めた
2	支出の効率化	✓ 補助支援制度を、わかりやすく、支出の減少となるように見直した
3	人員・業務の効率化	✓ 職員数を1増とし、業務分担を効率化した
4	付加価値向上と広報強化	✓ 学生レストラン年間7回実施(年間400人の来場者)

5) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	✓ 実習講師等の人材発掘をしている ✓ 学校全体で礼儀作法が身についた即戦力となる人材の育成に努めている
戦略Ⅱ	✓ 学生レストランに対する学生の意識も向上している
戦略Ⅲ	✓ 高校生料理コンテストと小学生料理教室の開催 ✓ 地域の行事やクッキングコンテストへの参加 ✓ 社会福祉協議会主催の料理教室や高校への民間講師派遣事業に協力
戦略Ⅳ	✓ 安全点検と点検表記入の徹底 ✓ 昨年は給湯器取り換えと製菓室コールドテーブル取替工事
戦略Ⅴ	✓ HP・Instagram等の積極的な情報発信 ✓ 路線バスのアナウンス広告 ✓ 日本語学院との情報共有と留学生ガイド活用
戦略Ⅵ	✓ 補助支援制度の見直しによる支出減少 ✓ 修学支援制度と学生サポートの適切な処理
学園内の連携促進	✓ 他部門からの講師派遣による充実したカリキュラム ✓ 他部門の行事や調査への積極的な協力 ✓ 内部進学が3人(高校2人、日本語学院1人)は大変ありがたい
付帯計画と課題	✓ 中期計画を反映した事業計画の作成 ✓ 学校関係者評価や始めの会納の会等での意見を取り入れた学校経営を実施

6) 主要情報

(1) 卒業者数、資格等に関する実績

【卒業者数】

課程名	人数	備考
衛生関係専門課程	12人	
総計	12人	
卒業者の累計	2,008人	※ 専修学校時代も含む

【国家資格・免許等の実績】

資格・免許等名	取得者	備考
調理師	12人	2年生12人修了(100%)
介護食士3級	17人	1年生17人受検(100%)
色彩コーディネーター3級	4人	1年生17人受検(24%)
ラッピングコーディネーター	15人	1年生15人受検(100%)
サービス技能検定3級	9人	2年生12人受検(75%)
サービス技能検定2級	9人	2年生11人受検(82%)
カフェクリエイター	12人	2年生12人受検(100%)
食品技術管理専門士	11人	2年生11人受検(100%)

(2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
始業式	4月4日(木)	
入学式	4月5日(金)	
オリエンテーション	4月5日(金)	理事長講話(入学式終了後)
オリエンテーション	4月8日(月)	校長講話等
学生レストラン「メランジェ」①	4月20日(土)	52人
学生レストラン「メランジェ」②	5月18日(土)	49人
第1回オープンキャンパス	6月16日(日)	11人(高校生・社会人7人、保護者4人)
学生レストラン「メランジェ」③	6月24日(土)	41人
第2回オープンキャンパス	7月7日(日)	20人(高校生・社会人9人、保護者11人)
学生レストラン「メランジェ」④	7月20日(土)	57人
第3回オープンキャンパス	7月28日(日)	14人(高校生・社会人8人、保護者6人)
第2回高校生料理コンテスト	8月3日(土)	9人参加
第4回オープンキャンパス	8月18日(日)	10人(高校生・社会人7人、保護者3人)
夏休み小学生料理教室	8月20日(日)	24人参加
研修旅行(関西方面)	9月3日(火)～6日(金)	2年生
第5回オープンキャンパス	9月21日(土)	12人(高校生・社会人8人、保護者4人)
学園祭	10月6日(日)	レストランおよびアウト弁当・スイーツ
松浦魚祭	10月13日(日)	
第6回オープンキャンパス	10月19日(土)	2人(高校生・社会人1人、保護者1人)
南地区コミセン祭	11月10日(日)	弁当・焼き菓子販売
学生レストラン「メランジェ」⑤	11月16日(土)	59人
学生レストラン「メランジェ」⑥	12月14日(土)	67人
創立記念講話	12月15日(金)	
第7回オープンキャンパス	12月21日(土)	10人(高校生・社会人9人、保護者1人)
第8回オープンキャンパス	1月18日(土)	0人(高校生・社会人0人、保護者0人)
学生レストラン「メランジェ」⑦	1月27日(土)	70人
卒業記念食事会	2月15日(土)	保護者23人参加
卒業式	3月5日(水)	
修了式・離任式	3月18日(火)	

<入試関係日程>

入試区分	実施日	備考
推薦入試	10月31日(木)	12人受験(指定校9人・公募3人)
一般(1期)入試	10月31日(木)	2人受験
一般(2期)入試	12月3日(火)	受験なし
一般(3期)入試	2月6日(木)	3人受験
一般(随時)入試		5人受験(社会人3人・留学生2人)

7) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 学年の基本方針

学部学科コース・区分の名称	今年度の基本方針の達成状況
1学年	出席率は、95%

	資格取得については、5)の(1)の通りで色彩検定以外は100%取得できた。 学校・地域行事へ積極的に参加できた。
2 学年	出席率は、97% 資格取得については、5)の(1)の通りで色彩コーディネーターとサービス技能検定 以外は100%取得できた。 学校・地域行事への積極的に参加できた。

(2) 教育活動

取組の総括	
✓ 建学の精神と理念に基づき、社会に貢献しうる調理師の育成を目指し、カリキュラムの充実と学生レストランを年間7回開催するなど調理師としての総合実践力を育成した。調理師免許以外に介護食士3級・色彩コーディネーター・ラッピングコーディネーター・カフェクリエーターなど資格取得が出来るカリキュラムを実施した。 ✓ 外部の教育資源の活用に関して、学生のためになるような情報は、積極的に取り入れ講義や実習に反映することが出来た。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 即戦力強化を意識したカリキュラムの充実	✓ 講師会総会 4月1日(月) ✓ 1年2年生合同テーブルセッティング&テーブルマナー研修 7月4日(木) ✓ HTB ホテルヨーロッパレザンタホール 9月3日(火)～9月6日(金) ✓ 2年生研修旅行(関東) ✓ 佐世保南地区コミセン祭り 弁当販売 11月10日(日) ✓ 佐世保若者活躍フォーラム(2年生参加) 12月4日(水) ✓ 卒業記念食事会 2月15日(土) ✓ 調理2年 サービス接客検定3級 6月8日(土) ✓ 調理2年 サービス接客検定2級 11月9日(土) ✓ 調理1年 色彩検定 11月10日(日) ✓ 1年ラッピングテスト 2月7日(金)
(2) インターンシップの実施	✓ 2年インターンシップ壮行式 8月2日(水) ✓ 2年生インターンシップ(15日間) 8月4日(金)～8月24日(木) ✓ 1年生インターンシップ 3月11日(月)～3月18日(月)
(3) 学生レストラン「メランジェ」の実施	✓ 学生レストラン「メランジェ」 ① 4月20日(土)50人 春かおる御膳 1,000円 33人、彩り春ランチ 800円 17人 ② 5月18日(土)49人 新緑御膳 1,100円 31人、Fresh Green ランチ 1,000円 18人 ③ 7月20日(土)66人 夏さっぱり御膳 1,500円 35人、ルーロー飯ランチ 1,200円 31人 ④ 11月16日(土)59人 実りの秋御膳 1,300円 46人、マシッソヨランチ 1,000円 13人 ⑤ 12月14日(土)67人 クリスマス御膳 1,300円 37人、Happy holiday lunch 1,000円 30人 ⑥ 1月25日(土)80人 冬のあったか御膳 1,300円、春節ランチ 1,300円 計371人 ✓ 学園祭 10月6日(日) 九州うまかもん弁当 1,000円 165食 飲茶 130食・ビビンバ 120食・オムライス 66食 各500円 ガトーショコラ 150組・マドレーヌ 140個・クッキー 100組・パウンドケーキ 224組 ✓ 集団給食実習 ① 4月24日(水)74食 ② 5月22日(水)64食 ③ 6月26日(水) 40食 ④ 7月10日(水)53食 ⑤ 9月27日(金)49食 ⑥ 10月18日(金) 55食 ⑦ 11月22日(金)49食 ⑧ 12月4日(水)48食 ⑨ 1月15日(水) 52食 ⑩ 2月27日(木)59食 計543食 ✓ 卒業記念食事会 保護者23人出席 2月15日(土)
(4) 集団給食実習の実施	✓ 集団給食実習 ① 4月28日(金) 58食 ② 5月26日(金) 44食 ③ 6月16日(金) 56食 ④ 7月12日(水) 61食 ⑤ 9月27日(水) 48食 ⑥ 10月20日(金) 33食 ⑦ 11月22日(水) 56食 ⑧ 12月5日(火) 50食 ⑨ 1月17日(水) 33食 ⑩ 2月14日(水) 30食

(3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

取組の総括	
✓ 過去の入学者数を考慮し、令和7(2025)年度から募集定員を10人減の30人とした。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 募集定員減	✓ 補助金交付にかかる定員充足率を向上させることとなる

(4) 研究活動

取組の総括	
✓ 学園内の研究者から研究に関するアンケートや調査の依頼に関して協力	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 研究活動への協力	✓ 長崎国際大学薬学部セルフメディケーションアンケートへの協力

(5) 学生・生徒・児童・園児の支援活動

取組の総括	
✓ 教育に関する支援は、2)教育活動の取組で、経済的な支援活動は、修学支援新制度と本校独自の学生サポート制度の周知と適切な対応に努めた。さらに就職や学校生活での支援など各関係機関や家庭と連携を取りながら、充実した学生生活を送ることが出来るようにサポートした。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 修学支援新制度	✓ 学生及び保護者への周知と適切な対応 ✓ その他の奨学金についても学生保護者に周知している ✓ マルゼン食みらい創造財団給付型奨学金採用決定 7月12日(金)
(2) 学生サポート制度	✓ 学生及び保護者への周知と適切な対応 ✓ 令和6(2024)年度の利用者は 1年生(通学費補助5人・住宅費補助1人・駐車場代補助2人) 2年生(通学費補助0人・住宅費補助4人・駐車場代補助2人)
(3) 就職支援	✓ ハローワークとの情報交換 5月29日(水) ✓ 講師・卒業生の勤務先との連携 ✓ 求人票など情報提供および面接指導
(4) スクールカウンセラー	✓ 毎週月曜日午後1時にカウンセラーの来校、秘密の遵守 ✓ 生活相談に関しては、随時、生活相談員と連携した早めの対応 ✓ 1年生個人面談週間 5月9日(木)～5月29日(水) ✓ SC向先生の紹介と説明・アンケート 4月15日(月)
(5) 留学生対応	✓ 特定技能試験合格へサポートおよび就職支援 ✓ 卒業生との情報交換
(6) 家庭との連携	✓ 学生レストランへの招待 ✓ 調理1年保護者会 26人出席 6月29日(土) ✓ 卒業記念食事会 23人出席 2月15日(土) ✓ 電話連絡およびプリント配布による情報共有

(6) 国際交流・留学生支援活動

取組の総括	
✓ 学園内の国際交流・留学生支援活動の依頼に対して協力	
項目名・取組名	項目名・取組名
(1) 国際交流・留学生支援への協力	✓ 国際交流・留学生支援への協力

(7) 学生募集・広報活動

取組の総括	
✓ 魅力的で効果的な情報を積極的に発信に努めた。今後は、学生による情報発信も取り入れるなど、高校生のニーズに合わせた情報を発信したい。 ✓ 留学生の募集に関して日本語学院などとの情報交換もできた。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 情報発信	✓ ホームページ打ち合わせ 5月13日(月) ✓ 路線バス(西肥バス)での車内アナウンス継続 ✓ ホームページの更新 21回 ✓ Instagramの更新 137回(フォロワー数307→376) ✓ 県内の新聞社、テレビ局への取材要請

	✓ テレビ佐世保：「専門学校を知らう」 10月3日(木)放送 ✓ 留学生用ガイドブックと関連ホームページの改訂
(2) オープンキャンパス	✓ 案内用ポスターおよびチラシ作製・配布 ✓ 年間8回実施(内容を変えて実施) ✓ 高校生参加者の目標数は年間80人(高校3年生は60人)とされていたが年間50人(高校3年生は30人)の参加となった ✓ 留学生は、オープンキャンパスに5人参加した
(3) 体験入学	✓ 体験入学5校 ① 清峰高校1年生(3人) 6月11日(火) ② 佐世保東翔高校1年生(7人) 6月21日(金) ③ 北松農業高校1年生26人 10月23日(水) ④ 大村城南高校1年生10人 10月23日(水) ⑤ 九州文化学園高校1年生2クラス 3月11日(火)12日(水) ✓ 民間講師派遣事業 ① 北松農業高校3年8人(梶山T・鴨川) 5月29日(水) ② 川棚高校生活総合学科3年22人(梶山T・鴨川) 6月20日(木) ③ 大村高校家政科3年35人(梶山T・鴨川) 6月25日(火) ④ 川棚高校生活総合学科3年22人(神田T・鴨川) 11月5日(火)
(4) 高校生料理コンテスト	✓ 第2回高校生料理教室 8月3日(土) 「フィッシュマスターチャレンジ」高校生8人参加
(5) ガイダンス	✓ 参加するガイダンスの見直しをした ✓ 県専各連主催 進路カフェ ① 長崎県庁1F 7月17日(水) ② JR諫早駅東口 7月18日(木) ③ 大村COTOアーケード 9月4日(水) ④ アルカスSASEBO 9月5日(木) ✓ 長崎県各種学校専修学校主催 進学ガイダンス 10月25日(金) ✓ 留学生用ガイダンス 日本語学院進学説明会 7月10日(水) ✓ 九州文化学園高等学校オープンスクール保護者説明会での本校説明 7月23日(火) 7月24日(水) 8月22日(木)
(6) 高校訪問	✓ 高校訪問 5月14日～5月30日 59校(長崎県49校・佐賀県10校) 内容：新年度挨拶、入学お礼、本校就職状況、OC案内、学生サポート制度、募集要項、在校生ポスター、学費比較、指定校推薦通知書等 ✓ 県内の離島高校へ郵送 13校へ郵送 5月28日 内容：学生サポート制度、本校就職状況、OC案内、募集要項、ポスター ✓ 高校訪問 9月30日(月) 内容：10/25高校教員との意見交換会案内 ✓ 高校訪問 11月6日(水)7日(木) 内容：合格通知および情報交換
(7) 指定校推薦制度	✓ 指定する高校の見直し
(8) 募集要項	✓ 募集要項の見直しおよび減免額の見直し
(9) 民間講師派遣事業	✓ 民間講師派遣事業 ① 北松農業高校3年8人(梶山T・鴨川) 5月29日(水) ② 川棚高校生活総合学科3年22人(梶山T・鴨川) 6月20日(木) ③ 大村高校家政科3年35人(梶山T・鴨川) 6月25日(火) ④ 川棚高校生活総合学科3年22人(神田T・鴨川) 11月5日(火)

(8) 教職員の人材開発

取組の総括	
✓ 建学の精神をベースとした教育活動の展開をするために、九州文化学園基本スタンスを実践に結び付ける意識と日々の研鑽が必要である。そのため、職員は年2回以上の研修会や講習会等に参加し、そこで得た知識や情報を全職員で情報を共有できるように心がけた。また、法人本部人事課など学園内の他部門とも人事に関する情報の共有を図った。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 指導力向上のための研修会	✓ 留学生交流実務担当教員養成プログラム Zoom 4月24日(水) ✓ 食品衛生責任者講習会 7月3日(水)

	✓ 調理師のための嚥下調整食研修	9月18日(水)
	✓ 調理師養成功労者厚生労働大臣表彰(鴨川)	11月27日(水)
(2) 学校運営に関する研修会	✓ 講師会総会	4月1日(土)
	✓ 高等学校教員向け進路ガイダンス(県専各連)	10月25日(金)
	✓ 長崎県専各連理事会・総会(長崎)	6月28日(金)
	✓ 専門学校教職員オンラインセミナー Zoom	2月21日(金)
	✓ 全国調理師養成施設協会九州地区協議会 Zoom	6月26日(水)
(3) 研修会の情報収集	✓ 食に関する企業との情報共有および相互協力体制の強化	
	✓ 学園内の連携による研修会の開催および研修会の情報共有	
	✓ 全国調理師養成施設協会、全国調理職業訓練協会との連携	
(4) 学園内での研修会	✓ 佐世保若者活躍フォーラム	12月4日(水)
(5) 法人本部人事課との情報共有	✓ 法人本部人事課との人事に関する情報の共有	

(9) ステークホルダーとの連携強化

取組の総括		
✓ 地域の行事への積極的に参加することや地域や関連団体および保護者に参加していただく学校行事を企画し開催することで本校を理解していただくようになり、より一層連携強化することが出来ている。今後も以下の取組を継続し、進化させていく。		
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題	
(1) 保護者等家庭との関係性強化	✓ 1年保護者会の実施	6月29日(土)
	✓ 学生レストランへの招待	
	✓ 卒業記念食事会への招待	2月15日(土)
	✓ 電話連絡およびプリント配布による情報共有	
(2) 全日本司厨士協会等との連携	✓ 全国司厨士協会との連携	
	✓ 司厨士協会佐世保支部総会・懇親会	5月20日(月)
	✓ 全国調理師養成施設協会との連携	
	✓ 全国調理職業訓練協会との連携	
(3) 同窓会との連携	✓ 設備の補充および新設への協力体制作り	
	✓ 同窓会連絡網の整備	
	✓ LINE を利用した学生募集などの情報発信	
(4) 地域社会との連携	✓ 民間講師派遣事業	
	① 北松農業高校3年8人(鴨川・梶山)	5月29日(水)
	② 川棚高校生活総合学科3年22人(鴨川・梶山)	6月20日(木)
	③ 大村高校家政科3年35人(鴨川・梶山)	6月25日(火)
	④ 川棚高校生活総合学科3年22人(神田・鴨川)	11月5日(火)
	✓ 氷彫刻用道具一式を中村詔二様から寄贈	6月4日(火)
	✓ 木風小学校2年生 町中探検隊5人+2人来校	6月21日(金)
	✓ 料理本を嘉悦孝子様から寄贈	7月3日(水)
	✓ 日本語学院との協議会「留学生の受入れについて」	8月5日(月)
	✓ 夏休み子ども料理教室	8月20日(火)
	「クッキングキッズアカデミー」参加者24人	
	✓ 学園祭チラシ回覧板依頼(藤原町1組・2組・3組班長へ)	8月31日(土)
	✓ 第2回高校生料理教室	8月3日(土)
	「フィッシュマスターチャレンジ」高校生8人参加	
	✓ 佐世保南地区コミセン祭り	
	✓ 弁当販売	11月10日(日)
	✓ 佐世保若者活躍フォーラム(2年生全員参加)	12月4日(水)
(5) 地域関連企業との連携	✓ 九州電力や電気調理器具の会社の協力による電気調理器具を使用した調理実習	
	✓ ハウステンボスやホテル、県内の調理関係の企業でのインターンシップならびにテーブルセッティングやテーブルマナーの講義の実施	
	✓ 高校生料理コンテストや小学生料理教室などの学校行事の協賛の依頼	

(10) 学園内の連携促進

取組の総括	
✓	学園内の他部門等から案内のあった行事には、積極的に参加する姿勢でのぞんでいる。参加していない職員に対しても情報共有を図った。

✓ 本校の行事に関しても情報を発信し、他部門から協力をしていただいた。		
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題	
(1) 食物分野に関する連絡協議会	✓ 食物分野連携会議 Zoom(鴨川) 6月22日(木)	
(2) 学園責任者連絡会	✓ 本校の現状と今後の計画を他部門に発信し、理解と協力を得る ✓ 学校法人九州文化学園辞令交付式(長崎国際大学) 4月1日(月) ✓ 会計監査(法人本部) 4月1日(月) ✓ 学校法人九州文化学園評議員会(長崎国際大学) ①5月31日(金) ②9月20日(金) ③12月20日(金) ④3月28日(金) ✓ 学園責任者連絡会議 ①4月15日(月) ②7月1日(月) ③9月2日(月) ④11月11日(月) ⑤1月6日(金) ⑥3月3日(月) ✓ 他部門との相互協力体制を図る ✓ 募集担当者会(長崎短期大学) 5月2日(木)	
(3) 学園募集担当者会	✓ 募集担当者会(長崎短期大学) 4月28日(金)	
(4) SDGs 連絡協議会	✓ 年間の行事計画の設定と学生、職員への周知 ✓ 学園 SDGs 担当者会議 Zoom で実施	
(5) 茶道大会	✓ ハイスクール茶会(HTB) 5月18日(土) ✓ 大心茶会(松浦資料博物館) 10月13日(日) ✓ 長崎短期大学白蝶祭お茶席 10月20日(日) ✓ 長崎国際大学開国祭 自明堂 11月3日(日) ✓ 長崎短期大学茶道大会 12月8日(日)	
(6) 九州文化学園高校進路指導	✓ 九州文化学園高等学校オープンスクール保護者説明会での本校紹介 7月23日(火) 7月24日(水) 8月22日(水) ✓ 九州文化学園高等学校3年生キャリアデザインコース 調理実習 7月5日(金) ✓ 九州文化学園高等学校2年生2クラス 体験入学 3月11日(火)12日(水)	
(7) 他部門の行事・調査研究等	✓ 九文キャンパスツアー来校 4月6日(土) ✓ 学園納涼会 7月26日(金) ✓ 他部門から依頼された行事および調査研究への積極的参加と協力	
(8) 歯科衛生士学院との連携	✓ 学園祭の共同開催 10月6日(日) ✓ 歯科1年 調理実習 4月30日(火),1月28日(火) ✓ 歯科2年 調理実習 4月30日(火) ✓ 防災訓練の共同実施 5月8日(水) ✓ 集団給食実習への食事注文協力依頼 ✓ 歯科衛生士学院の行事に関する弁当や菓子の注文依頼	

(11) SDGs の推進

取組の総括		
✓ 職員と学生が地域と連携した SDGs 推進活動を意識し、学生自治会を中心に年間の活動計画を立てて実行し、さらに改善して実行することが出来た。 ✓ 地域の行事へ積極的に参加したり、地域の方々が来校される学校行事を企画し実行するなど、SDGs 推進にも主体的に取組む体制をつくることができた。		
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題	
(1) SDGs 推進の周知と学習	✓ オリエンテーション 校長講話(SDGs 説明等) 4月8日(月)	
(2) 食物ロス減少活動	✓ 実習時に残った食材を利用したレシピの開発	
(3) 地産地消の推進	✓ 地元元食品を利用した調理実習	
(4) 小学生料理教室開催	✓ 夏休み子ども料理教室 8月20日(火) 「クッキングキッズアカデミー」 参加者 24 人	
(5) 高校生料理コンテスト	✓ 第2回高校生料理コンテスト 8月3日(土) 「フィッシュマスターチャレンジ」 高校生 8 人参加	
(6) 地域行事への参加・地域清掃	✓ 佐世保南地区コミセン祭り 11月10日(日) 弁当販売 ✓ 松浦魚祭 10月12日(日) 祭イベントのサポーターとして1年生7人+2年生1人+職員2人	
(7) ペットボトルキャップ回収	✓ 学生自治会を通してペットボトルを回収してワクチンに交換	

(12) 管理運営と業務・経費効率化

取組の総括	
✓ 令和 7(2025)年度から、学生サポート制度の見直しを図り支出を減少させた。修学支援新制度の適切な対応に心がけた。 ✓ ウィルス感染予防対策に関してもこれまでと同様に関係機関と連携しながら対応した。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 予算の適切な執行	✓ 中期計画に則した予算編成と適正な執行と常に支出の見直し ✓ 中期計画に則した予算編成と適正な執行 ✓ 募集定員の確保
(2) 修学支援新制度	✓ 修学支援新制度の適切な対応に心がけた。
(3) 学生サポート制度	✓ 令和 3(2021)年度から導入している。見直しを行ない、来年度からの支出を減少した。
(4) 省エネ推進活動	✓ 節電を心がけた。 ✓ 昨年度の電気料金との比較を行った。
(5) 規則・規程の適切な管理 と運用体制の確認	✓ 年度当初に規則・規程や文書の適切な管理と運用体制の確認を行い、年間を通して見直しおよび確実な整備を行う。 ✓ 学校危機管路マニュアルの確認
(6) 情報セキュリティマネジ メント	✓ 情報資産管理台帳の見直しと整理 ✓ 情報セキュリティポリシーの周知徹底
(7) 学内組織や構成員間の 情報伝達・共有の円滑化	✓ 学内メール便の有効活用に努めた。 ✓ 学内 Gmail での適切な情報データの共有 ✓ 共有フォルダの見直しと整理
(8) ウィルス感染予防対策	✓ 関係機関との連携強化 ✓ ウィルス感染予防の徹底 ✓ 正しい情報の収集と適切な判断・対応・学生の授業実習に支障が出ないようにする。

(13) 施設・設備・システム等の環境整備

取組の総括	
✓ 安全第一主義で施設設備の点検を実施した。異常または不安な箇所が出た場合は、専門業者と連絡をとり早めの対応に心がけた。また急を要しない場合には中長期的に修繕・修理・更新等の計画を立て実行した。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 施設設備の定期点検実施	✓ 毎日の清掃時間における点検の実施 ✓ 1F2F 男子トイレ水洗修理 5月7日(火) ✓ 1F 排水口洗浄 5月13日(月) ✓ 佐世保市生活衛生課による調理実習室と給食質の点検 レストラン営業許可申請のため 6月3日(月) ✓ 消防署立ち入り検査 6月6日(木) ✓ 消化器および非常灯バッテリー交換 6月10日(月) ✓ 貯水槽清掃 異常なし 8月11日(日) ✓ 消防設備点検 異常なし 8月7日(水) ✓ 1F インターホン取替工事 8月5日(月) ✓ 非常灯蛍光灯交換(中央 2 階) 8月21日(水)
(2) ICT 環境整備	✓ Wi-Fi 環境に不具合があったため、令和 7(2025)年度当初に整備できるよう準備を進めた。
(3) 環境美化	✓ 校舎周りの樹木剪定と清掃に心がけた。 ✓ 四季の草花を楽しめる環境づくりに取り組んだ。

(14) 点検評価

取組の総括	
✓ 令和 6(2024)年度事業計画に基づき教育活動および学校運営を展開していく中で、テーマや行事ごとに現状と課題を把握し整理して次の取組までに改善するように努めた。具体的には「いつまで、だれが、どこまで取り組むのか」実施する時期や組織体制を明確にして実行した。学生や職員の自己評価および学校関係者評価委員の評価項目の内容も現状に合ったものであるか検証し、見直して実施した。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学校関係者評価委員会	✓ 第 1 回学校関係者評価委員会 8月22日(木) ✓ 第 2 回学校関係者評価委員会 2月3日(月) ✓ 学校関係者委員会評価の報告(県学事振興課へ) 3月中旬

	✓ 学校関係者委員会評価の公表(HP) 3月中旬 ✓ 令和 6 年度事業報告(法人本部へ) 4月下旬 ✓ 令和 7 年度事業計画(法人本部へ) 3月上旬
(2) 学生自己評価	✓ 自己評価(学生)実施 29人 12月初旬
(3) 職員自己評価	✓ 自己評価(職員)実施 6人 12月中旬
(4) 学事振興課への報告	✓ 令和 6(2024)年度学校評価報告書を 3 月上旬に提出する
(5) ホームページ掲載	✓ 令和 6(2024)年度学校評価結果を 3 月下旬に本校ホームページに掲載し公表
(6) 事業報告と事業計画の作成	✓ 令和 7(2025)年度事業計画書は 3 月初旬、令和 6(2024)年度事業報告書は 4 月下旬に作成する

(15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

取組の総括	
✓ 特になし	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
特になし	特になし

8.九州文化学園歯科衛生士学院

1) 経営理念・経営目標

経営理念	資格取得のための知識と高い技術を養い、社会に貢献しうる人間教育を目指す
経営目標	歯科衛生教育に関連する施設・行政等と連携し、有能な歯科衛生士育成教育を行うため、研修・研究を重ね学生指導に努める

2) 1 年間の総括と評価

✓ 令和 6(2024)年度は「輝く未来を切り拓くステージに！」というテーマのもと、「情熱 2024」というスローガンを設けて学校経営を行った。第 1 は「建学の精神をベースとした教育活動の展開」、第 2 は「歯科医療の向上に寄与できる人材の育成」、第 3 は「地域連携と積極的な情報発信による募集定員の確保」である。
✓ 3 年生の国家試験全員合格に向けて全職員で取り組んだが、結果は 29 人受験して 18 人合格、合格率は全国平均 91.0%に対して本校の合格率は 62.1%にとどまった。昨年度と比較しても 30 ポイント強の低下である。一過性の問題、特定の学年の問題とみなすことなく、学校を上げて指導体制・カリキュラムの改善に取り組む必要がある。

3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

1	成長力の確保	✓ 実習先および実習内容の見直しと新たな実習先の開拓にあたった。 ✓ 教職員・講師に対して講師会総会をはじめ機会あるたびに「建学の精神をベースにした教育活動の展開」の共通理解を図った。
2	教育力の向上	✓ 基礎学力および生活・学習習慣診断テストを実施し、学生の個別指導・成績不振者対策を行った。 ✓ 個人面談を積極的に実施した。他学年との懇談会を実施した。 ✓ 教職員の研修について 1 人 2 回以上は参加し指導力の向上に努めた。
3	約定返済の確実な履行	✓ 令和 5(2023)年度より男子学生受入可の周知を行った。 ✓ 情報発信(ホームページ 17 回、Instagram30 回)

4) 経営改善(健全化)に関する成果

1	収入の増加	✓ 新入生の確保に努めた。
2	支出の効率化	✓ 補助支援制度を、わかりやすく、支出の減少となるように見直した。
3	人員・業務の効率化	✓ 職員間で休暇予定を共有し、効率的な業務に心がけた。
4	付加価値向上と広報強化	✓ 歯科医師会の協力で地元発信型の Youtube で紹介された。

5) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	✓ 学生自治活動も少しずつ充実してきている。 ✓ 職員の研修会や講習会への参加は、1 人 2 回以上の参加はできている。
戦略Ⅱ	✓ 個人面談・保護者面談・他学年との懇談会など積極的に実施している。 ✓ 家庭学習の定着と成績不振者へのサポートを職員全体で取り組んでいる。
戦略Ⅲ	✓ 佐世保市歯科医師会との連携も年々強化できている。 ✓ 臨床実習の受け入れ先を広げることが出来た。
戦略Ⅳ	✓ 必要に応じて Zoom での授業を実施している。 ✓ デジタル教科書や iPad を導入検討を続けた。
戦略Ⅴ	✓ HP・Instagram 等の積極的な情報発信 ✓ 路線バスのアナウンス広告
戦略Ⅵ	✓ 修学支援新制度の適切な処理と学生サポートの改正
学園内の連携促進	✓ 他部門からの講師派遣による充実したカリキュラム ✓ 他部門の行事や調査への積極的な協力
付帯計画と課題	✓ 中期計画を反映した事業計画の作成 ✓ 学校関係者評価や始めの会納の会等での意見を取り入れた学校経営を実施

6) 主要情報

(1) 卒業者数、資格等に関する実績

【卒業者数】

課程名	人数	備考
医療関係専門課程	29 人	
総計	29 人	
卒業者の累計	1,365 人	※ 2 年課程時代を含む。

【国家資格・免許等の実績】

資格・免許等名	取得者	備考
歯科衛生士	18人	29人受験(62%：全国平均 91%)

(2) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
始業式	4月3日(水)	
入学式	4月4日(木)	
オリエンテーション	4月8日(月)	理事長講話(入学式終了後)・校長講話等
第1回オープンキャンパス	6月16日(日)	17人(高校生・社会人12人、保護者5人)
第2回オープンキャンパス	7月7日(日)	9人(高校生・社会6人、保護者3人)
第3回オープンキャンパス	7月28日(日)	26人(高校生・社会人17人、保護者9人)
第4回オープンキャンパス	8月18日(日)	13人(高校生・社会人7人、保護者6人)
第5回オープンキャンパス	9月21日(土)	15人(高校生・社会人9人、保護者6人)
学園祭	10月6日(日)	
研修旅行(関東)	10月9日(水)～11日(金)	
第6回オープンキャンパス	10月19日(土)	3人(高校生・社会人2人、保護者1人)
第7回オープンキャンパス	12月21日(土)	2人(高校生・社会人1人、保護者1人)
戴帽式	12月23日(月)	
第8回オープンキャンパス	1月18日(土)	6人(高校生・社会人3人、保護者3人)
第33回歯科衛生士国家試験	3月2日(日)	29人受験 場所(九州産業大学)
卒業式	3月5日(水)	29人卒業
合格者登校日	3月21日(金)	入学予定者23人
歯科衛生士国家試験合格発表	3月26日(水)	18人合格(29人受験)62%

<入試関係日程>

入試区分	実施日	備考
指定校推薦入試	書類選考	13人受験
公募推薦・学内推薦入試	11月2日(木)	9人受験(公募2人・学内7人)
一般(1期)入試	12月4日(月)	0人受験
一般(2期)入試	2月5日(月)	1人受験
一般(3期)入試	3月6日(水)	0人受験

7) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 学年等の基本方針

学部学科コース・区分の名称	今年度の基本方針の達成状況
1 学年	✓ 出席率 97.0%。 ✓ 学校・地域行事へ積極的に参加できた。 ✓ 家庭学習の定着は 7 割の学生ができていた。
2 学年	✓ 出席率 97.5%。 ✓ 国家試験対策として模擬試験を 2 回実施
3 学年	✓ 出席率 93.3%。 ✓ 国家試験合格 62%(目標 100%) 全国平均 91% ✓ 県内就職 67%(目標 70%以上)

(2) 教育活動

取組の総括	
✓ 3 年生の国家試験全員合格に向けて全職員で取り組んだが、結果は 29 人受験して 18 人合格、合格率は全国平均 91.0%に対して本校の合格率は 62.1%にとどまった。昨年度と比較しても 30 ポイント強の低下である。一過性の問題、特定の学年の問題とみなすことなく、学校を上げて指導体制・カリキュラムの改善に取り組む必要がある。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 国家試験合格 100%	✓ 早期取組(1 年生 12 月から国家試験対策学習開始) ✓ 模擬試験 14 回実施 ✓ 冬季補習の実施 ✓ 担当制指導により個別にきめ細かく指導 ✓ 全職員による模擬試験点数分析会議の実施 ✓ 進研アドテスト実施(1・2 年生)

	✓ STEP 講座 3 年生 7 月 18 日(木)・10 月 23 日(水) ✓ DHS 講座 2・3 年生 1 月 9 日(木) ✓ 国家試験日：3 月 2 日(日) 会場：九州産業大学 発表：3 月 26 日(水)
(2) 先進の歯科医療技術の修得と歯科保健活動の実践的修得	✓ 臨床実習(2 年生 30 日間、3 年生 90 日間)の実施 ✓ 佐世保市中央保健福祉センターにおける臨地実習 ✓ 矯正歯科見学(2 年生) ✓ 戴帽式(2 年生) 12 月 20 日(金) ✓ 3 年生患者実習(保護者) 8 回実施 5 月 2 日～7 月 25 日 ✓ 世知原グリーンホームでの実習 8 回実施 7 月 9 日から ✓ 長崎リハビリテーション病院実習(3 人) 9 月 19 日(木) ✓ 障害者支援施設「にじいろ」実習 5 回実施 10 月 22 日から ✓ 長崎大学病院臨床実習(3 人) 11 月 5 日と 11 月 8 日 ✓ 歯科衛生士育成研修会 11 月 30 日(土) ✓ 学術研修会キャリアアップ応援セミナー(2 年生) 1 月 18 日(土) ✓ 2 年生研修旅行(関東) 10 月 9 日(水)～11 日(金) (株)ジーシーでの見学・講義
(3) 学力向上と学習習慣の強化	✓ 基礎学力診断テストおよび生活学習習慣診断テストの実施 ✓ 入学前プログラムの全員参加 ✓ 在校生の先輩との座談会 ✓ 保護者との情報共有 ✓ 電話連絡およびプリント配布による情報共有 ✓ 保護者面談の実施 (7 月・8 月)
(4) 即戦力強化と人間力向上	✓ 理事長講話(1 年生) 4 月 4 日(木) ✓ 学生による学園祭 10 月 6 日(日) ✓ 学生自治会による「南地区コミセン祭り」参加 11 月 10 日(日) ✓ 学生によるクリスマス会開催 12 月 24 日(火) ✓ 医療事務管理士技能認定試験(歯科) (2 年生) 3 月受験 ✓ 茶道、華道、調理実習の授業の充実 ✓ 地域清掃ボランティア活動 ✓ 接遇マナー講座と接遇マナー検定試験(3 級)の実施(2 年生) ✓ 救急救命法講習会(2 年生) 4 月 9 日(火) ✓ 防災避難訓練 5 月 8 日(水) ✓ 調理実習(2 年生) 4 月 30 日(火) ✓ 調理実習(1 年生) 4 月 30 日(火)、1 月 28 日(火) ✓ 防犯講話 7 月 31 日(水) ✓ 佐世保市歯科医師会による就職講話(2・3 年生) 7 月 11 日(木) ✓ 接遇マナー検定試験(3 級) 11 月 9 日(土) ✓ 年金セミナー(1 年生) 11 月 28 日(木)

(3) 教学組織の新設・募集停止・改組・定員管理等

取組の総括	
✓ 男子学生の受入れ(学則変更により共学、令和 5(2023)年 4 月 1 日から施行)の周知	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 共学の体制準備	✓ 施設設備の準備、制服および規則等の見直し ✓ 男子学生受入れ可の周知

(4) 研究活動

取組の総括	
✓ 学園内の研究者からの研究に関するアンケートや調査の依頼に関して協力した。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 研究活動への協力	✓ 研究活動のアンケートや調査等の依頼に確実に実施して協力した。 ✓ 大学の薬学部からの調査研究は、全職員と全学生で協力した。

(5) 学生の支援活動

取組の総括	
✓ 教育に関する支援は、「教育活動の取組」を実施していく。経済的な支援活動は、修学支援新制度・専門実践教育給	

付金制度と本学院独自の学生サポート制度の周知と適切な対応に努める。さらに就職や学校生活での支援など各関係機関や家庭と連携を取りながら、充実した学生生活を送ることが出来るようにサポートしていく。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 専門実践教育訓練給付金	✓ 専門実践教育訓練給付金指定講座認定 (令和5(2023)年4月から令和8(2026)年3月) ✓ 次回は令和7(2025)年度に申請予定 ✓ 令和6(2024)年度は1年生1人、2年生1人、3年生2人利用
(2) 学生サポート制度	✓ 学生及び保護者への周知と適切な対応 ✓ 令和6(2024)年度の利用者は 1年生(通学費補助1人・住宅費補助0人・駐車場代補助6人) 2年生(通学費補助9人・住宅費補助0人・駐車場代補助2人) 3年生(通学費補助6人・住宅費補助1人・駐車場代補助0人)
(3) 就職支援	✓ 求人票など情報提供を確実にする ✓ 佐世保市歯科医師会との連携 (院内見学会・合同就職説明会・就職に関する講話) ✓ ハローワーク佐世保との情報交換 5月29日(水) ✓ 佐世保市歯科医師会(福地先生)就職講話 7月11日(木) ✓ 佐世保市歯科医師会「合同就職説明会」 8月25日(日) ✓ 佐世保市歯科医師会との協議会 12月6日(金) ✓ 院内見学会(3年生) 11月～随時 ✓ 面接指導および就職試験報告書の作成と有効活用
(4) スクールカウンセラー	✓ 毎週月曜日午後にカウンセラーの来校、秘密の遵守 ✓ 生活相談に関しては、随時、生活相談員と連携した早めの対応 ✓ 新入生アンケート 4月17日(水) ✓ 新入生個人面談期間 4月～5月初旬 ✓ 2年生個人面談 6月 ✓ SC紹介と説明および相談アンケート実施 ✓ 学生健康診断 4月18日(木)
(5) 学生自治活動	✓ 学生主体行事の企画運営および自治会活動の活性化 (学園祭、レクリエーション、クリスマス会、地域行事等への取組) ✓ 新入生歓迎会と1・3年生座談会 4月8日(月) ✓ 1・2年生座談会 4月26日(金) ✓ 2・3年生座談会 5月1日(水) ✓ 2年生レクリエーション(HTB) 5月31日(金) ✓ 1年生レクリエーション 1月30日(木)
(6) 家庭との連携	✓ 電話連絡およびプリント配布による情報共有 ✓ 保護者面談の実施 7月・8月 ✓ 生活や学習面で気になる学生については、随時連絡

(6) 国際交流・留学生支援活動

取組の総括	
✓ 学園内の国際交流・留学生支援活動の依頼に対して協力	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 国際交流・留学生支援への協力	✓ 特になし

(7) 学生募集・広報活動

取組の総括	
✓ 魅力的で効果的な情報を積極的に発信する。そのためGoogleアナリティクスの利用および新入生やオープンキャンパス参加者にアンケートを実施してホームページやパンフレットなどの改善に繋げる。また、学生による情報発信も取り入れるなど、高校生のニーズに合わせた情報を発信する。全ての取組において外部の情報を収集しながら見直しと改善を図った。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 情報発信	✓ ホームページ打ち合わせ会 5月13日(月) ✓ 同窓会への情報発信(LINEの利用) ✓ ホームページの更新 7回 ✓ Instagramの更新 26回(フォロワー数 490→554)

	✓ YouTube 2 回 ✓ 路線バス(西肥バス)でのバス停前での車内アナウンス継続 ✓ 県内の新聞社・テレビ局への取材要請 ✓ テレビ佐世保：入学式、戴帽式、番組「専門学校を知らう」
(2) オープンキャンパス	✓ 年間 8 回実施(内容を変えて実施) ✓ 高校生参加者の目標数は年間 80 人(高校 3 年生は 60 人)以上とされていたが年間 55 人(高校 3 年生は 37 人)の参加となった。 ✓ 案内用ポスターおよびチラシ作製・配布 ✓ HP から参加申込できる。 ✓ 送迎バスなし。
(3) 体験入学	✓ 体験入学 4 校 ① 清峰高校 1 年生(11 人) 6 月 11 日(火) ② 佐世保東翔高校 1 年生(4 人) 6 月 21 日(金) ③ 九州文化学園中学校(1 年生 17 人、2 年生 18 人) 9 月 11 日(水) ④ 北松農業高校 1 年生(3 人) 10 月 23 日(水)
(4) ガイダンス	✓ 参加するガイダンスの見直しをした。 ✓ 九州文化学園高等学校オープンスクール保護者説明会での本校説明 ✓ 7 月 23 日(火) 7 月 24 日(水) 8 月 22 日(木) ✓ 県専各連主催 進路カフェ ① 長崎県庁 1F 7 月 17 日(水) ② JR 諫早駅東口 7 月 18 日(木) ③ 大村 COTO アーケード 9 月 4 日(水) ④ アルカス SASEBO 9 月 5 日(木) ✓ 長崎県各種学校専修学校主催 進学ガイダンス 10 月 25 日(金)
(5) 高校訪問	✓ 高校訪問 5 月 14 日～5 月 30 日 59 校(長崎県 49 校・佐賀県 10 校) 内容：新年度挨拶、入学お礼、本校就職状況、OC 案内、学生サポート制度、募集要項、在校生ポスター、学費比較、指定校推薦通知書 等 ✓ 県内の離島高校へ郵送 13 校へ 5 月 28 日 内容：学生サポート制度、本校就職状況、OC 案内、募集要項、ポスター ✓ 高校訪問 9 月 30 日(月) 内容：10/25 高校教員との意見交換会案内 ✓ 高校訪問 11 月 6 日(水)7 日(木) 内容：合格通知および情報交換
(6) 歯科医師会との連携	✓ オープンキャンパス案内ポスターを各医院に貼付のお願い ✓ テレビ佐世保：歯磨きのポイント、オープンキャンパス案内 (学生出演、8020 推進隊) ✓ 佐歯会だよりでの募集状況等報告
(7) 指定校推薦制度	✓ 指定する高校の見直しを実施した。

(8) 教職員の人材開発

取組の総括	
✓ 建学の精神をベースとした教育活動の展開をするために、九州文化学園基本スタンスを実践に結び付ける意識と日々の研鑽が必要である。そのため、職員は年 2 回以上の研修会や講習会等に参加し、そこで得た知識や情報を全職員で情報を共有できるようにした。また、法人事務局総務人事課など学園内の他部門とも人事に関する情報の共有を図った。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 指導力向上のための研修会	✓ デンタルスタッフ対象セミナー(アルカス SASEBO) 6 月 14 日 ✓ 歯科衛生士育成研修会(歯科医師会館) 11 月 30 日 ✓ キャリアアップ応援セミナー 1 月 18 日 ✓ 他の歯科衛生士養成校との情報交換会を開催する。 ✓ 講師会総会 4 月 1 日(月) 講師 15 人参加、理事長、教職員 ✓ 全衛協九州地区会(鹿児島) 9 月 7 日(土) ✓ 専門学校教職員の研修等推進のためのオンラインセミナー Zoom 2 月 21 日(金)
(2) 学校運営に関する研修会	✓ 県専各連研修会参加 ✓ 教育に関する企業の研修会等の開催

	✓ 講師会総会 4月1日(月) ✓ 高等学校教員向け進路ガイダンス(県専各連) Zoom 10月25日(金) ✓ 長崎県専各連理事会・総会(長崎) 6月28日(金)
(3) 研修会の情報収集	✓ 全国歯科衛生士教育協議会との連携 ✓ 他の教育機関および学園内での連携 ✓ 学園内の連携による研修会の開催および研修会の情報共有
(4) 学園内での研修会	✓ 佐世保若者活躍フォーラム 12月4日(水)
(5) 法人本部人事課との情報共有	✓ 法人本部人事課との人事に関する情報の共有を図る。

(9) ステークホルダーとの連携強化

取組の総括	
✓ 歯科医師会との連携では、市内就職率向上が最重要課題であるため、担当者連絡協議会を年3回開催し、市内就職のための講話や就職説明会・院内見学会などを実施した。またブラッシング指導も歯科医師会の協力を得て、市内の小中学校で実施することで歯科衛生士の職業理解と将来の学生募集に繋げた。 ✓ 各歯科医院での募集に関するポスターの貼付や、同窓会の連絡網を利用し学生募集についての案内などの情報発信を行った。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 保護者等家庭との関係性強化	✓ 保護者面談 7月～8月 その他随時実施 ✓ 電話連絡およびプリント配布による情報共有
(2) 佐世保市歯科医師会との連携	✓ 歯科医院でのポスター貼付 ✓ デンタルフェスティバル 6月2日(日) 1年生16人、2年生14人、職員2人(表彰式：校長) ✓ デンタルフェスティバル打ち合わせ会 5月20日(月) ✓ デンタルフェスティバル反省会 7月12日(金) ✓ 8020運動の推進 8020推進隊TV撮影 5月28日(火) ✓ 佐世保市歯科医師会(福地先生)就職講話 7月11日(木) ✓ 佐世保市歯科医師会「合同就職説明会」 8月25日(日) ✓ 佐世保市歯科医師会との協議会 12月6日(金) ✓ 院内見学会(3年生) 11月～随時
(3) 同窓会との連携	✓ 設備の補充および新設への協力体制作り ✓ 同窓会連絡網の整備 ✓ LINEを利用した学生募集などの情報発信 ✓ 一華会役員会(役員3人+職員3人)
(4) 地域社会との連携	✓ 南地区自治協議会および藤原町2組との連携 ✓ 2024 サザンオールスター(佐々町教育委員会主催) 1年生4人、職員2人 10月20日(日) ✓ 佐世保南地区コミセン祭りへの参加 11月10日(日) ✓ 地域清掃活動を実施 ✓ 佐世保南地区自治協議会賛助会員として地区自治会への協力
(5) 地域の小中学校との連携	✓ 九文幼稚園歯磨き教室 6月4日(火) ✓ 木風小学校2年町中探検隊5人+2人来校 6月21日(金) ✓ 九文小ブラッシング指導 6月26日(水) ✓ 江永保育園歯磨き教室 8月6日(火) ✓ 保育所海光園歯磨き教室 8月9日(金) ✓ 九州文化学園中学校1・2年生35人体験入学 9月11日(水) ✓ 佐世保特別支援学校ブラッシング指導 10月23日(水) ✓ 祇園小5年生 職業体験授業 11月22日(金) ✓ 清水中学校ブラッシング指導 11月26日(火) ✓ 祇園中学校ブラッシング指導 11月28日(木) ✓ 三川内中学校ブラッシング指導 12月3日(火)
(6) 佐世保市教育委員会学校保健課との連携	✓ デンタルフェスティバルでの補助活動 「歯と口の健康週間」図画・ポスター展の後援および表彰式への協力

(10) 学園内の連携促進

取組の総括	
✓ 法人本部および学園内の他部門の行事・会議・研究活動へ積極的に参加および協力をした。本校の行事および情報	

等も学園内に発信し、理解と協力を得るように努めた。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学園責任者連絡会	✓ 本校の現状と今後の計画を他部門に発信し、理解と協力を得る。 ✓ 学校法人九州文化学園辞令交付式(長崎国際大学) 4月1日(月) ✓ 会計監査(法人本部) 4月1日(月) ✓ 学校法人九州文化学園評議員会(長崎国際大学) ① 5月31日(金) ② 9月20日(金) ③ 12月20日(金) ④ 3月28日(金) ✓ 学園責任者連絡会議 ① 4月15日(月) 長崎国際大学 ② 7月1日(月) 九州文化学園小中学校 ③ 9月2日(月) 長崎国際大学 ④ 11月11日(月) 長崎短期大学 ⑤ 1月6日(金) 九州文化学園小中学校 ⑥ 3月3日(月) 長崎国際大学
(2) 学園募集担当者会	✓ 本校の現状と今後の計画を他部門に発信し、理解と協力を得る。 ✓ 他部門との相互協力体制を図る。 ✓ 募集担当者会(長崎短期大学) 5月2日(木)
(3) SDGs 連絡協議会	✓ 年間の行事計画の設定と学生、職員への周知 ✓ 学園 SDGs 担当者会議 Zoom で実施
(4) 茶道大会	✓ ハイスクール茶会(HTB) 5月18日(土) ✓ 大心茶会 10月13日(日) ✓ 長崎短期大学白蝶祭お茶席 10月20日(日) ✓ 長崎国際大学開国祭お茶席(自明堂) 11月3日(日) ✓ 長崎短期大学茶道大会 12月8日(日)
(5) ブラッシング指導	✓ 認定こども園九州文化学園幼稚園歯磨き教室 6月4日(火) ✓ 木風小学校2年町中探検隊5人+2人来校 6月21日(金) ✓ 九州文化学園小学校ブラッシング指導 6月26日(水)
(6) 九州文化学園高等学校進路指導	✓ 九州文化学園中学校1・2年生35人体験入学 9月11日(水) ✓ 九州文化学園高等学校オープンスクール保護者説明会での本校紹介 7月23日(火) 7月24日(水) 8月22日(水)
(7) 他部門の行事・調査研究等	✓ 九文キャンパスツアー来校 4月6日(土) ✓ 学園納涼会 7月26日(金)

(11) SDGs の推進

取組の総括	
✓ 職員と学生が地域と連携した SDGs 推進活動を意識し、学生自治会を中心に年間の活動計画を立てて実行し、さらに改善して実行するように心がけた。 ✓ 地域に出かけて、様々なイベントに参加し、SDGs 推進にも主体的に取組む体制をつくることができた。特にブラッシング指導に関しては、学生が主体となり実行できている。今後も継続することで本校のアピールにつながると思う。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) SDGs 推進の周知と学習	✓ 年度初めに SDGs 推進の周知 ✓ SDGs 推進行事への参加
(2) ブラッシング指導	✓ 九文幼稚園歯磨き教室 6月4日(火) ✓ 木風小学校2年町中探検隊5人+2人来校 6月21日(金) ✓ 九州文化学園小学校ブラッシング指導 6月26日(水) ✓ 江永保育園歯磨き教室 8月6日(火) ✓ 保育所海光園歯磨き教室 8月9日(金) ✓ 九州文化学園中学校1・2年生35人体験入学 9月11日(水) ✓ 佐世保特別支援学校ブラッシング指導 10月23日(水) ✓ 祇園小5年生 職業体験授業 11月22日(金) ✓ 清水中学校ブラッシング指導 11月26日(火) ✓ 祇園中学校ブラッシング指導 11月28日(木) ✓ 三川内中学校ブラッシング指導 12月3日(火)
(3) 8020 運動推進	✓ 佐世保市歯科医師会、テレビ佐世保と協力して実施 ✓ テレビ佐世保 8020 推進隊においては、学生が、メディアを通して歯磨きのポイン

	トを伝達し、オープンキャンパスの案内等を行った。 撮影 5月28日(火)
(4) デンタルフェスティバル	✓ 佐世保市歯科医師会・教育委員会への協力 ✓ デンタルフェスティバル 6月2日(日) 1年生16人、2年生14人、職員2人(表彰式：校長) ✓ デンタルフェスティバル打ち合わせ会 5月20日(月) ✓ デンタルフェスティバル反省会 7月12日(金)
(5) 地域行事への参加・地域清掃	✓ 2024 サザンオールスター(佐々町教育委員会主催) 1年生4人、職員2人 10月20日(日) ✓ 佐世保南地区コミセン祭りへの参加 11月10日(日) ✓ 地域清掃活動を実施 ✓ 佐世保南地区自治協議会賛助会員として地区自治会への協力
(6) ペットボトルキャップ回収	✓ 学生自治会を通してペットボトルキャップを回収してワクチンに交換する。
(7) 高校生体験入学	✓ 体験入学4校 ・清峰高校1年生(11人) 6月11日(火) ・佐世保東翔高校1年生(4人) 6月21日(金) ・北松農業高校1年生(3人) 10月23日(水)

(12) 管理運営と業務・経費効率化

取組の総括	
✓ 修学支援新制度の適切な対応に心がけた。また、本校独自の学生サポート制度も検証を行い今後の在り方を検討した。電気料金やガス料金との値上げが続いているので、毎月の料金の見える化を行い省エネについて職員や学生に浸透させていく。さらに、文書の適切な管理および情報セキュリティポリシーの徹底もしっかりと行っていく。ウィルス感染予防対策に関してもこれまでと同様に関係機関と連携しながら対応した。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 予算の適切な執行	✓ 中期計画に則した予算編成と適正な執行と常に支出の見直し ✓ 中期計画に則した予算編成と適正な執行 ✓ 募集定員の確保
(2) 修学支援新制度	✓ 修学支援新制度の適切な対応に心がけた。
(3) 学生サポート制度	✓ 令和3(2021)年度から導入している。
(4) 職業実践専門課程促進補助金	✓ 令和5(2023)年度から3年間、職業実践専門課程促進補助金制度が長崎県でも実施されるので、この制度を利用した実習や研修を積極的に計画する
(5) 省エネ推進活動	✓ 未使用教室の消灯 ✓ 昨年および毎月の電気料金との比較
(6) 規則・規程の適切な管理と運用体制の確認	✓ 年度当初に規則・規程や文書の適切な管理と運用体制の確認を行い、年間を通して見直しおよび確実な整備を行う。 ✓ 学校危機管路マニュアルの確認
(7) 情報セキュリティマネジメント	✓ 情報資産管理台帳の見直しと整理 ✓ 情報セキュリティポリシーの周知徹底
(8) 学内組織や構成員間の情報伝達・共有の円滑化	✓ 学内メール便の有効活用 ✓ 学内 Gmail での適切な情報データの共有 ✓ 共有フォルダの見直しと整理
(9) ウィルス感染予防対策	✓ 関係機関との連携強化 ✓ ウィルス感染予防の徹底 ✓ 正しい情報の収集と適切な判断・対応・学生の授業実習に支障が出ないようにする。

(13) 施設・設備・システム等の環境整備

取組の総括	
✓ 安全第一主義で施設設備の点検を実施した。異常または不安な箇所が出た場合は、専門業者と連絡をとり早めの対応に心がけた。また急を要しない場合には中長期的に修繕・修理・更新等の計画を立て実行した。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 施設設備の定期点検実施	✓ 毎日の清掃時間における点検の実施 ✓ 消防署立ち入り検査 6月6日(木) ✓ 消化器および非常灯バッテリー交換 6月10日(月) ✓ 貯水槽清掃 異常なし 8月11日(日) ✓ 消防設備点検 異常なし 8月7日(水)

	✓ 非常灯蛍光灯交換(中央 2 階)	8 月 21 日(水)
(2) ICT 環境整備	✓ 将来 iPad 全員購入に向けた ICT 環境整備を検討する。	
(3) 環境美化	✓ 校舎周りの樹木剪定と清掃 ✓ 四季の草花を楽しめる環境づくりに取り組む。	

(14) 点検評価

取組の総括		
✓ 令和 6(2024)年度事業計画に基づき教育活動および学校運営を展開していく中で、テーマや行事ごとに現状と課題を把握し整理して次の取組までに改善するように努めた。具体的には「いつまで、だれが、どこまで取り組むのか」実施する時期や組織体制を明確にして実行した。学生や職員の自己評価および学校関係者評価委員の評価項目の内容も現状に合ったものであるか検証し、見直して実施した。		
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題	
(1) 学校関係者評価委員会	✓ 第 1 回学校関係者評価委員会 8 月 21 日(水) ✓ 第 2 回学校関係者評価委員会 2 月 5 日(水) ✓ 学校関係者委員会評価の報告(県学事振興課へ) 3 月中旬 ✓ 学校関係者委員会評価の公表(HP) 3 月中旬 ✓ 令和 6 年度事業報告(法人本部へ) 4 月下旬 ✓ 令和 7 年度事業計画(法人本部へ) 3 月上旬	
(2) 学生自己評価	✓ 自己評価(学生)実施 12 月初旬 95 人	
(3) 職員自己評価	✓ 自己評価(学生)実施 12 月初旬 95 人	
(4) 学事振興課への報告	✓ 令和 6(2024)年度学校評価報告書を 3 月上旬に提出する。	
(5) ホームページ掲載	✓ 令和 6(2024)年度学校評価結果を 3 月下旬に本校ホームページに掲載し公表する。	
(6) 事業報告と事業計画の作成	✓ 令和 7(2025)年度事業計画書は 3 月初旬、令和 6(2024)年度事業報告書は 4 月下旬に作成する。	

(15) その他(中長期的案件の対応や、上記では区分しがたい取組)

取組の総括		
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題	
該当なし		

9.法人事務局

1) 経営理念・経営目標

経営理念	学園全体として健全な経営状態と安定した財務基盤の確立を目指す。
経営目標	学園全体として、日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標による経営状態「A2」を目指す。

2) 1年間の総括と評価

✓ 法人事務局は学園の経営安定に向け、財務、人事、DX、ガバナンスの各分野で重点的に取り組んだ。財務面では、返済回数の増加に伴う資金圧迫に対し、短期借入や有価証券売却を実施し、収支の黒字化を達成。人事面では、就業環境の改善として土曜休業の導入や休職制度の整備を行った。
✓ 私学法改正への対応として寄附行為と関連規定を見直し、内部統制体制の強化も推進。DXでは、ネットワークインフラを再構築し、次年度以降の設備更新に備えた準備も進めた。また、WebやSNSによる情報発信や中期ビジョンの策定準備を通じて、ブランド力と透明性の向上に努めた。
✓ 一方で、一部分野の業務分析や連携が不十分であり、今後は全体最適を視野に入れた更なる効率化とガバナンス強化が求められる。

3) 中期計画基本方針に対応した学校全体の取組実績

1	成長力の確保	✓ 運転資金については、返済期日の都合で年間の返済回数が増えたため、借入金の返済額が増加し資金が減少したが、令和6(2024)年度の決算において事業収支が黒字に転じたことで、その影響を抑えることができた。 ✓ 教職員の確保に向けて、令和7(2025)年度から小中学校および高校部門では土曜日を原則として休業日とし、その他の部門でも出勤時間を見直すなど、労働環境の改善を図った。 ✓ システム導入については、学園全体のネットワークインフラを再構築し、次年度以降のIT・DX推進に向けた基盤整備を行った。
2	教育力の向上	✓ 教育付加価値の明確化と向上支援については、事業計画の策定にあたり、学校長が教育の重点課題を設定し、付加価値の向上に努めた。 ✓ 教職員個々の能力向上については、部門ごとにSD・FDなどの内外研修や職員の目標管理を実施し、教育力の向上に努めた。
3	約定返済の確実な履行	✓ 支払資金の維持・確保について、約定通りに返済を行った。

4) 経営改善(健全化)に関する成果

1	収入の増加	✓ 収支改善のため、寄付金の増収に努めた。
2	支出の効率化	✓ 経費の効率的な執行については、事務局長会で予算と実績の管理を行い、月ごとの執行状況を確認した。 ✓ 高圧電力契約については、新電力の導入や契約電力の見直しなどを通じて、電気料金の効率化を進めた。
3	人員・業務の効率化	✓ 組織的な業務分析は実施できなかった。 ✓ 人員については、専任職員の期中退職や産休・育休が発生したが、契約職員や他部門からの支援により対応した。
4	付加価値向上と広報強化	✓ 広報強化として、学園公式サイトでメディア掲載・放送情報の掲載や、SNS(X)での情報発信を行った。

5) 中期計画の進捗・達成状況

区分	進捗・達成状況
戦略Ⅰ	✓ 新入教職員に対しては、辞令交付後に理事長による学園紹介の講話を行うとともに、キャンパス・ツアーを実施し、学園が設置する各学校を訪問することで、自らが学園の職員であることを認識し、建学の精神の浸透を図った。
戦略Ⅱ	✓ 各部門の教育に必要な人員確保に努めた。
戦略Ⅲ	✓ 地域行政や経済産業界、市民との関係性の形成については、理事長や法人本部長をはじめ、自治体や地域のロータリークラブ、商工会議所と積極的に交流を図った。 ✓ 卒業生については、80周年事業の一環として、学園同窓会連合会の設置を進めることとした。
戦略Ⅳ	✓ 外部のIT・DX専門アドバイザーと契約し、学園および各部門の課題を抽出するとともに、学園全体のネットワークを再構築した。
戦略Ⅴ	✓ 例年、長崎国際大学内で開催していたSDGsイベントについては、広報・ブランディング効果を高めるため、例年5月に佐世保中央公園で開催されている「名切SDGsフェスティバル」に学園として出展することとした。
戦略Ⅵ	✓ 学園全体の経常収支差額3年連続マイナスを回避するために、寄付金の獲得、経費執行の効率化を行い12百万円のプラスで着地することができた。 ✓ 職員採用については県主催の県内の大学生に対する合同企業説明会に参加し、本学についての説明並

	びに総合学園で働くということの認知を図った。 ✓ 教員確保が難しい事は非常勤講師の確保においても同様である。そのため、各部門と連携しながら、他部門での科目担当の状況を把握し情報共有することで、科目担当者の確保に努めた。
学園内の連携促進	✓ 学園責任者連絡会を 6 回、事務局長会を 11 回開催し、理事長・法人本部長と、学校長・事務局長の連携を推進した。 ✓ 業務別・分野別の連携会議として、福祉分野 2 回、募集担当者 2 回(WG 含む)、養護教諭 2 回の会議を開催した。
付帯計画と課題	✓ 私立学校法改正対応のため寄附行為の変更申請を行い認可された。

6) 主要情報

(1) 主な行事等の開催実績

行事等名	実施日・期間等	備考
辞令交付式	令和 6(2024)年 4 月 1 日	
新任者キャンパスツアー	令和 6(2024)年 4 月 6 日	
定例異動発令	令和 6(2024)年 6 月 1 日	
理事長旭日中綬章叙勲記念祝賀会	令和 6(2024)年 6 月 22 日	ホテルオークラ JR ハウステンボス
学園暑気払い	令和 6(2024)年 7 月 26 日	ホテルフラッグス九十九島
内部監査(科研費等モニタリング)	令和 6(2024)年 8 月 20 日 令和 6(2024)年 9 月 10 日	被監査研究者： 長崎国際大学 5 人
内部監査(定期監査)	令和 6(2024)年 9 月 10 日	被監査部門： 認定こども園九州文化学園幼稚園
内部監査(科研費等モニタリング)	令和 6(2024)年 11 月 17 日	被監査研究者： 長崎短期大学 2 人
内部監査(定期監査)	令和 6(2024)年 12 月 12 日	被監査部門： 九州文化学園小学校・中学校

(2) 主な会議等の開催実績

会議等名称	開催回数	開催日
評議員会	4 回	第 1 回(5/31)、第 2 回(9/20)、第 3 回(12/20)、第 4 回(3/28)
理事会	6 回	第 1 回(4/1)、第 2 回(5/31)、第 3 回(8/28)、第 4 回(9/20)、第 5 回(12/20)、第 6 回(3/28)
監事会	2 回	第 1 回(5/29)、第 2 回(3/26)
学園責任者連絡会	6 回	第 1 回(4/15)、第 2 回(7/1)、第 3 回(9/2)、第 4 回(11/11)、第 5 回(1/6)、第 6 回(3/3)
事務局長会	11 回	第 1 回(4/18)、第 2 回(5/16)、第 3 回(6/20)、第 4 回(7/18)、第 5 回(9/19)、第 6 回(10/17)、第 7 回(11/21)、第 8 回(12/19)、第 9 回(1/16)、第 10 回(2/20)、第 11 回(3/13)、
会計担当者会議	3 回	第 1 回(7/16)、第 2 回(10/24)、第 3 回(3/6)
学園ハラスメント防止等委員会	—	事案発生時等の随時開催のため開催実績なし
法人事務局情報セキュリティ委員会	2 回	第 1 回(1/6)、第 2 回(3/31)
長崎県内大学・短期大学等理事長・学長会(外部会議)	1 回	第 1 回(2/19)

7) 年度の事業計画の進捗・達成状況

(1) 法人部門の業務分野別の基本方針

分野名	今年度の基本方針の達成状況
(1) 総務分野	✓ 学園経営上の課題を迅速に把握し、ガバナンス強化並びに私立学校法の改正への対応のため、専門家も交えての検討を重ね、本学園が社会の信頼を得て一層発展するため、また社会の要請に応え得る実行性のあるガバナンス改革を推進するため、寄附行為の改正を行うとともに、付随する規定の改正整備を行った。 ✓ 執行と監視・監督の役割の明確化・分離の重要性から、役員等の資格・解任等の手続きを明確にし、各機関の職務や運営等の管理運営体制について整備し、建設的な協働と相互けん制の確立に努めた。

(2) 人事分野	✓ 令和 7(2025)年度より学校種により勤務体制を各部門に応じたものに変更することで、よりよい働き方と教員確保の方策として設定することとした。
(3) 財務分野	✓ 令和 6(2024)年度計 3 回の会計担当者会議等を通じて、会計・財務処理の正確な実行を確認。 ✓ 令和 6(2024)年度計 11 回の事務局長会議等を通じて、経営指標の提示を受け、月次の各部門の収入・支出の状況を把握。 ✓ 令和 6(2024)年度計 3 回の会計担当者会議等を通じて、様々な会計上の変更点・注意点を共有し、各部門の会計業務のスタンダード化を推進。
(4) 企画分野	✓ 次期中期計画(第 3 期：令和 8(2026)年度～令和 12(2030)年度)の策定に向け、現状分析とビジョンの設定を行った。 ✓ 学園ネットワーク再構築プロジェクト(NWP)を実施し、インターネットおよび部門間ネットワークの整理を行った。 ✓ 外部委託の IT・DX 専門アドバイザーにより、学園および大学等の DX 推進に関する課題とその展開について提案を受けた。 ✓ SDGs および 80 周年を契機とした、学園全体での広報ブランディングを企画した。 ✓ 新規案件および継続案件について対応を行った。
(5) 監査分野	✓ 公認会計士、監事および内部監査室の三者による、令和 5(2023)年度決算に関する打合せを実施(5/15)。 ✓ 内部監査規定および内部監査実施手順に基づき、内部監査を実施。 ✓ 部門別定期監査を 2 回実施(対象部門：幼稚園・小中学校)。 ✓ 科研費等モニタリングを実施(対象部門：大学・短期大学)。 ✓ テーマ監査を実施(対象：固定資産)。 ✓ 寄附行為の変更に伴い、内部監査規定を改正(令和 7(2025)年 4 月 1 日施行)。

(2) 財務の健全化と人事政策強化

取組の総括	
✓ 令和 6(2024)年度、複数回の会議を通じて収支バランスを調整し、短期借入や有価証券売却により資金確保を図った。また無期雇用職員向けに休職制度を整備し、就業規則を改正して安心して働ける環境を構築した。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 財務の健全化	✓ 令和 6(2024)年度計 11 回の事務局長会議および計 3 回の会計担当者会議等により各会計担当者とのすり合わせ等を適時実施し、主に予算を通じて収入と経費のバランス化を図った。 ✓ 令和 6(2024)年度は約定返済の回数増等による自己資金の低下が予測されたため、7 月期に短期借入を実施し、あるいは有価証券の一部売却を行い財政の健全化に努めた。
(2) 人事政策強化	✓ 無期雇用の契約職員及び無期雇用のパートタイマーとして働く教職員に対し、体調不良等の際に取得できる休職制度を整備し、安心して療養し復帰できる労働環境整備のため就業規則の改正を行った。

(3) 改正私学法の対応

取組の総括	
✓ 改正法施行に対応し、専門家を交えて寄附行為および関連規則の改正・新設を行い、文部科学省に申請・認可を得た。併せて、内部統制システム整備の基本方針を策定した。理事会・評議員会・監事は、それぞれの役割に応じて運営や審議を適切に実施し、監査体制の強化と理解促進に努めた。法改正(育児介護法)への対応や、危機管理体制の確認も行い、組織運営の適正化とガバナンスの強化を図った。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 寄附行為改正の対応	✓ 改正法施行に対応した寄附行為の変更については、今回の改正の趣旨を念頭に専門家も交えた検討を重ね、本学の方針を定め、寄附行為の改正並びに関連規則・規定の改正・新設を寄附行為の改正案を令和 6(2024)年 10 月 2 日に文部科学省に申請し、令和 7(2025)年 1 月 27 日認可された。また、寄附行為の改正と共に、関連諸規則・規定の改正・新設を行った。 ✓ 令和 7(2025)年 3 月 28 日の理事会において、理事の職務執行が法令・寄附行為に適合すること及び業務の適正を確保するための体制の整備に関し、令和 7(2025)年 4 月 1 日付で学校法人九州文化学園内部統制システム整備の基本方針を策定した。
(2) 理事・理事会・評議員会・監事の対応	✓ 理事会は、理事長、大学長、高校校長をはじめ、法人本部長、法人事務局長、そして外部理事である地元経済界代表者からなる実質的な経営専門家で構成し、率直な

	意見交換を行いながら適切に運営を行った。 ✓ 評議員会についても、資料を事前配布した上で、各議案について丁寧に説明を行い審議を行った。また、学園の運営状況や学生の活躍等について説明し、学園の現状説明並びに理解を深めた。 ✓ 監事については、今回の私学改正に関連する研修を行い、理解を深めた。 ✓ 内部監査室は通年、監事の監査機能強化のために連携し、監事と対面またはメール等での打合せを実施。監査における方向性、監査活動を通じて認識した、リスクおよび課題についての情報を共有、監査の充実を図った。
(3) 法令・規則・文書管理等の対応	✓ 育児介護法の改正についても適切に対応した。
(4) 危機管理の対応	✓ 内部監査の業務監査において、幼稚園部門及び小中学校部門の危機管理の執行状況について確認を行った。

(4) 学園のブランド向上

取組の総括	
✓ 「地域を創造する学園」を掲げたビジョンのもとブランド形成を進めるとともに、Web サイトや SNS を活用して積極的な情報発信と透明性のある経営を推進した。また、各部門の人材育成を支えるため、人材・予算・業務面での支援に努めた。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 学園ブランドの形成・強化	✓ 第3期中期計画の策定に向けたビジョン「Road To 2030 人材育成を通じて地域を創造する ～Create the Region～」を学園責任者連絡会で決定し、地域を創造する九州文化学園としての存在感をさらに高めていくことで、学園ブランドを形成していくこととした。
(2) 積極的な情報発信	✓ 学園公式 Web サイトにおいて、各部門のメディア掲載・放送に関する情報を発信するとともに、SNS(X)では行事に関するメッセージを投稿した。 ✓ 財務諸表、寄附行為、役員等の情報、事業計画・報告、学生数・教職員数、その他の計画・指針など、法令等で定められた情報を学園公式 Web サイトで公開することで、経営の信頼性を高めている。
(3) 各部門の付加価値向上の支援	✓ 具体的な付加価値向上の支援は実施できていないが、各部門が目指す人材育成と教育に必要な人材、予算、および業務面での支援が行えるよう努めた。

(5) その他の取組

取組の総括	
✓ 中期・年度計画の進捗管理を定例化し、重点課題の明確化や評価反映を図りつつ、学園内の業務・分野別連携会議や IT・DX 推進プロジェクトにより連携を強化した。また、Google ツールの活用や会計業務の標準化を通じて業務効率化にも取り組んだ。	
項目名・取組名	取組の実績・成果・課題
(1) 各種計画の進捗管理	✓ 現行中期計画および令和6年度事業計画については、事務局長会で定例議案化し、四半期ごとに各部門で進捗状況報告を作成・共有した(第4四半期分は事業報告書で代替)。 ✓ 令和7年度事業計画については、本部長より重点経営課題が提示され、各部門長により重点教育課題が設定された。また、様式や項目の改善を行い、3月の理事会で承認された。 ✓ 次期中期計画については、長崎国際大学および長崎短期大学が令和7(2025)年度に受審する機関別認証評価の結果を反映させるため、次年度9月にまずガイドラインを作成し、正式には次年度3月の理事会で制定することとした。
(2) 学園内連携の推進	✓ 業務別・分野別の連携会議の開催実績 ✧ 福祉分野に関する連絡協議会 2 回開催(7/29、11/7) ✧ 学園内募集担当者会議 1 回開催(5/2)、幼稚園・小学校 WG1 回開催(5/8) ✧ 学園内養護教諭連絡会 2 回開催(8/21、2/25) ✧ 食物分野に関する連絡協議会、幼稚園・保育学科の連絡協議会は未開催。 ✓ 重視する分野の連携推進(スポーツ、IT・DX)について ✧ IT・DX に関しては「学園ネットワーク再構築プロジェクト」を関連部門の担当者により組織化し、委託業者も含めた定例会議を 7 回開催(7/17、8/8、9/12、10/10、11/14、12/19、1/9) ✓ スポーツに関しては未発足
(3) 業務効率化	✓ Google カレンダーの活用と法人事務局内の課長等打合せにおける Google ドライ

	ブの活用など業務効率化に努めた。 ✓ 令和 6(2024)年度計 3 回の会計担当者会議により、会計業務のスタンダード化を推進している。
--	--

10. 学園全体

(1) 学園全体に関する計画

取組の総括	
✓ SDGs の対外広報強化として「名切 SDGs フェスティバル」への出展を準備しつつ、グループウェア導入による情報共有促進を検討した。80 周年記念事業は 6 事業を実施し、式典を令和 7(2025)年 12 月に開催予定。また、職場の魅力向上に向け、小中高部門の土曜休業や勤務時間の見直しを進めた。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) SDGs の推進	✓ 学生等・教職員への周知啓発から、対外的な広報へ重点を変更し、令和 7(2025)年 5 月 24 日(土)に佐世保中央公園で開催される「名切 SDGs フェスティバル」へ学園として出展することとし、準備を進めた。
(2) 学園全体の情報共有促進	✓ グループウェアの導入については、学園ネットワーク再構築プロジェクト経費増により見送った。 ✓ 学園報の導入・発行検討については、必要性の認識に留まり、予算等の具体化は進まなかった。
(3) 80 周年事業	✓ 周年事業については、「記念式典」「祝賀会」「記念誌」「寄附金」「同窓会連合会」に「茶会」を加えた 6 事業について実施することを決定し、各事業 WG の責任者も確定させた。また記念式典は、令和 7(2025)年 12 月 15 日にアルカス SASEBO で開催することとした。
(4) グローバル化対応	✓ 具体的な対応は未実施。
(5) 選ばれる職場創り	✓ 就業環境の競争力確保のため、次年度より小中学校部門と高校部門を原則土曜休みとし、他部門についても出勤時間の変更を行うこととした。

(2) その他特記事項

取組の総括	
✓ 学園ネットワークの再構築により IT・DX 推進の基盤を整備し、外部アドバイザーと直接契約して、長崎国際大学の PC 教室更新やネットワーク改善に向けた準備を進めた。	
項目	取組の実績・成果・課題
(1) DX 推進	✓ 速度や安定性が脆弱で、複雑化していた学園ネットワーク網について再構築を行い、IT・DX を推進するためのインフラ整備を行った。 ✓ 前年度、紹介業者の仲介で業務委託した外部の IT・DX 専門アドバイザーについて 12 月～3 月に直接契約し、令和 7(2025)年度～令和 8(2026)年度に実施予定の長崎国際大学の PC 教室のリプレイス、ネットワーク環境の更新に向けて、大学の教務委員長担当者や業者と現状や条件の確認を行った。
(2) 理事長の叙勲	✓ 令和 6(2024)年 4 月 29 日、政府より令和 6 年春の叙勲受章者が発令され、本学園の理事長 安部 直樹が「旭日中綬章」を受章。対外的には同年 6 月 22 日ホテルオークラ JR ハウステンボスにおいて叙勲祝賀会を開催。学園内では同年 7 月 26 日ホテルフラッグス九十九島において開催した暑気払いの中で祝賀した。

1 1.法人全体の計画の進捗・達成状況

(1) 中期計画における財務上の数値目標の達成状況

項目	取組の実績・成果・課題
(1) 経常収支差額について	✓ 令和 6(2024)年度二次補正予算値からの回復により、経常収支差額+12 百万円を達成することができた。
(2) 自己資金の確保について	✓ 後述の約定返済の回数増等による自己資金の低下が予測されたため、7 月期に短期借入を実施した。また有価証券の一部売却を行い自己資金確保に努めた。
(3) 借入金の約定返済について	✓ 本来 3 ヶ月毎の年 3 回の返済が通常ではあるが、令和 6(2024)年度は曜日配列の都合上、年 4 回(4/1、7/1、9/30、1/6、3/31)となったが、計画通りの返済を行った。

(2) 中期計画における実施計画の達成状況

項目	取組の実績・成果・課題
(1) 成長力の確保について	✓ 法人全体の成長力確保に向け、各設置校における教育改革および地域・国際連携の推進を基軸として、Society5.0 および SDGs への対応を進めた。具体的には、グローバル化と ICT 化に対応した人材育成を強化し、外国人留学生の受け入れ体制やキャリア支援の充実、九州文化学園小中学校や九州文化学園高等学校普通科 S グローバルコースで英語教育の強化、理工学部への設置に向けた検討や関係機関等との協議を進めた。 ✓ 内部進学や学内連携の強化により、安定的な入学者確保に努めているものの、一方で、一部学科・学校においては定員充足率が依然として低迷しており、入試制度や広報戦略のさらなる見直しが必要の課題である。加えて、急速な環境変化に対応するため、教育資源の再配分および教職員の意識改革も必要とされる。今後も、法人全体として持続的な成長を実現すべく、教育面・経営面の両側面から改革と改善を継続的に推進していく。
(2) 教育力の向上について	✓ 学校法人全体として教育の質向上を重要課題と位置づけ、各設置校において年齢や発達段階に応じた教育の充実を図った。 ✓ 幼児教育においては、個々の発達を尊重した保育・教育実践を継続し、小・中・高等学校では探究的な学びや ICT の活用、キャリア教育の強化に努めた。 ✓ 高等学校ではコース制の見直しを通じ、多様な進路に応じた指導体制を構築した。 ✓ 専門学校および短期大学では、国家資格取得を前提とした実践的教育に注力し、社会の即戦力となる人材輩出に寄与している。 ✓ 大学においても学修成果の可視化により、教育の質保証体制を強化した。 ✓ 一方で、教員数の減少や教員負担の偏在、教育資源の偏りが課題として顕在化しており、組織的な支援体制の再構築が急務である。今後は、教職員の資質向上を図るとともに、法人全体で教育力を可視化し、継続的改善を行う体制の強化が求められる。
(3) 重点戦略について	✓ 戦略Ⅰでは、建学の精神の再確認とその教育活動への反映に努めた。各設置校においては、日頃から理事長や法人本部長による部門とのコミュニケーション、新任教職員向けのキャンパスツアーの機会を通じて理念の共有を図り、教育・保育実践における根幹として機能させた。加えて、3 ポリシーとの整合を重視した教育課程の運用を通じて、内部質保証体制の強化を進めた。 ✓ 戦略Ⅱでは、教育改革とキャリア支援の充実に向け、探究型学習やアクティブラーニングを推進し、学習意欲を高める授業実践を拡充した。また、国家資格取得支援や進路指導体制の整備により、各校において就職・進学実績に一定の成果が見られた。学修成果や進路達成状況の可視化については、今後さらに体系化する必要がある。 ✓ 戦略Ⅲにおいては、地域・国際社会との連携を強化した。長崎国際大学を中心に留学生受け入れ、小中高等学校では地域行事や教育委員会との協働事業を通じ、地域に根ざした学びを推進した。なお、小中学校ではコロナ禍で実施できなかったカナダへの修学旅行を実施し、国際感覚の醸成に寄与している。また、80 周年事業の一環として次年度に同窓会連合会の設置を進めることとした。 ✓ 戦略Ⅳでは、教育環境の向上と業務効率化に向け、ICT の段階的導入を進めた。授業や実習での ICT 活用、学内ネットワーク構成の整理、事務系業務の効率化を図る一方、インフラ整備と人的支援の不足が課題として残った。 ✓ 戦略Ⅴについては、各校の特色を活かした広報活動や地域イベントへの参画を通じて、認知度とブランド力の向上に取り組んだ。収容定員の充足については学校間で差があり、戦略的な入学者確保策が引き続き求められる。 ✓ 戦略Ⅵでは、定員確保に加え、補助金・寄付金・競争的資金の獲得を推進し、経営の

	安定化を図った。教職員数の抑制や予算管理の徹底により支出を抑制しつつ、柔軟な組織運営体制の整備が進んだ。引き続き、収支均衡と戦略的投資の両立が求められる。
(4) 経営資源の配分について	✓ 限られた経営資源の中で法人全体の持続的発展を図るべく、重点的かつ効率的な配分を推進した。教育・研究活動の質向上に資する設備更新として、各設置校におけるICT 機器の整備や老朽化施設の修繕を優先的に実施したほか、エネルギーコスト上昇に対応するため全施設へのLED 化を進めた。 ✓ 人件費については、退職者不補充による自然減を基本としつつ、教育の質を担保する観点から必要な人材の戦略的採用も行った。 ✓ 寄付金・受託事業収入等の外部資金を活用し、財政負担の軽減を図った。 ✓ 一方で、教育環境の改善要望が依然として多く、配分の優先順位や公平性の確保、成果の見える化が課題として残る。今後は、中期的視点に立った資源配分方針の明確化と、投資対効果の検証体制の整備が求められる。

Ⅲ. 財務の概要

1. 決算の概況

① 貸借対照表の状況の経年比較

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位:百万円)

	令和 2 (2020) 年度末	令和 3 (2021) 年度末	令和 4 (2022) 年度末	令和 5 (2023) 年度末	令和 6 (2024) 年度末
固定資産	14,338	14,575	14,482	14,316	13,931
流動資産	2,041	1,823	1,568	1,129	1,044
資産の部合計	16,379	16,398	16,050	15,445	14,976
固定負債	2,358	2,322	2,057	1,702	1,360
流動負債	1,278	1,272	1,442	1,432	1,279
負債の部合計	3,637	3,595	3,499	3,135	2,639
基本金	18,963	19,415	19,622	19,984	20,215
繰越収支差額	△6,221	△6,612	△7,071	△7,674	△7,878
純資産の部合計	12,742	12,803	12,551	12,310	12,337
負債および純資産の部合計	16,379	16,398	16,050	15,445	14,976

(備考)金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

イ) 財務比率の経年比較

(単位: %)

比率名	算式	令和 2 (2020) 年度末	令和 3 (2021) 年度末	令和 4 (2022) 年度末	令和 5 (2023) 年度末	令和 6 (2024) 年度末
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{事業活動支出}}$	19.3	17.8	14.1	11.1	18.1
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	159.7	143.3	108.7	78.8	81.6
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	22.2	21.9	21.8	20.3	17.6
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	414.3	364.4	316.6	222.0	201.6
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	96.9	96.1	97.8	98.7	99.4
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	48.3	43.6	38.0	30.3	27.0

(備考)「運用資産」＝ 現金預金＋特定資産＋有価証券

「外部負債」＝ 借入金＋学校債＋未払金＋手形債務

「要積立額」＝ 減価償却累計額＋退職給与引当金＋第 2 号基本金＋第 3 号基本金

② 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:百万円)

収入の部	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度末	令和 5 (2023) 年度末	令和 6 (2024) 年度末
学生生徒等納付金収入	3,945	3,804	3,802	3,873	3,765
手数料収入	59	59	60	54	54
寄付金収入	61	153	16	11	130
補助金収入	1,417	1,389	1,405	1,435	1,409
資産売却収入	0	0	61	1	94
付随事業・収益事業収入	351	386	334	322	379
受取利息・配当金収入	27	28	27	26	27
雑収入	183	181	188	230	200
借入金等収入	0	420	0	130	350
前受金収入	454	458	452	418	427
その他の収入	1,738	1,698	1,709	1,803	1,887
資金収入調整勘定	△621	△588	△582	△632	△574
前年度繰越支払資金	2,040	1,881	1,671	1,431	928
収入の部合計	9,654	9,870	9,142	9,103	9,077

支出の部	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度末	令和 5 (2023) 年度末	令和 6 (2024) 年度末
人件費支出	3,226	3,270	3,292	3,351	3,208
教育研究経費支出	1,562	1,474	1,574	1,607	1,485
管理経費支出	642	719	760	726	723
借入金等利息支出	24	22	18	15	14
借入金等返済支出	322	472	355	276	851
施設関係支出	183	470	170	196	104
設備関係支出	216	128	228	100	75
資産運用支出	24	55	0	0	0
その他の支出	1,828	1,818	1,816	2,217	2,010
資金支出調整勘定	△253	△229	△503	△314	△253
翌年度繰越支払資金	1,881	1,671	1,431	928	861
支出の部合計	9,654	9,870	9,142	9,103	9,077

(備考)金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:百万円)

科目	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度末	令和 5 (2023) 年度末	令和 6 (2024) 年度末
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	5,989	5,949	5,796	5,925	5,933
教育活動資金支出計	5,428	5,462	5,625	5,683	5,416
差引	561	487	171	241	517
調整勘定等	△2	△33	40	△90	△22
教育活動資金収支差額	560	453	211	151	495
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	24	23	8	2	5
施設整備等活動資金支出計	399	599	398	297	178
差引	△375	△576	△390	△295	△173
調整勘定等	△1	3	224	△203	△1
施設整備等活動資金収支差額	△375	△573	△166	△498	△174
小計(教育活動資金収支差額 ＋施設整備等活動資金収支差額)	185	△120	45	△347	321
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	1,615	1,536	1,670	1,853	2,172
その他の活動資金支出計	1,950	2,111	1,959	2,014	2,552
差引	△335	△102	△289	△160	△380
調整勘定等	△9	12	4	4	△7
その他の活動資金収支差額	△91	△91	△285	△157	△388
支払資金の増減額(小計＋その他の活動 資金収支差額)	△159	△210	△240	△503	△67
前年度繰越支払資金	2,040	1,881	1,671	1,431	928
翌年度繰越支払資金	1,881	1,671	1,431	928	861

(備考)金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

ウ) 財務比率の経年比較

(単位:%)

比率名	算式	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度末	令和 5 (2023) 年度末	令和 6 (2024) 年度末
教育活動資金収支差額 比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	9.4	7.6	3.6	2.5	8.3

③ 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位:百万円)

科目		令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度末	令和 5 (2023) 年度末	令和 6 (2024) 年度末
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	3,945	3,804	3,802	3,873	3,765
	手数料	59	59	60	54	54
	寄付金	63	154	16	12	131
	経常費等補助金	1,393	1,366	1,398	1,434	1,404
	付随事業収入	351	386	334	322	379
	雑収入	180	180	187	230	200
	教育活動収入計	5,991	5,950	5,797	5,925	5,934
	事業活動支出の部					
	人件費	3,261	3,301	3,295	3,376	3,242
	教育研究経費	1,941	1,880	1,989	2,037	1,919
	管理経費	669	748	796	768	770
	徴収不能額等	12	7	7	6	4
	教育活動支出計	5,884	5,936	6,086	6,188	5,935
	教育活動収支差額	107	14	△289	△263	△1
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	27	28	27	26	27
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	27	28	27	26	27
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	24	22	18	15	14
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	24	22	18	15	14
	教育活動外収支差額	3	6	9	10	13
経常収支差額		110	20	△280	△253	12
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	11	1	0
	その他の特別収入	49	42	22	13	21
	特別収入計	49	42	34	14	21
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	0	0	4	2	7
	その他の特別支出	1	1	2	0	0
	特別支出計	1	1	6	2	7
	特別収支差額	41	41	28	12	14
	基本金組入前当年度収支差額	157	61	△252	△241	26
基本金組入額合計		△445	△452	△214	△389	△250
当年度収支差額		△289	△392	△466	△630	△223
前年度繰越収支差額		△5,935	△6,221	△6,612	△7,071	△7,674
基本金取崩額		3	0	7	27	19
翌年度繰越収支差額		△6,221	△6,612	△7,071	△7,674	△7,878
(参考)						
事業活動収入計		6,066	6,019	5,858	5,965	5,982
事業活動支出計		5,910	5,958	6,110	6,205	5,956

(備考) 金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

イ) 財務比率の経年比較

(単位:%)

比率名	算式	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度	令和 4 (2022) 年度末	令和 5 (2023) 年度末	令和 6 (2024) 年度末
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入(※)}}$	54.2	55.2	56.6	56.7	54.4
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入(※)}}$	32.3	31.5	34.2	34.2	32.2
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入(※)}}$	11.1	12.5	13.7	12.9	12.9
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	2.6	1.0	△4.3	△4.0	0.4
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入(※)}}$	65.8	63.6	65.3	65.1	63.2
経常収支差差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入(※)}}$	1.8	0.3	△4.8	△4.3	0.2

(備考)※「経常収入」＝ 教育活動収入＋教育活動外収入

2.その他

① 有価証券の状況

<総括表>

(単位:百万円)

種類			
	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	112	166	54
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	536	452	△84
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
合計	648	618	△30
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
時価のない有価証券	852		
有価証券合計	1,499		

(備考)金額は種類ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

<明細表>

(単位:百万円)

種類			
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	330	299	△31
株式	112	166	54
投資信託	206	153	△53
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合計	648	618	△30
時価のない有価証券	852		
有価証券合計	1,499		

(備考)金額は種類ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

② 借入金の状況

(単位:百万円)

借入先	期末残高	利率	返済期限
十八親和銀行 浜田町支店	144	1.05%	令和 13(2031)年 1月 6日
〃	81	0.50%	令和 8(2026)年 9月 30日
〃	244	0.60%	令和 23(2041)年 7月 1日
〃	104	0.85%	令和 15(2033)年 3月 31日
十八親和銀行 佐世保中央支店	69	2.50%	令和 8(2026)年 1月 5日
〃	248	0.95%	令和 11(2029)年 1月 4日
〃	81	0.50%	令和 8(2026)年 9月 30日
三井住友銀行 佐賀支店	71	短プラ+0.95	令和 8(2026)年 3月 31日
合計	1,041		

③ 学校債の状況

該当なし

④ 寄付金の状況

(単位:千円)

寄付金の種類	寄付者	金額	摘要
運営経費・研究助成金	企業・任意団体	101,600	
上記以外のその他の寄付金	校友、父母、篤志家等	28,606	
現物寄付(上記寄付金を除く)		17,267	

⑤ 補助金の状況

✓ 様々な補助金獲得に向け、各部門とも推進した結果、前年度比 98.2%と減少した。国の予算減少等に伴う、圧縮傾向に憂慮している。

⑥ 収益事業の状況

✓ 該当なし

⑦ 関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者

✓ 関連当事者は、理事1人との間で土地の賃借の賃貸契約があり、関係法人は2社あり、施設設備の賃貸契約等を締結している。また役員の近親者と顧問契約をそれぞれ理事会の審議承認の上、締結している。

イ) 出資会社

当学校法人の出資割合が総出資額の2分の1以上である会社の状況は次のとおりである。

(i) ザ・グローバルズ株式会社

① 事業内容	ホテル・旅館の経営、レストラン・飲食店・売店の経営、学校・病院・福祉施設及びその付帯施設の管理・清掃・警備業務、研究・教育機器及びそれらの備品・書籍・教材等の販売・リース業、他			
② 資本金	40,000,000 円 (800 株)			
③ 学校法人の出資金額等及び当該会社の総株式等に占める割合、並びに当該株式の入手日				
平成 17(2005)年 1 月 26 日	8,500,000 円	170 株	85.00 %	
平成 17(2005)年 4 月 6 日	30,000,000 円	600 株	96.25 %	
平成 18(2006)年 1 月 19 日	1,500,000 円	30 株	100.00 %	
④ 当期中に学校法人が当該会社から受け入れた配当金及び寄付の金額、並びにその他の取引の額				
イ. 事務所賃借料	2,092,000 円			
ロ. 支払手数料他	55,958,846 円			
ハ. 未払金	10,000,000 円			
⑤ 当該会社の債務に係る保証債務	学校法人は当該会社について債務保証を行っていない。			

(ii) ケイ・エム・サポート株式会社

① 事業内容	不動産賃貸、売買、仲介斡旋、管理業務、病院・福祉施設の経営、病院・福祉施設及びその付帯施設の管理、清掃、警備業務、医療機器・同器具及びそれらの備品の販売・リース業他			
② 資本金	100,000,000 円 (他に資本準備金 1,101,000,000 円、24,020 株)			
③ 学校法人の出資金額等及び当該会社の総株式等に占める割合、並びに当該株式の入手日				
平成 18(2006)年 7 月 21 日	800,000,000 円	16,000 株	66.61 %	
平成 28(2016)年 3 月 25 日	1,000,000 円	20 株	66.69 %	
④ 当期中に学校法人が当該会社から受け入れた配当金及び寄付の金額、並びにその他の取引の額				
イ. 受取利息・配当金	12,000,000 円			
ロ. 備品・消耗品費他	31,399,100 円			
ハ. 未払金	40,000,000 円			
⑤ 当該会社の債務に係る保証債務	学校法人は当該会社について債務保証を行っていない。			

(iii) 南風崎MGレジデンス株式会社

① 事業内容	不動産賃貸、業務仲介斡旋、借上げ寮の運営、日本語学校「長崎日本語学院」の運営		
② 資本金	1 円 (普通株式 1,600 株)		
③ 学校法人の出資金額等及び当該会社の総株式等に占める割合、並びに当該株式の入手日	令和 3(2021)年 3 月 8 日	1 円	1,600 株 100.00 %
④ 当期中に学校法人が当該会社から受け入れた配当金及び寄付の金額、並びにその他の取引の額			
イ. 自販機電気料	362,177 円		
ロ. 支払手数料他	148,202,250 円		
ハ. 未払金	20,000,000 円		
⑤ 当該会社の債務に係る保証債務	学校法人は当該会社について債務保証を行っていない。		

⑧ 学校法人間財務取引

該当なし

3.経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

項目	取組の実績・成果・課題
(1) 経営状況の分析	✓ 令和 6(2024)年度における経営状況は、教育活動資金収支差額比率 8.3%、事業活動収支差額比率 0.4%、経常収支差額比率 0.2%と、前年度の赤字傾向から脱却し、収支黒字への転換を果たした点が大きな成果である。これは、寄付金収入や補助金の確保、経費支出の見直し、短期借入および有価証券の一部売却といった資金繰り対策が奏功した結果である。また、運用資産余裕比率や積立率は依然として低水準であり、健全な財政構造の回復には中長期的視点に立った改善が求められる。今後は、収入源の多様化と財務指標の更なる改善を通じて、安定的かつ持続可能な経営体制の構築を目指す必要がある。
(2) 経営上の成果と課題	✓ 令和 6(2024)年度における経営上の大きな成果は、赤字構造からの脱却を実現し、経常収支差額を黒字に回復させた点である。特に、寄付金収入の増加や補助金の戦略的な獲得など外部資金の獲得は、収入基盤の強化に大きく寄与した。また、電力契約の見直しと LED 化や教員住宅の集約による固定費削減、教職員数の適正化など、支出面での合理化も進められた。これらの取組により、教育活動に必要な経営資源の一定の確保と投資余力の創出が可能となった。一方で、運転資金の逼迫状況は継続している。加えて、一部設置校における定員充足率の低迷や、少子化による中長期的な学生確保の不安定性は、法人全体の財政に影響を及ぼすリスクとして残存している。今後は、構造的な経営改善を継続するとともに、収入多角化と支出戦略の最適化を並行して進めることが不可欠である。
(3) 今後の方針・対応方策	✓ 今後の方針としては、令和 6(2024)年度に得られた収支改善の成果を一過性のものとせず、持続可能な財務体制の構築に向けた中長期的な取組を推進することが必要である。まず、定員充足率の向上を最重要課題と位置づけ、設置校ごとの強みを生かした広報マーケティング戦略と内部進学促進策を強化する。また、競争的資金や寄付金、受託研究など外部資金の獲得拡大を継続し、自主財源比率の引き上げを図る。支出面では、教職員体制の見直しと業務の効率化を進めつつ、教育・研究環境への戦略的投資は維持し、教育の質と法人価値の向上を目指す。さらに、財務指標の定期的なモニタリングと資金繰りの可視化により、リスク管理の高度化を図る。今後も、ガバナンスの強化とともに、柔軟かつ機動的な組織運営を通じて、経営の健全化と社会的信頼の確立を実現していく。

IV. 令和6年度 計算書類

- | | |
|----------------|---------|
| 1. 資金収支計算書 | 別紙1のとおり |
| 2. 活動区分資金収支計算書 | 別紙2のとおり |
| 3. 事業活動収支計算書 | 別紙3のとおり |
| 4. 貸借対照表 | 別紙4のとおり |
| 5. 財産目録 | 別紙5のとおり |

別紙 1

1.資金収支計算書

令和 6(2024)年 4 月 1 日から
令和 7(2025)年 3 月 31 日まで

(単位：円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,777,921,000	3,765,379,930	12,541,070
手数料収入	54,802,000	54,318,130	483,870
寄付金収入	128,751,000	130,205,687	△1,454,687
補助金収入	1,401,735,000	1,409,248,236	△7,513,236
国庫補助金収入	741,336,000	743,338,154	△2,002,154
地方公共団体補助金収入	473,503,000	462,380,296	11,122,704
その他補助金収入	186,896,000	203,529,786	△16,633,786
資産売却収入	123,738,000	93,738,007	29,999,993
付随事業・収益事業収入	363,148,000	379,279,371	△16,131,371
受取利息・配当金収入	26,606,000	26,558,807	47,193
雑収入	194,804,000	199,726,249	△4,922,249
借入金等収入	350,000,000	350,000,000	0
前受金収入	405,241,000	426,916,710	△21,675,710
その他の収入	1,700,422,348	1,886,962,677	△186,540,329
資金収入調整勘定	△563,450,945	△573,591,139	10,140,194
前年度繰越支払資金	927,902,021	927,902,021	0
収入の部合計	8,891,619,424	9,076,644,686	△185,025,262
支出の部			
人件費支出	3,227,956,000	3,207,781,366	20,174,634
教育研究経費支出	1,538,614,000	1,485,280,611	53,333,389
管理経費支出	755,399,000	723,395,439	32,003,561
借入金等利息支出	13,715,000	13,711,537	3,463
借入金等返済支出	850,500,000	850,500,000	0
施設関係支出	97,690,000	103,620,210	△5,930,210
設備関係支出	84,623,000	74,744,275	9,878,725
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	1,841,372,386	2,009,726,631	△168,354,245
〔予備費〕	10,000,000		10,000,000
資金支出調整勘定	△266,567,773	△253,162,824	△13,404,949
翌年度繰越支払資金	738,317,811	861,047,441	△122,729,630
支出の部合計	8,891,619,424	9,076,644,686	△185,025,262

別紙 2

2.活動区分資金収支計算書

令和 6(2024)年 4 月 1 日から
令和 7(2025)年 3 月 31 日まで

(単位：円)

		科 目	金 額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	3,765,379,930
		手数料収入	54,318,130
		特別寄付金収入	130,000,960
		一般寄付金収入	204,727
		経常費等補助金収入	1,404,194,236
		付随事業収入	379,279,371
		雑収入	199,722,279
		教育活動資金収入計	5,933,099,633
	支出	人件費支出	3,207,781,366
		教育研究経費支出	1,485,280,611
		管理経費支出	723,213,739
		教育活動資金支出計	5,416,275,716
		差引	516,823,917
		調整勘定等	△22,086,131
		教育活動資金収支差額	494,737,786
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	0
		施設設備補助金収入	5,054,000
		施設設備売却収入	0
		第 2 号基本金引当特定資産取崩収入	0
		施設整備等活動資金収入計	5,054,000
	支出	施設関係支出	103,620,210
		設備関係支出	74,744,275
		第 2 号基本金引当特定資産繰入支出	0
		施設整備等活動資金支出計	178,364,485
		差引	△173,310,485
		調整勘定等	△598,310
		施設整備等活動資金収支差額	△173,908,795
		小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	320,828,991
その他の活動による資金収支	収入	借入金等収入	350,000,000
		有価証券売却収入	93,738,007
		第 3 号基本金引当特定資産取崩収入	0
		預り金受入収入	1,679,658,405
		立替金回収収入	13,154,518
		仮払金回収収入	8,401,229
		敷金回収収入	0
		小計	2,144,952,159
		受取利息・配当金収入	26,558,807
		収益事業収入	0
		過年度修正収入	3,970
		その他の活動資金収入計	2,171,514,936
	支出	借入金等返済支出	850,500,000
		有価証券購入支出	0
		第 3 号基本金引当特定資産繰入支出	0
		収益事業元入金支出	0
		預り金支払支出	1,663,187,231
		立替金支払支出	16,029,175
		仮払金支払支出	8,391,229
		小計	2,538,107,635
		借入金等利息支出	13,711,537
		過年度修正支出	181,700
		その他の活動資金支出計	2,552,000,872
		差引	△380,485,936
		調整勘定等	△7,197,635
		その他の活動資金収支差額	△387,683,571
		支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△66,854,580
		前年度繰越支払資金	927,902,021
		翌年度繰越支払資金	861,047,441

別紙 3

3.事業活動収支計算書

令和 6(2024)年 4 月 1 日から
令和 7(2025)年 3 月 31 日まで

(単位：円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		学生生徒等納付金	3,777,921,000	3,765,379,930	12,541,070
		手数料	54,802,000	54,318,130	483,870
		寄付金	128,956,000	131,131,288	△2,175,288
		経常費等補助金	1,396,735,000	1,404,194,236	△7,459,236
		国庫補助金	741,336,000	738,284,154	3,051,846
		地方公共団体補助金	468,503,000	462,380,296	6,122,704
		その他補助金	186,896,000	203,529,786	△16,633,786
		付随事業収入	363,148,000	379,279,371	△16,131,371
		雑収入	194,800,000	199,722,279	△4,922,279
		教育活動収入計	5,916,362,000	5,934,025,234	△17,663,234
		事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算
	人件費		3,261,958,000	3,241,785,646	20,172,354
	教育研究経費		1,971,408,000	1,919,044,164	52,363,836
管理経費	801,578,000		769,558,739	32,019,261	
徴収不能額等	5,010,000		4,307,890	702,110	
教育活動支出計	6,039,954,000		5,934,696,439	105,257,561	
教育活動収支差額	△123,592,000		△671,205	△122,920,795	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	26,606,000	26,558,807	47,193
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	26,606,000	26,558,807	47,193
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金等利息	13,715,000	13,711,537	3,463
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	13,715,000	13,711,537	3,463
教育活動外収支差額		12,891,000	12,847,270	43,730	
経常収支差額		△110,701,000	12,176,065	△122,877,065	
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産売却差額	7,140,000	0	7,140,000
		その他の特別収入	16,029,000	21,399,001	△5,370,001
		特別収入計	23,169,000	21,399,001	1,769,999
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	6,262,000	6,942,640	△680,640
		その他の特別支出	150,000	181,700	△31,700
		特別支出計	6,412,000	7,124,340	△712,340
	特別収支差額		16,757,000	14,274,661	2,482,339
[予備費]		10,000,000		10,000,000	
基本金組入前当年度収支差額		△103,944,000	26,450,726	△130,394,726	
基本金組入額合計		△350,828,000	△249,591,779	△101,236,221	
当年度収支差額		△454,772,000	△223,141,053	△231,630,947	
前年度繰越収支差額		△7,674,149,695	△7,674,149,695	0	
基本金取崩額		0	19,496,633	△19,496,633	
翌年度繰越収支差額		△8,128,921,695	△7,877,794,115	△251,127,580	
(参考)					
事業活動収入計		5,966,137,000	5,981,983,042	△15,846,042	
事業活動支出計		6,070,081,000	5,955,532,316	114,548,684	

別紙 4

4.貸借対照表

令和 7(2025)年 3 月 31 日

(単位：円)

資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	(13,931,091,495)	(14,316,191,278)	(△385,099,783)
有形固定資産	< 12,411,794,746 >	< 12,707,260,819 >	< △295,466,073 >
土地	4,352,171,857	4,352,171,857	0
建物	6,196,320,343	6,362,414,337	△166,093,994
その他の有形固定資産	1,863,302,546	1,992,674,625	△129,372,079
特定資産	< 0 >	< 0 >	< 0 >
その他の固定資産	< 1,519,296,749 >	< 1,608,930,459 >	< △89,633,710 >
流動資産	(1,044,453,342)	(1,128,707,007)	(△84,253,665)
現金預金	861,047,441	927,902,021	△66,854,580
その他の流動資産	183,405,901	200,804,986	△17,399,085
資産の部合計	14,975,544,837	15,444,898,285	△469,353,448
負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	(1,360,251,393)	(1,702,080,437)	(△341,829,044)
長期借入金	666,000,000	1,041,200,000	△375,200,000
その他の固定負債	694,251,393	660,880,437	33,370,956
流動負債	(1,278,508,050)	(1,432,483,180)	(△153,975,130)
短期借入金	375,200,000	500,500,000	△125,300,000
その他の流動負債	903,308,050	931,983,180	△28,675,130
負債の部合計	2,638,759,443	3,134,563,617	△495,804,174
純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基本金	(20,214,579,509)	(19,984,484,363)	(230,095,146)
第 1 号基本金	19,768,579,509	19,538,484,363	230,095,146
第 2 号基本金	0	0	0
第 3 号基本金	0	0	0
第 4 号基本金	446,000,000	446,000,000	0
繰越収支差額	(△7,877,794,115)	(△7,674,149,695)	(△203,644,420)
翌年度繰越収支差額	△7,877,794,115	△7,674,149,695	△203,644,420
純資産の部合計	12,336,785,394	12,310,334,668	26,450,726
負債及び純資産の部合計	14,975,544,837	15,444,898,285	△469,353,448

別紙 5

5.財産目録

令和 7(2025)年 3 月 31 日現在

I	資産総額	14,975,544,837	円
	内 基本財産	12,428,026,276	円
	運用財産	2,547,518,561	円
II	負債総額	2,638,759,443	円
III	正味財産	12,336,785,394	円

区分	金額
資産額	
1. 基本財産	12,428,026,276 円
土地	206,867.19 m ² 4,352,171,857 円
建物	67,592.86 m ² 6,196,320,343 円
教具・校具・備品	9,825 点 871,952,785 円
図書	135,143 冊 554,095,632 円
その他	453,485,659 円
2. 運用財産	2,547,518,561 円
現金預金	861,047,441 円
その他	1,686,471,120 円
資産総額	14,975,544,837 円
負債額	
1. 固定負債	1,360,251,393 円
長期借入金	666,000,000 円
その他	694,251,393 円
2. 流動負債	1,278,508,050 円
短期借入金	375,200,000 円
その他	903,308,050 円
負債総額	2,638,759,443 円
正味財産(資産総額－負債総額)	12,336,785,394 円